

岩手県文化財調査報告書 第126集

岩手県内遺跡発掘調査報告書  
(平成18年度)

平成20年3月

岩手県教育委員会



## 序 文

埋蔵文化財は、私たちの祖先より培われてきた貴重な歴史的財産であり、国民共有の財産であります。教育や文化等の内面的な充実が求められるなか、人々の埋蔵文化財を含む文化財に対する関心は高まりを見せてています。先人の残したかけがえのない埋蔵文化財を、文化財保護法の理念に基づき活用し、後世に伝えていくことは現代に生きる私たちの責務であります。

しかし、埋蔵文化財は近年の大規模な開発事業等により現状保存をすることが難しくなっております。このような状況のなかで、埋蔵文化財保護と各種開発事業との円滑な調整を図るために遺跡の性格や所在地、範囲を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年度より遺跡の分布調査を実施しているところであります。現在、県内で確認されている遺跡数は1万2千近くにも上ります。これらの遺跡を広く周知する必要があるとともに、開発事業との調整の中で行った発掘調査の記録や、遺跡の範囲及び内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにする必要があると考え、平成元年度からこれらの報告書を刊行しております。

本報告書は、平成18年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果をまとめたものです。本報告書が県内遺跡の内容把握に活用され、文化財の保護に寄与することがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、ご指導とご協力をいただきました多くの方々に対し心より感謝申し上げます。

平成20年3月

岩手県教育委員会

教育長 相澤 徹

# 目次

序文

目次

例言

## I 発掘調査

1 一般県道二戸一戸線堀野地区工事（堀野遺跡群）	3
2 経営体育成基盤整備事業白山地区（道上遺跡）	5
3 経営体育成基盤整備事業中寺林地区（八幡Ⅱ・Ⅲ遺跡）	7
4 経営体育成基盤整備事業都鳥地区（牡丹野遺跡）	9
5 経営体育成基盤整備事業江刺西部地区（沼尻遺跡）	15
6 経営体育成基盤整備事業江釣子第1地区（下糠塚古館遺跡）	20
7 経営体育成基盤整備事業南日詰地区（南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡）	23
8 岐立花巻厚生・北上病院統合整備事業（蒲沢遺跡）	29
9 緊急地方道整備事業（境遺跡）	31
10 北上川上流域下水道事業（下芋田遺跡）	33
11 地域振興支援道路ネットワーク整備事業要害地区（清田台遺跡）	35

## II 試掘調査

1 いさわダム建設事業（大平野Ⅱ遺跡）	41
2 いさわダム建設事業（坪淵Ⅰ・Ⅱ遺跡）	42
3 東北横断自動車道（遠野～東和間）新直轄事業（倉沢3区Ⅰ遺跡）	43
4 東北横断自動車道（遠野～東和間）新直轄事業（倉沢3区Ⅱ遺跡）	44
5 東北横断自動車道（遠野～東和間）新直轄事業（羽黒田遺跡）	45
6 東北横断自動車道（遠野～東和間）新直轄事業（中嶋遺跡）	46
7 一般国道盛岡西バイパス改築工事（矢盛遺跡）	47
8 一般国道盛岡西バイパス改築工事（細谷地遺跡）	48
9 一般国道106号郡南川目道路改築工事（川目A遺跡）	49
10 一般国道4号平泉バイパス改築工事（瀬原Ⅱ遺跡）	50
11 国营いさわ南部農地整備事業（岩洞堤遺跡）	51
12 馬淵川沿岸農業水利事業（上町遺跡）	52
13 農用地総合整備事業下閉伊北地区（割沢遺跡）	53
14 一般国道106号梁川道路起点部改良工事（上伸遺跡）	54
15 一般国道106号郡南川目道路改築工事（小屋野遺跡）	55
16 松園養護学校整備事業（松園敷遺跡）	56
17 主要地方道花巻北上線東十二丁目地区側溝設置工事（小袋遺跡）	57
18 直轄河川改修事業北上川上流石鳥谷築堤（小館遺跡）	58
19 中山間地域総合整備事業町井地区（徳島遺跡）	59
20 緊急地方道整備事業（雨滝（舌崎A）遺跡）	60
21 緊急地方道整備事業（齊羽湯館遺跡）	61
22 地域道路整備事業（野田I遺跡）	62

23	緊急地方道整備事業（成田岩田堂館遺跡）	63
24	経営体育成基盤整備事業和賀中部第5地区（下成沢Ⅱ遺跡）	64
25	経営体育成基盤整備事業更木新田地区（中の屋敷Ⅱ遺跡）	65
26	経営体育成基盤整備事業更木新田地区（戸桜遺跡）	66
27	緊急地方道整備事業（岡島遺跡）	67
28	経営体育成基盤整備事業更木新田地区（舟渡Ⅰ遺跡）	68
29	主要地方道花巻北上線平沢地区歩道設置工事（湯沢Ⅰ遺跡）	70
30	経営体育成基盤整備事業古城地区（安久沢東遺跡）	71
31	経営体育成基盤整備事業古城地区（下町遺跡）	73
32	経営体育成基盤整備事業白山地区（合野遺跡）	74
33	経営体育成基盤整備事業白山地区（道上遺跡）	75
34	経営体育成基盤整備事業満倉地区（崩田遺跡）	76
35	経営体育成基盤整備事業江刺西部地区（広岡前・広岡前Ⅱ遺跡）	77
36	地方特定道路整備事業（宝禄遺跡）	78
37	一闊過水池事業（鶴の木遺跡）	79
38	経営体育成基盤整備事業白山地区（白山上野遺跡）	80
39	経営体育成基盤整備事業浜民地区（伊勢堂Ⅲ遺跡）	81
40	経営体育成基盤整備事業浜民地区（観音寺遺跡）	82
41	一般国道342号嚴美バイパス道路改築工事（上野Ⅰ・Ⅱ遺跡）	83
42	一般国道342号嚴美バイパス道路改築工事（上野Ⅱ・Ⅲ遺跡）	84
43	一般国道342号道路改築工事（五輪堂遺跡）	85
44	一般国道342号道路改築工事（中村城跡）	86
45	道路改築事業（松山大地田沢遺跡）	87
46	緊急地方道整備事業（森崎遺跡）	88
47	経営体育成基盤整備事業鷹川左岸地区（森の下Ⅱ遺跡）	89
48	地方道路整備事業（主要地方道一戸山形線来田地区）（似平Ⅱ遺跡）	90
49	都市計画道路上野西法寺線跡森地区（野田城跡）	91
50	速野第二生活貯水池建設事業（夫婦石袖高野遺跡）	92
51	緊急地方道整備事業（本波瀬遺跡）	93
52	一般農道整備事業大川日地区（外里遺跡）	94
53	経営体育成基盤整備事業南日詰地区（下川原Ⅰ遺跡）	95
54	経営体育成基盤整備事業南日詰地区（南日詰八坂遺跡）	96
55	経営体育成基盤整備事業南日詰地区（南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡）	97
56	一般県道盛岡石鳥谷線上平沢地区道路拡幅工事（南七合Ⅰ遺跡）	98
57	農用地総合整備事業下閉伊北地区（二升石大根遺跡）	99
	試掘調査出土遺物	100
	発掘調査・試掘調査・分布調査一覧	105

# 例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成18年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25000地形図を原寸大を原則として、改変したものである。遺構及びトレンチ配置図は、各事業者より入手した地形図を原図として作成したものである。
- 4 発掘調査については、概略を記した。また、北上市金附遺跡隣接地（緊急地方道整備事業）、一関市源八遺跡（広域農道整備事業東磐井地区）、遠野市宇南田Ⅰ遺跡（経営体育成基盤整備事業猫川左岸地区）、北上市仙人駅前遺跡は調査内容から、遺物及び一覧表のみの掲載をしている。
- 5 試掘調査に係る遺跡の推定範囲をアミ掛けで示し、試掘トレンチは実線で示している。
- 6 本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の高橋一浩、首常久、花坂政博、櫻井友梓、羽柴直人が担当した。また、平泉町内の調査等は生涯学習文化課柳之御所担当が担当した。
- 7 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

# I 発掘調査



## 1 一般県道二戸一戸線堀野地区

### 交通安全施設整備事業

堀野遺跡群 (IF90-0000)

所在地：二戸市堀野

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成18年6月22日㈭、23日㈮、6月26日㈪

～30日㈮、7月3日㈪～6日㈭

本遺跡は、二戸市役所の北北東約2.4kmに位置し、馬淵川右岸の河岸段丘上に立地している。今回の調査は道路付け替え工事及び歩道、道路舗装改築工事予定箇所である。平成17年度に試掘調査を行い、縄文時代後期の土器片や焼土等が確認されたことから、本調査が必要であると判断した箇所である。堀野遺跡はこれまで岩手大学や二戸市教育委員会による発掘調査が行われており、縄文時代の配石遺構や7世紀代と考えられる集落跡が検出されている。

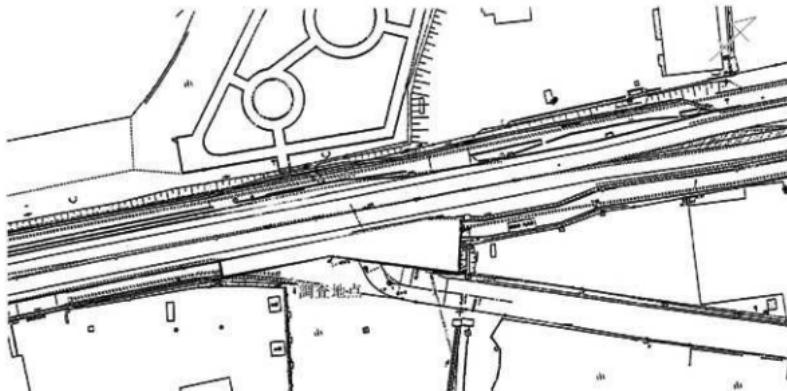
調査区の基本層序は、第Ⅰ層が盛土層で層厚が70cm、第Ⅱ層が黒褐色土層で層厚が30cm、第Ⅲ層が黒褐色土層で層厚20cm、第Ⅳ層が黒褐色土層で層厚20cm、第Ⅴ層が地山層とみられる黄褐色土層である。

発掘調査では、遺構等は確認されなかつたが、複数の遺物包含層が確認された。遺物は第Ⅱ層から土器片が検出されたが、出土量も少なく、器形を復元できるものはなかった。第Ⅲ層、第Ⅳ層からはいずれも縄文後期の土器片が検出されたほか、石器類も検出された。縄文土器は鉢、壺などがある。1は縄文時代後期の壺で、器高は14cm程度とみられる。体部に平行沈線で文様が施されている。11は磨製石斧で、長さ約4.5cm、幅2.5cmで刃部は破損している。

いずれの層でも焼土や炭化物等は確認されず、遺構等は検出されなかつた。今回の調査区では、遺物包含層が北東に傾斜しており、調査区北東部は水成堆積とみられる黒色土層が広く堆積していたことから、その洪筋に包含した遺物であったと考えられる。調査区南西の、現在公園となっている範囲で集落城が検出されていることから、今回の調査範囲は、集落の端部から沢に傾斜する箇所で、一部の土層に縄文土器等が含まれたものと判断できる。



第1図 堀野遺跡位置図



第2図 堀野遺跡調査区位置図



第3図 堀野遺跡調査区・出土遺物

## 2 経営体育成基盤整備事業 白山地区

道上遺跡 (NE47-0045)

所在地：奥州市前沢区白山字道上

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：工事立会：平成19年1月10日(祝)

発掘調査：平成19年2月6日㈭～2月7日

(木)

道上遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南東2.3kmの、北上川右岸に形成された沖積地上の微高地に立地している。遺跡の標高は31m前後を測り、現況は農道となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、平成16年度の当課による試掘調査を経て、平成18年度に岩手県文化振興事業団理蔵文化財センターが本発掘調査を行った区域の隣接箇所である。生活道路となっている現道下の調査範囲であり、工事立会とした範囲であったが、遺構等が確認されたことから本調査を実施した。

調査区の基本土層は、第Ⅰ層が近代の盛土層で層厚30～40cm、第Ⅱ層が旧水田耕作土とみられる暗褐色土層で層厚は5～10cm、第Ⅲ層が地山とみられる黄褐色土層である。第Ⅲ層の上面で遺構等を検出している。

時期不明の土坑1基、古代の柱穴状土坑1基を検出した。検出した土坑は、径は一つの半径が54cmの規模で、梢円形とみられるが、もう一辺の半径は調査区外に伸びるため不明である。深さは15cmで、埋土は単層である。遺物が出土していないため、時期は不明である。柱穴状遺構は径が20×20cm程の円形である。柱痕跡等は確認されなかった。埋土は単層である。埋土中から、摩滅が著しいもの土器片が1点出土している。遺物の特徴から、9世紀中葉以降の遺構と考えられる。ただしこれに組み合ふとみられる柱穴等は今回の調査区内からは確認されておらず、調査区外に延びるものとみられる。

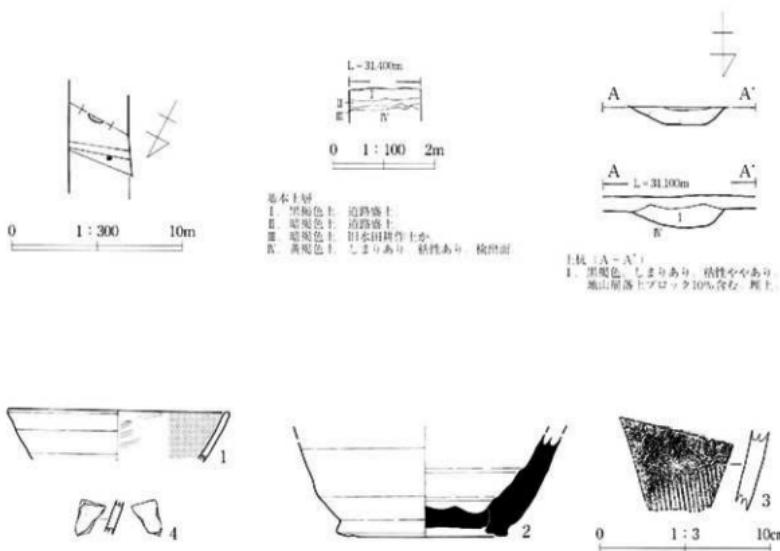
今回の調査区は水田として開拓され利用された後、農道として利用されている箇所であり、水田造成時に大きく地形改変を受けている箇所であった。そのため、遺物の出土は少なく、遺構も土坑1基と柱穴1基に



第4図 道上遺跡位置図



第5図 道上遺跡調査区位置図



道上遺跡掲載遺物観察表

番号	出土位置	附 望	種 別	器 物	特 質
1			上部器	杯	内外面クロロ目 内里→ミガキ
2			須恵器	壺	裏の底部 高台付 内外面に自然釉
3			陶器	壺	中世陶器
4			陶器	壺	榮付

#### 第6図 道上遺跡検出遺構・出土遺物

とどまった。ただし、周囲の調査状況等から、本遺跡は古代の集落跡で、微高地の範囲に広がる遺跡とみられる。また埋蔵文化財センターによる調査結果や、周辺から第6図3などの遺物が表掲されていること、そのほかにも中世の遺物も出土していることから、古代から中世にかけての遺跡なるとみられる。ここでは、近接地点の試掘調査や分布調査により出土した遺物と表面採集した遺物も掲載した。1は9世紀とみられるロクロ土師器壺の口縁部の破片で、内面は黒色処理後ミガキ調整されている。今回の本調査範囲で出土したものである。2は須恵器長頸壺の底部である。内外面に自然釉が釉着している。出土地点は平成19年度に埋蔵文化財センターが調査した地点に近接する範囲である。3は中世の涅美窯の陶器である。外面はタキがみられる。今回の調査範囲の北側の旧河道とみられる範囲で出土したもので、周囲からの遺物とみられる。

堀野遺跡掲載遺物観察表

番号	出土地點	附 望	種 別	器 物	特 質
1	遺物混合層	縄文土器	壺		後期
2	遺物混合層	縄文土器	鉢		後期
3	遺物混合層	縄文土器	鉢		後期
4	遺物混合層	縄文土器	鉢		後期
5	遺物混合層	縄文土器	鉢		後期
6	遺物混合層	縄文土器	鉢		後期
7	遺物混合層	縄文土器	鉢		後期
8	遺物混合層	縄文土器	鉢		後期
9	遺物混合層	縄文土器	鉢		後期
10	遺物混合層	縄文土器	鉢	内外面サザ	
11	遺物混合層	石器	磨製石斧	(31.6 g)	
12	遺物混合層	石器	石刀	(535.7 g)	

### 3 経営体育成基盤整備事業中寺林地区

八幡II遺跡 (LE96-1287)

八幡III遺跡 (LE96-2227)

所在地：花巻市石鳥谷町中寺林地内

事業者：県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成18年8月28日(土)～30日(祝)

本遺跡は花巻市役所石鳥谷総合支所の南西約1.4km、北上川の支流耳取川と葛丸川に挟まれた河岸段丘上に立地し、標高は95m前後を測る。今回の調査はは場整備事業に係るもので、バイオライン設置箇所が対象である。

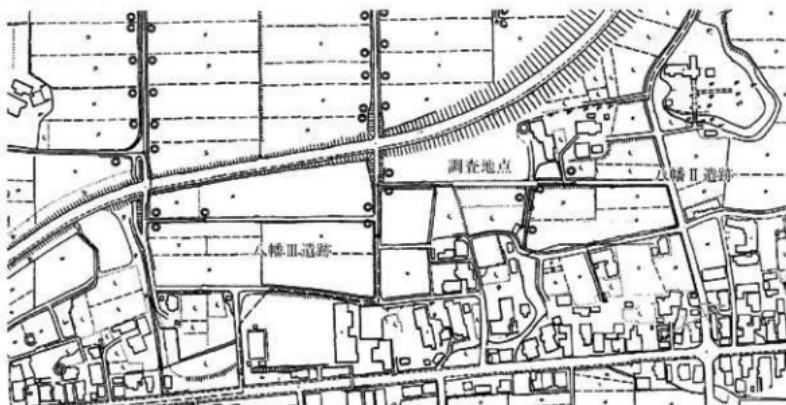
調査にあたっては重機で表土、盛土を除去した後、精査を行った。調査区の基本層序は第I層が盛土層で層厚が100～120cm、第II層が地山層とみられる黄褐色土層である。

調査では、溝跡2条、柱穴状土坑1基の遺構が確認された。溝跡2条のうち、SD1溝跡は調査区中央やや南側より検出された。規模は幅200cm、深さ80cm、長さ260cm以上で、方向は北西～南東である。埋土は3層に分けられる。SD2溝跡は調査区中央やや北側で検出された。規模は幅110cm、深さ100cm、長さは500cm以上で、方向は南西～北東である。いずれも時期は不明である。また柱穴状遺構はSD1溝跡の北4mの地点で検出された。規模は径40×50cm、深さ40cmほどであった。埋土は単層で、黒褐色土層に黄褐色のロームブロックが混入している。須恵器片が1点出土している。須恵器は甕の体部上半部の破片で、内外面ともにクロコナデである。出土遺物は前述した柱穴状遺構からの遺物以外は全て遺構外からの出土であるが、平安時代の土師器及び須恵器、また18世紀の肥前産の陶磁器が数点出土している。3は花生、7は椀の口縁部である。

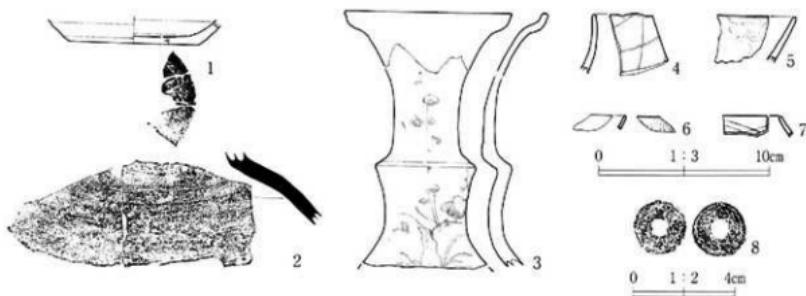
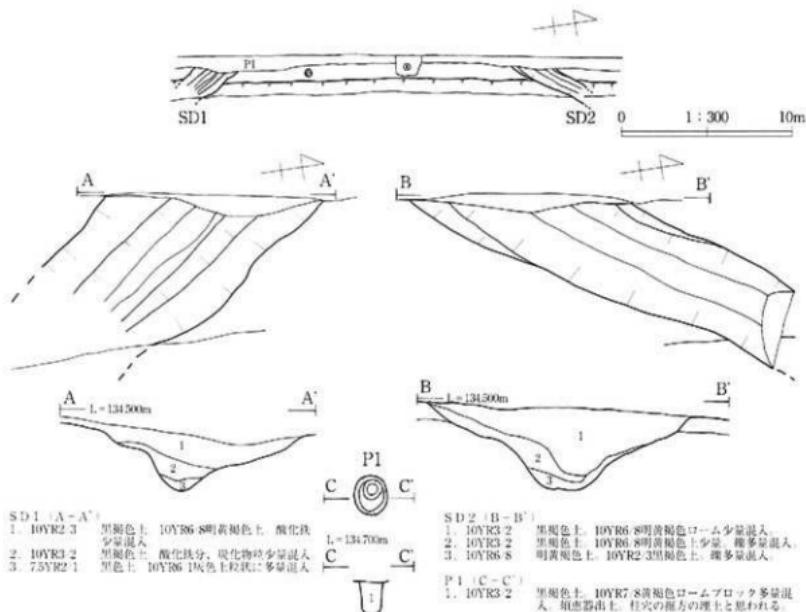
今回の調査の結果、検出された遺構のうちSD1溝跡は調査区外の北西及び南東部に、またSD2溝跡は調査区外の北東及び南西部に伸びるものと見られる。SD1とSD2溝跡は角度や埋土の状況から調査区の西側でつながる可能性があり、検出された柱穴状遺構も2条の溝跡がつながるとすれば溝の内側に所在していたことになる。また乱土の中からではあるが近世の陶磁器の出土も見られることがから、2条の溝跡は近世の屋敷を開む環濠的な性格を持つものであった可能性が高いものとみられる。古代の地形面については道路整備やは場整備等でたびたび改変を受けており、部分的に残っていた旧表土面から当該時期の土器が出土したものと考えられる。



第7図 八幡II・III遺跡位置図



第8図 八幡II・III遺跡調査区位置図



八幡 II・III 遺跡発掘調査物観察表

番号	出土地点	刷 磨	種 別	器 物	特 徴
1		上磨器	坏		内外面ロクロ目。
2		埴地器	瓦		内外面ロクロ目。
3		陶瓶器	花生		肥前 18C
4		陶罐器	瓶		内面染付。
5		陶瓶器	瓶		染付。
6		陶罐器	瓶		内面染付。
7		陶瓶器	瓶		肥前 18C
8		金属製品	残片		寛永通宝?

第9図 八幡 II・III 遺跡検出遺構・出土遺物

#### 4 経営体育成基盤整備事業都島地区

牡丹野遺跡 (NE25-0185)

所在地：奥州市胆沢区南都田

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成19年2月8、9、13、14、19、20日

本遺跡は、JR東北本線水沢駅の西約6kmに位置し、胆沢川右岸の胆沢扇状地に立地している。現況は畑及び水田となっている。本遺跡は縄文時代及び古代の遺跡として周知されている。今回の発掘調査範囲は、平成18年12月6日に試掘を行い、教生1243号において「要本調査範囲」と回答した範囲である。この調査は道路拡幅部分で、パイプラインを埋設することから、発掘調査を行うこととしたものである。また、試掘調査時に屋敷林等の雜物があり試掘調査を行うことができなかつた範囲は今回合わせて試掘調査を行った。発掘調査区調査範囲の北側は旧河道となっていることが確認されており、遺跡は旧河道や低湿地などに開まれた微高地に立地するとみられる。発掘調査は、道路拡幅及びパイプライン埋設範囲を対象とし、調査面積は約200m<sup>2</sup>である。

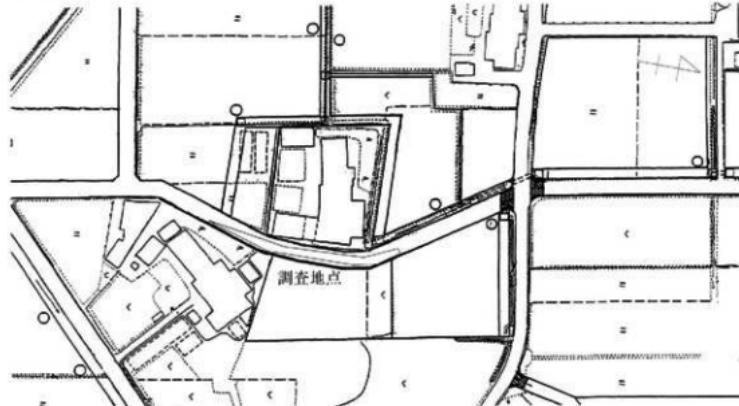
調査区の基本層序は第Ⅰ層が現在の表土にあたる水田耕作土で層厚が50cm、第Ⅱ層が黒褐色土層で層厚が10cm、第Ⅲ層が黒色土層で層厚が20cmである。この層で遺構および遺物を確認している。第Ⅳ層が地山層とみられる黄褐色土層である。

調査では遺構検出面である第Ⅲ層で精査を行い、竪穴住居跡（1号住居）を検出した。第Ⅲ層の残存状況は調査区全体でも、良好ではなく、調査区中央付近のみ確認できた。第Ⅲ層が残っていない箇所では、削平が著しいものとみられ、第Ⅳ層上面で遺構精査を行ったが遺構等は確認されなかった。

1号住居跡はカマドのある竪穴住居跡で、東辺以外は調査区外へと延びており不明であるが、一辺が4m程度と想定される。東方向にカマドがあり、煙道部は調査区外に延びていると思われる。住居の平面形は隅丸方形とみられ、南北辺が約38mである。住居内の埋土は3層に分けられ、いずれの土層からも焼土ブ



第10図 牡丹野遺跡位置図



第11図 牡丹野遺跡調査区位置図

ロックが確認される。柱穴が南側の壁に沿って1基、北側に1基ある。この住居は1号土坑を切って作られ、2号土坑に切られている。カマドは東辺中央部に構築されている。黄褐色粘土で構築されており、芯材に石を用いている。土師器壺もカマド袖に張り付いて出土しており、構築時のものとみられる。1号住居からは土師器、須恵器が出土しており、須恵器壺などから9世紀後半の住居跡と考えられる。

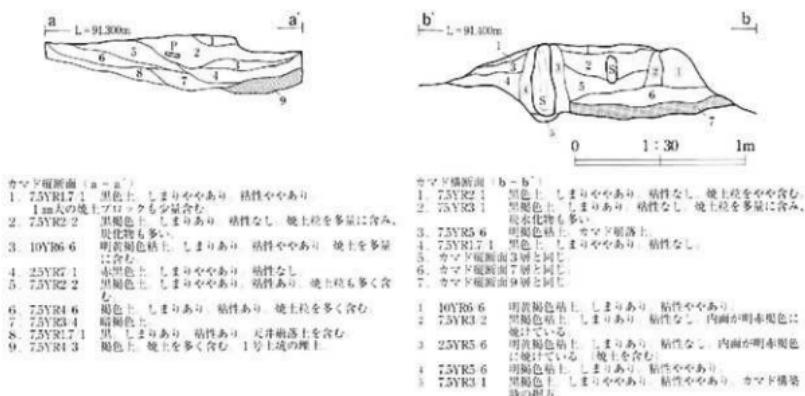
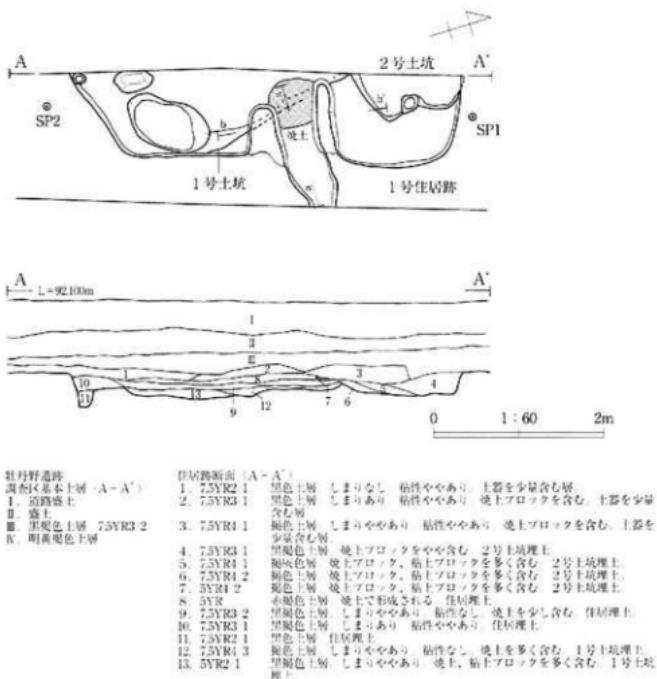
この住居跡のカマドは堆積土や焼土の堆積状況から、同位置に1度以上作り替えられていると考えられる。住居に伴う柱穴は調査区内から2基検出している。埋土はいずれも単層である。1号住居内に2基の土坑がある。1号土坑は1号住居より古い遺構で、南北辺が3mほどである。1号土坑は規模や平面形状から堅穴住居の可能性もあるが、カマドや貼り床等が確認できず不明である。埋土が2層に分けられ、埋土内から土師器、須恵器が出土している。埋土に粘土ブロックや焼土を含んでおり、1号住居構築時に埋め戻されたものと考えられる。2号土坑は1号住居廃絶後に構築された、より新しい遺構である。埋土は4層に分けられる。粘土ブロックなどを多く含む土層である。埋土内からは土師器、須恵器が出土している。

出土遺物には須恵器壺・甕、土師器壺・甕がある。多くは1号住居埋土から出土している。土師器は壺はいずれもロクロ成形によるもので、内面は黒色処理されている。底部は残存が少なく、切り離しや調整は不明である。土師器甕もロクロ成形によるもので、長胴瓶である。外面は体部上半部はタタキの痕跡が一部みられるが、ロクロナデで調整されている。また、25は頭部までタタキ痕跡が残されている。体部下半はヘラケズリ調整が行われている。28はカマドの袖に張り付く形で一部が出土しており、破片もカマド周辺から出土しており、構築時に使用されたと考えられる。内面はいずれもヘラナデである。口縁部はいずれも受け口状となっている。須恵器壺は器形の全体がわかるものは少ないが、3は口径約13.8cm、器高は3.7cm、4は口径約15.3cm、底径約6.3cm、器高約5.8cmである。41は1号土坑から出土しており、口径約12.9cm、底径約6.6cm、器高約3.8cmである。須恵器甕類は底部が残るものは、いずれも回転糸切り無調整である。10は長頭壺の頭部で、内外面に自然軸が残している。須恵器甕は口縁部等がわかるものはないが、底部破片は平底である。38は高台壺もしくは長頭壺の台部破片である。

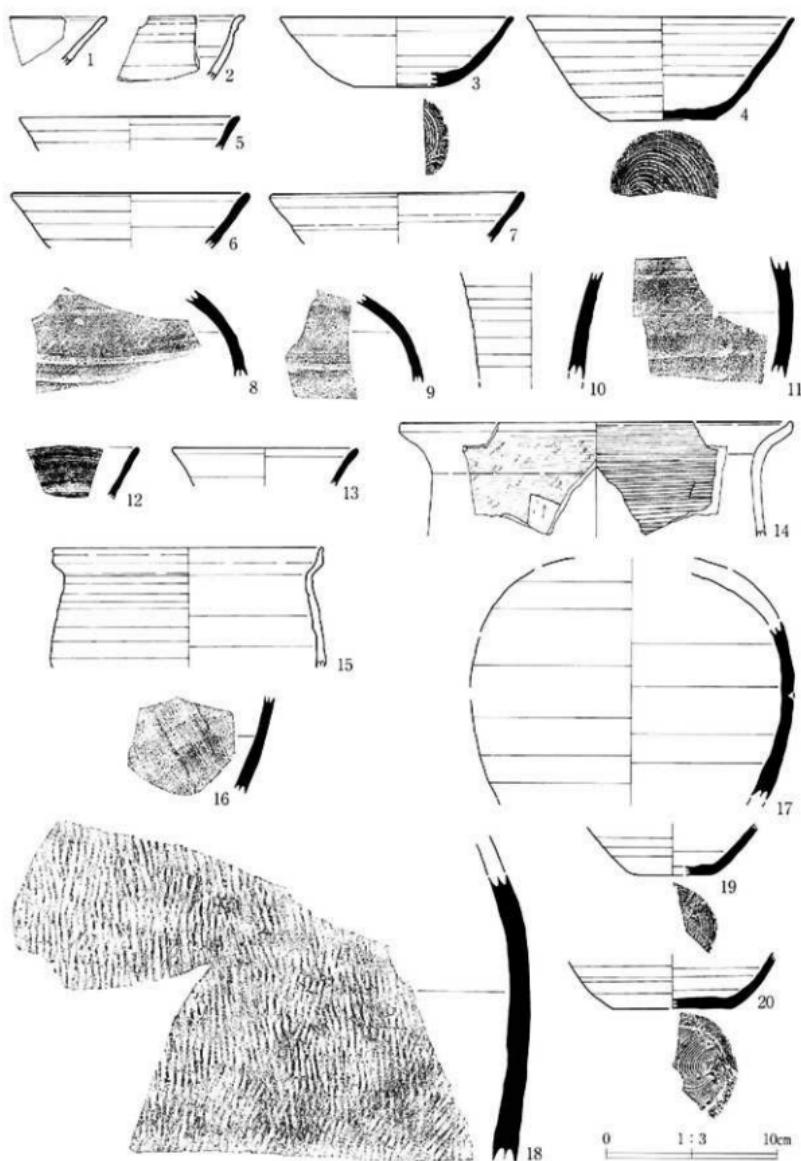
本遺跡は、土師器はロクロ成形で内面黒色処理による土師器壺とロクロ成形の甕、須恵器は底部回転糸切り無調整の土器群が出土している。土師器壺は内面黒色処理のもののみで、非黒色処理のものはみられない。これらの土器の特徴から、今回検出した遺構も9世紀後半代を中心とした時期とみられる。

今回の調査範囲では1号土坑や1号堅穴住居跡、2号土坑からそれぞれ土器が出土しているが、土器の特徴は共通している。また遺構間で接合する個体もみられることから、今回検出した遺構には大きな時間差はないと考えられる。検出状況からも、1号土坑の埋土は住居構築時の人が堆積とみられ、大きな時間差はないことが想定できる。これらの調査結果から、牡丹野遺跡は9世紀後半代の平安時代の集落と考えられる。また、今回遺構を検出した微高地状の範囲は東側に広がっており、削平の状況にもよるが、当該時期の集落跡が広がっている可能性は高いと考えられる。

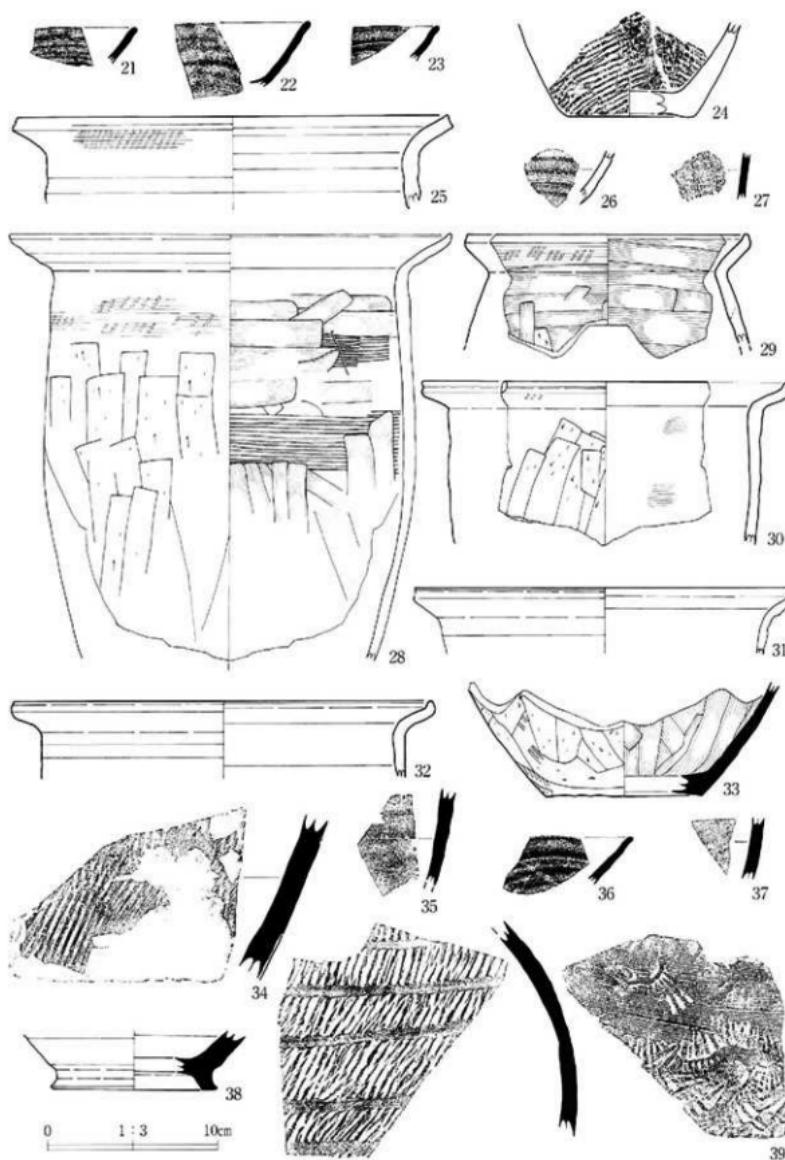
牡丹野遺跡基準座標 (SP1 : x=-96741.198, y=21100.176 SP2 : x=-96746.171, y=21099.389) 世界測地系による)



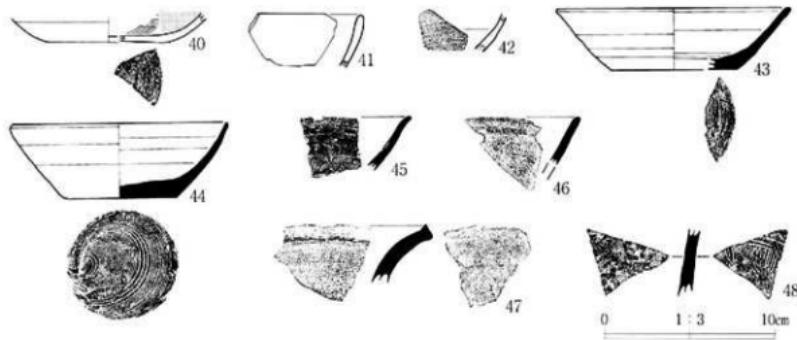
第12図 牡丹野遺跡検出構造



第13図 牡丹野遺跡出土遺物(1)



第14図 牡丹野遺跡出土遺物(2)



牡丹野遺跡揭露遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特徴
1	住居	理土	上部器	环	11段部破片 ロクロ使用
2	住居	理土	上部器	环	11段部破片 ロクロ使用
3	住居	理土	頸忠器	环	11段13mm 頸高3.7cm 内外面ロクロ目 底部斜切り
4	住居	理土	頸忠器	环	11段15.3mm 底高6.3cm 壁厚5.8cm 内外面ロクロ目 回転式斜切り無調整
5	住居	理土	頸忠器	环	11段部破片 内外面ロクロ目
6	住居	理土	頸忠器	环	11段部破片 内外面ロクロ目
7	住居	カマド周辺	頸忠器	环	11段部破片 口径15cm 内外面ロクロ目
8	住居	理土	頸忠器	环	11段上半 内外面ロクロ目
9	住居	理土	頸忠器	环	11段上半 内外面ロクロ目
10	住居	理土	頸忠器	环	11段上半 長颈器 滴落部 内外面ロクロ目 外面に自然釉
11	住居	理土	頸忠器	环	11段上半 長颈器 制造 内外面ロクロ目 10と同一個体
12	住居	理土	頸忠器	环	11段部破片 内外面ロクロ目
13	住居	理土	頸忠器	环	11段部破片 内外面ロクロ目
14	住居	土師器	土師器	环	11段部破片 外面平行タタキ 内面ロクロ目
15	住居	カマド周辺	土師器	环	11段部破片 内外面ロクロ目
16	住居	理土	頸忠器	环	11段部破片 外面ケヌリ 内面ナデ
17	住居	カマド周辺	頸忠器	环	11段上半一下半 内外面ナデ 内面に自然釉
18	住居	カマド周辺	頸忠器	环	11段上半 両面平行タタキ 内面同心円オサエ口ナデ
19	住居	上坡	頸忠器	环	底部 回転式斜切り無調整
20	住居	下坡	頸忠器	环	底部 斜切り無調整
21	住居	上坡	頸忠器	环	11段部破片 内外面ロクロ目
22	住居	下坡	頸忠器	环	11段部破片 内外面ロクロ目
23	住居	上坡	頸忠器	环	11段部破片 底面ロクロ目
24	住居	上坡	土師器	环	11段部外面平行タタキ 内面ナデ
25	住居	上坡	土師器	环	11段部外面タタキナデ 内面ロクロナデ
26	住居	下坡	土師器	环	内里→セキ
27	住居	上坡	頸忠器	环	11段部外面タタキナデ 内面ロクロナデ
28	住居	カマド、理土	土師器	环	ロクロ上施器 外面上半タタキナデ下半ケヌリ 内面ロクロナデ
29	カマド		土師器	环	ロクロ上施器 内面タタキ 内面 ロクロナデ
30	カマド		土師器	环	ロクロ上施器 外面タタキナデ ケヌリ 内面ロクロナデ
31	カマド		土師器	环	ロクロ上施器 外面タタキナデ 内面ロクロナデ
32	カマド		土師器	环	ロクロ上施器 内面ロクロナデ
33	カマド		頸忠器	环	底部→体部下の残片 外面タタキ→ケヌリ 内面ナデ
34	カマド		頸忠器	环	体部破片 外面 平行タタキ 内面無施ナデ
35	カマド		頸忠器	环	体部破片 内外面ナデ
36	カマド周辺		頸忠器	环	11段部破片 内外面ロクロナデ
37	カマド周辺		頸忠器	环	体部破片 内外面ロクロナデ
38	カマド周辺		高台杯	高台杯	底部→一部 下端ナデ調整
39	カマド周辺		頸忠器	环	体部破片 外面平行タタキ 内面放射状当底張→ナデ
40	下の掘り込み		土師器	环	ロクロ目 内里
41	下の掘り込み		土師器	环	ロクロ目 内外面黑色處理
42	下の掘り込み		土師器	环	ロクロ目 内里
43	下の掘り込み		頸忠器	环	器底3.8cm 内外面ロクロ目
44	下の掘り込み		頸忠器	环	11段12mm 底高6.6cm 器底3.8cm 内外面ロクロ目
45	下の掘り込み		頸忠器	环	内外面ロクロ目
46	表土		頸忠器	环	内外面ロクロ目
47	表土		頸忠器	环	内外面ロクロ目
48	表土		頸忠器	环	体部破片

第15図 牡丹野遺跡出土遺物(3)

## 5 経営体育成基盤整備事業江刺西部地区

沼尻遺跡 (ME96-1215)

所在地：奥州市江刺区稻瀬字沼尻

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成19年3月15日(土)、16日(日)、22日(土)、23

日(祝)

本遺跡はJR東北本線金ヶ崎駅の北東約2kmに位置し、北上川左岸の自然堤防上の微高地上になっている箇所に立地している。今回の発掘調査は、平成17年に当課で試掘調査を行っている範囲で（岩手県教育委員会2007『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成17年度）岩手県文化財調査報告書第124集』）、パイプライン埋設工事に伴うものである。試掘調査では、堅穴住居状の遺構を確認している。

調査区は現在、道路となっている範囲で、1.5×30mの範囲である。発掘調査は平成19年3月末に行ったが、精査途中で確認された遺物包含層から出土する遺物量が多く、焼土等の存在から複数の遺構の存在が考えられた。そのため、調査中に県南広域振興局農林部農村整備室と工法協議を再度行い、盛土等により埋蔵文化財を保護することとした。このため、今回の調査範囲では発掘調査途中で、埋蔵文化財保護の工法変更協議を行っており、今回の報告では遺構精査中に出土した遺物の特徴を中心に報告を行う。

調査区の基本層序は第Ⅰ層が現在の道路造成時とみられる盛土層で層厚が30cm、第Ⅱ層が黒褐色土層で層厚が10~20cm、第Ⅲ層は遺物を多量に含む遺物包含層で黒褐色土層で層厚は10cm、第Ⅳ層は一部にのみ確認される、遺物を含む包含層で層厚が10cm、第Ⅴ層は地山層とみられる黄褐色土層である。ただし、第Ⅲ層、第Ⅳ層は北側に向かって薄くなってしまっており、今回の調査区および南側に広がるものとみられる。

基本層序第Ⅲ層上面で炭化物がやや集中してみられる箇所があった。しかし炭化物の分布状況や土質の状況から現地性のものとは判断できなかった。第Ⅲ層は平安時代の遺物を包含する層である。一部で第Ⅳ層を



第16図 沼尻遺跡位置図



第17図 沼尻遺跡調査区位置図

確認しており、遺物を含む層であることがわかっているが、上述の調査経過のため調査は第Ⅲ層の一部の上部で終了している。このため、以下の記述は第Ⅲ層上層部までの調査結果による知見である。遺物は須恵器坏、高台坏、壺と土師器はロクロ成形の内黒坏、壺がある。坏類は須恵器が多く、壺類は土師器が多くなっている。遺物量は、土師器に比べて須恵器の占める割合が高いことがある。須恵器坏は口径約12cm、底径5cm、器高約4.5cmのものと（第18図8、9）、口径約15cm、底径6～7cm、器高約5.5cmのものとがあり、口径などの法量から2つに分類できる。いずれも底部は糸切り無調整である。胎土には2～3mm程度の石粒を含むものもある。土師器坏はロクロ成形で内面黒色処理されている。摩滅が著しいが、4は底部は回転糸切り無調整である。

須恵器壺は底部が残るものは平底である。体部は上半部からヘラケズリが行われている。27、28は底部周辺の破片だが、いずれも底部付近までタタキの痕跡が残されている。27は自然釉が底部にのみ円形になって釉着している。29は体部上半部の破片はカキメが施されており、本の葉状の線刻がみられる。平安時代の壺類の体部に線刻がみられるものは、器種等は異なるが花巻市岬遺跡で出土した水鳥が線刻された土器片が知られている（岩手県埋蔵文化財センター 1999「岬遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第302集）。

26は長頸壺の底部破片で、高台部はナデ調整が行われている。底部には放射状の痕跡が残されている。この土器のみは他の土器と胎土が明瞭に異なり、赤褐色である。この土器の底部痕跡はこれまで「放射状文」などとされ、注目されてきたものである。今回の遺跡では口縁部から体部にかけての破片がなく、全体は不明であるが長頸壺とみられる。

土師器壺はロクロ成形によるもので、体部上半の破片だが一部にヘラケズリがみられ、体部下部はヘラケズリ調整を行っているものとみられる。

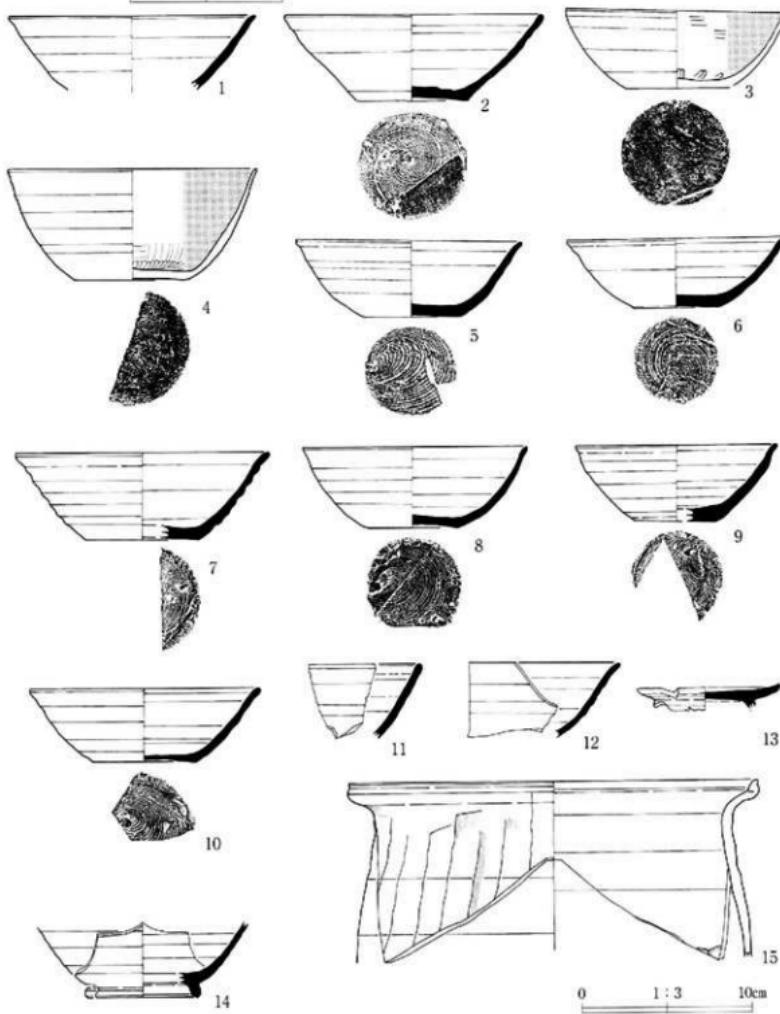
遺物の特徴をまとめると、須恵器坏は回転糸切り無調整、土師器坏はロクロ成形で黒色処理のもの、土師器壺もロクロ成形のもののみである。土師器坏は内面非黒色処理のものはみられない。これらの特徴から、本遺跡は9世紀後半を中心とした時期と考えられる。今回の調査では、遺構を確認していないが、遺物の状況から周辺に当該時期の集落跡等が分布する可能性は高いと考えられる。

基本土層

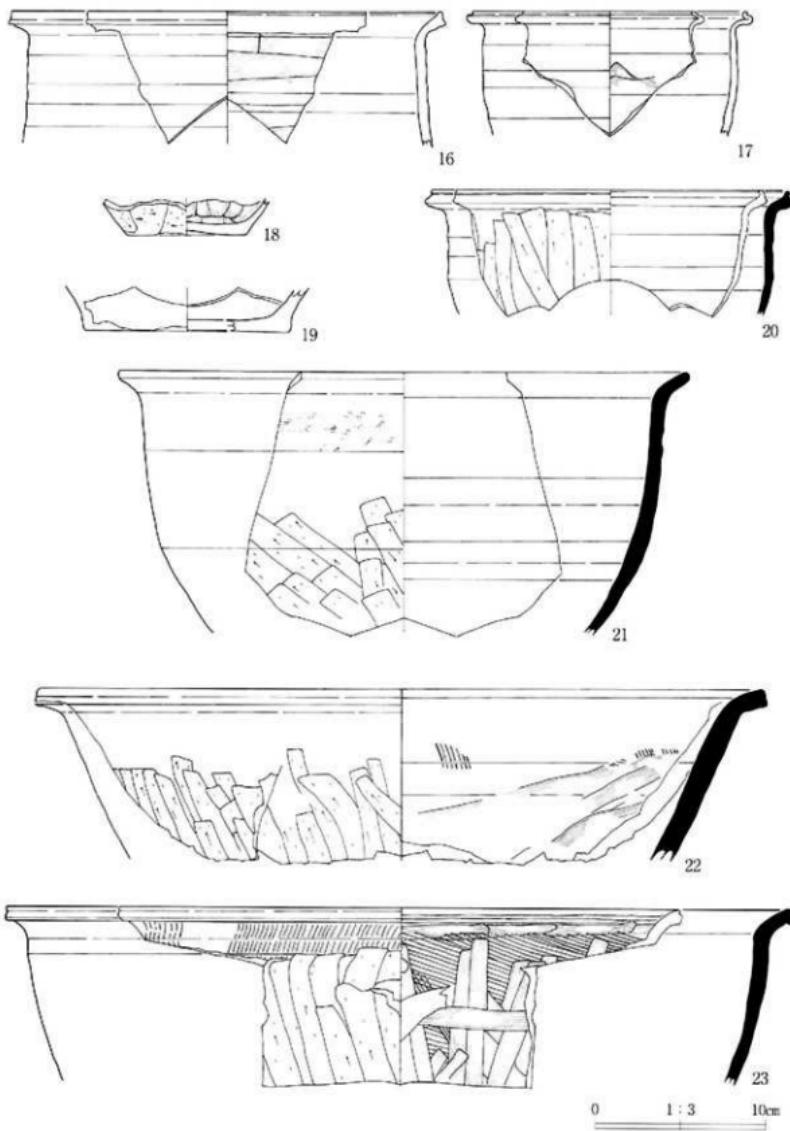


0 1 : 100 3m

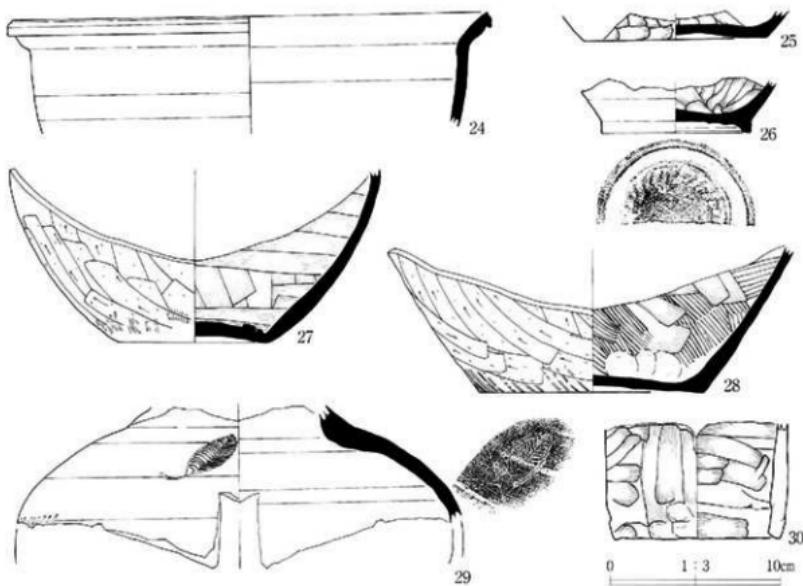
- I. 75YR4-2  
II. 75YR2-2  
III. 75YR4-4  
IV. 75YR4-4  
V. 25YR2-4
- 灰褐色土層  
黒褐色土層  
黒褐色土層  
黒褐色土層  
黒褐色土層
- 多く含む  
多く含む  
多く含む  
多く含む  
多く含む
- よりあり、粘性なし、盛土。  
よりあり、粘性なし、旧水田耕作土か? 上器片を多く含む。  
よりあり、粘性なし。2層の黒褐色土層が混じる。上器・炭  
化物質多く含む。  
よりあり、粘性あり、炭化物質・施肥粒を大量に含む。  
よりあり、粘性あり、炭化物質・施肥粒を多く含む上器片を



第18図 沼戻遺跡出土遺物(1)



第19図 沼尻遺跡出土遺物(2)



沼尻遺跡揭露遺物觀察表

番号	出土地点	居位	種別	器種	特徴
1	溝		須恵器	环	口径約14.5cm 内外面クロ口目
2	溝		須恵器	环	口径約15.2cm 底径6.5cm 器高5.1cm 内外面クロ口目 回転系切り
3	匂合矧		土師器	环	口径約13.3cm 底径6.2cm 器高4.6cm 内里→ミガキ
4	匂合矧		土師器	环	口径約6.6cm 内面→ミガキ 回転系切り
5	匂合矧		須恵器	环	口径約13.1cm 底径5.4cm 器高5cm 回転系切り
6	匂合矧		須恵器	环	口径約13.1cm 底径5.1cm 器高4cm 回転系切り
7	匂合矧		須恵器	环	口径約15cm 底径6.4cm 器高3.1cm 回転系切り 口クロ口目が強い
8	匂合矧		須恵器	环	口径約13.2cm 底径5.5cm 器高4.8cm 回転系切り
9	匂合矧		須恵器	环	口径約2.1cm 底径3cm 器高18cm 回転系切り
10	匂合矧		須恵器	环	内外面クロ口目 回転系切り
11	匂合矧		須恵器	环	内外面クロ口目
12	匂合矧		須恵器	环	内外面クロ口目
13	匂合矧		須恵器	高台环	高台約6cm 底部ナメ調整
14	匂合矧		須恵器	高台环	内外面クロ口目
15	匂合矧		土師器	甕	内外面ナメ→ケズリ
16	匂合矧		土師器	甕	内外面ナメ
17	匂合矧		土師器	甕	内外面ナメ
18	匂合矧		土師器	甕	内外面ナメ 体部下端ケズリ
19	匂合矧		土師器	甕	調整不明 壁減が著しい
20	匂合矧		須恵器	甕	ケズリ
21	匂合矧		須恵器	甕	外面 口クロ口目→ケズリ
22	匂合矧		須恵器	甕	外面 ナメ→ケズリ
23	匂合矧		須恵器	甕	外面 平付タタキ→ケズリ
24	匂合矧		須恵器	甕	内外面ナメ→ケズリ
25	匂合矧		須恵器	甕	内外面ナメ
26	匂合矧		須恵器	長頭甕	ナメ、底部に收斂状痕跡
27	匂合矧		須恵器	甕	体面タタキ→ナメ 一部ケズリ 内面ナメ
28	匂合矧		須恵器	甕	外表面タタキ→ナメ
29	匂合矧		須恵器	甕	内外面ナメ 本の茎状の縦剥あり
30	匂合矧		土師器	甕	ナメ 長頭甕の型

第20図 沼尻遺跡出土遺物(3)

## 6 経営体育成基盤整備事業

### 江釣子第一地区

下瀬塚古館遺跡（ME55-1160）

所在地：北上市瀬田19地割

事業者：県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成19年3月6日㈬、7日㈭、8日㈮

本遺跡は、北上市役所の北西約4.7kmに位置し、和賀川北岸の微高地に立地する近世環濠屋敷である。現況は水田、宅地（下瀬川家）で標高は81m前後を測る。下瀬川家の屋敷の縁辺には土塁が廻り、屋敷林が植えられている。今回の調査対象範囲は平成17年度の試掘調査により溝の存在が確認された箇所で、下瀬川家の外縁の北西部付近に相当する位置である。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものである。

なお、平成17年度の試掘調査では、平成17年11月と平成18年3月に試掘調査を行っている。平成17年11月の調査においては、宅地の周間に設置されている水路を流れる水の量が多く、農道設置予定箇所に重点を置いてトレンチを設定した。耕作土直下に地山層とみられる黄褐色土層がみられたことから、過去の水田造成等による地形変化が伺えた。この範囲では遺構及び遺物は確認できなかった。平成18年3月の調査は、環濠と現在の水路の流路との関連について重点を置き、排水路設置予定箇所を対象にトレンチを設定した。トレンチは旧地形が良好に残存している宅地北側斜面から土水路を横断するように設定した。断面状況から、この土水路は、黄褐色土層がU字状に掘り込まれ、この掘り込まれた部分に、黒色土層が堆積してその上面を現在の水路として水が流れていることから、人為的に掘り込んでつくられた堀跡がそのまま水路として現在まで利用されていると推測した。確認された堀跡が溝跡である可能性もあることから、遺跡範囲外ではあるが、検出した堀跡と同様に土水路として利用されている箇所にもトレンチを設定した。層序は、現耕作土直下に旧耕作土が認められ、旧耕作土下は第Ⅲ層の黄褐色粘土質（一部グライ化している）であり、この箇所の土水



第21図 下瀬塚古館遺跡位置図



第22図 下瀬塚古館遺跡調査区位置図

路は旧耕作土までしか掘り込まれていないことから、水田造成に伴って最近掘られたものであることがわかった。トレンチは現在も利用されているコンクリート製水路が埋設されている箇所に設定した。水路を除去して断面を確認したが、堀跡らしきものは確認できなかった。宅地西側は緩やかな傾斜地に見受けられたが、プラスチック等を含んでいる土砂が宅地から水田に向かって崩れて堆積していることから、屋敷側にあった堀跡が土砂で押されて、流路が変化した場所ではないかと推測した。以上のことから、流路は多少変化しているものの、現在の水路はほぼ堀跡を利用して設置されたものであり、本遺跡は環濠居敷であることが推測された。調査対象範囲の5箇所にトレンチ（T1～T5）を設定した。T1では幅100cmの溝が8m、T2では幅60cmの溝が1.6m、T3では幅70cmの溝が3m、T4とT5では幅110cmの溝が1.6m分検出されている。これらの溝は連続するもので、屋敷を囲む溝と推測される。遺構はT1から9～10世紀の須恵器大甕、T5から高台坏（23図1）近世の肥前磁器片、T4の溝埋土から蒸焼きの鉢が出土している。

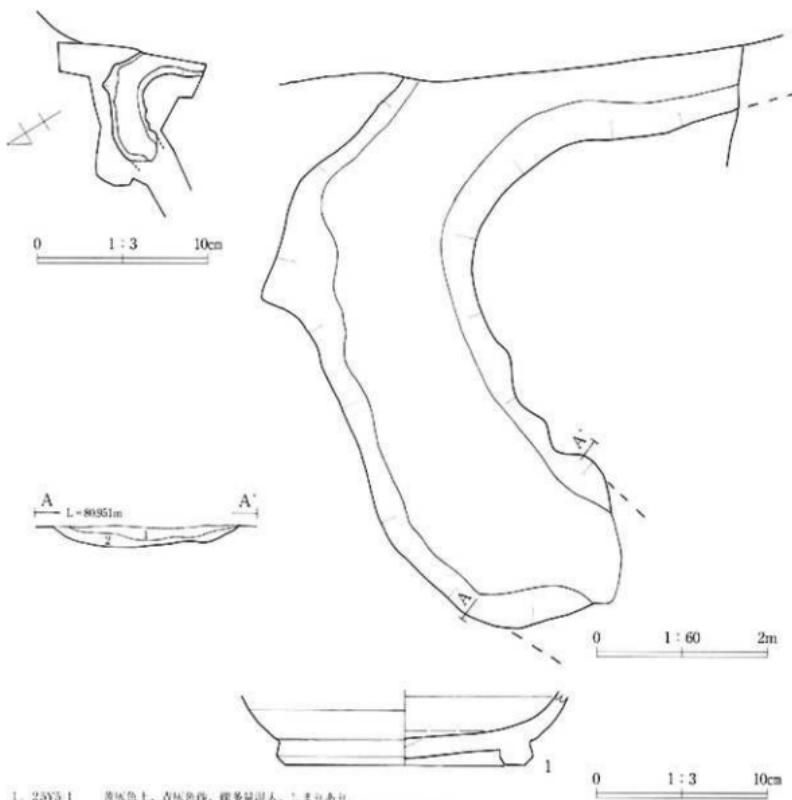
今回の発掘調査では溝が1条検出された。調査前には、溝は土塁に沿って屋敷を囲む遺構プランが推測されていたが、検出された溝は南西側から土塁に沿って屋敷を廻る走行が、途中から北西側に曲がり、屋敷の外側に延びていくプランであった。北西側は水田造成の掘削によりプランが失われている。南西側は土塁に沿って、屋敷を囲む形状で連続していると推測される。

溝の上幅は約200cm、検出された深さは約30cmである。底面の標高から、南側から北西方向に水が流れようになっている。埋土は2層に分けられ、下部の2層は流水により生成された土層、上部の1層は人為的に埋めた土層と推測される。溝の埋土中からは遺物は出土しなかった。屋敷を廻る土塁の頂部と溝の底面の比高差は約240cmである。

溝からの出土遺物がなく、確実な所属年代は不明であるが、近世屋敷に伴う区画、排水の目的の溝と推測される。

今回検出された溝が北西側に曲がる付近から東側は標高が高くなってしまい、現在でも屋敷を囲む形で溝が存在する。その溝は地表面まで掘り込みが達していない浅いものである。おそらく近世においても、この地点には掘り込みが浅い溝が屋敷を囲むプランで存在し、ここからの流水が今回検出の溝に落ち、屋敷外に排水される仕組みであったと推測される。

今回の調査と平成17年度の調査から、下緑塚古館遺跡は径約90mの範囲が溝で囲まれる屋敷であることが判明した。



第23図 下糖塙古館遺跡検出遺構・出土遺物

## 7 経営体育成基盤整備事業南日詰地区

南日詰小路口I遺跡 (LE77-1123)

南日詰小路口II遺跡 (LE77-1131)

所在地：紫波郡紫波町南日詰

事業者：盛岡地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成19年2月22日、23日

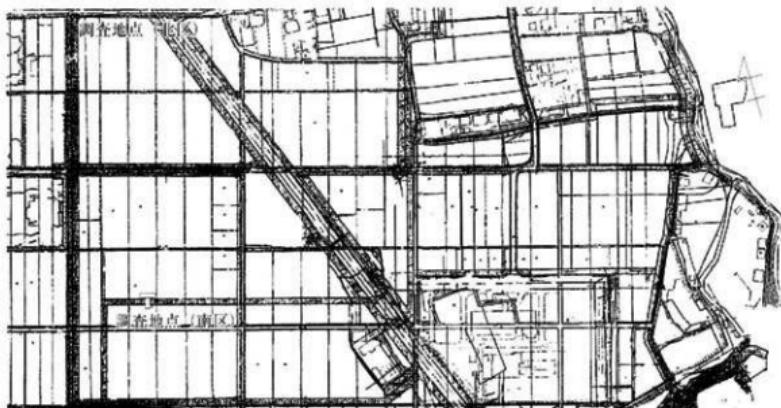
本遺跡は、JR東北本線日詰駅の南東約1.5kmに位置し、北上川右岸の段丘上に立地している。遺跡の西側には五郎沼が広がっており、調査範囲内的一部分には河川跡等もみられた。現況は水田となっている。今回の調査はその水田のは場整備事業に伴うものである。平成18年10月に試掘調査を行い、「要本調査範囲」と回答した範囲で、一部に平成19年度の営農以前に水路を埋設することから、発掘調査を行うとしたものである。また、「要本調査範囲」とした範囲で、今回発掘調査を行っていない範囲は、今後別途協議を行う予定である。今回の調査範囲は南北に離れた2地点となっていることから、北区と南区として扱うこととする。

南区では、柱穴3基 (P1～P3)、土坑1基 (SK1) を検出した。P1及びP2は深さが20cm程度、径が25～30cm程度の円形の柱穴である。埋土はP1が黒褐色土の單一の埋土で、土器を含んでいる。P2は黒色土と黒褐色土の埋土である。2基は形状や埋土の状況から同一時期のものと考えられるが、この他に組み合うと見られる柱穴は検出されなかった。P3は径は20cm程度であるが、深さは10cm弱と残存が悪いものである。埋土中に土器を含んでおり、埋土の状況もP1、P2と同様である。SK1は不整形の形状で性格は不明であるが、埋土に焼土を含んでいる。これらの遺構は出土した土器、埋土の状況などからほぼ同一の時期の遺構とみられる。

北区では、溝を1条 (SD1) を検出した。幅1.5～2.0m程度で、削平のため深さは15～20cm程度である。埋土は単一のものである。埋土中に土器を含んでいる。溝は南北方向に掘られている。この溝も南区の遺構と、ほぼ同時期の遺構と考えられる。



第24図 南日詰小路口I・II遺跡位置図



第25図 南日詰小路口I・II遺跡調査区位置図

今回の調査では、以上の遺及び遺物が確認された。遺構埋土内からも土器が検出され、これまで試掘で確認されたものと同様に12世紀代の遺構であることが確認された。

観察表中の出土位置の「10. 20」というように記したのは日付で、調査日時を表す。また「西」「東」は調査対象範囲を南北に縦貫する新幹線高架の西側、東側の意である。また高さはその残存値をそのまま記している。

出土遺物は12世紀に属する遺物が多い、これは調査対象範囲のはば全面に分布する傾向にある。かわらけは手づくね、ロクロの双方がある。色調は橙色を呈する個体が多く双方の色調が類似しているが、胎土はそれそれが異なっており、両者を分類することは可能である。ロクロかわらけは砂粒が多量に混入し、海綿状骨針が混入している。手づくねかわらけは砂粒の混入がほとんどなく、器面が滑らかである。胎土に赤い粒が混入する個体が多く見受けられる。両者の胎土の違いはそれぞれのかわらけの製作工房が異なっていることを示している。また双方の胎土は平泉のかわらけの胎土とも異なっている。図示したかわらけは40点であるが、この他に多数の破片が出土し、また取り上げを行わなかったか破片が多数存在する。比爪館周辺におけるかわらけ変遷は明らかにされていないが、多くは12世紀後半に属すると推測される。30の大型ロクロかわらけは底径が小さく12世紀前半に属する可能性も指摘できる。

中国産磁器は白磁四耳壺片が5片出土している。いずれも大宰府分類Ⅲ類で12世紀後半に属するものである。国産陶器は常滑産、渥美産、須恵器系陶器のものがみられる。中でも69の渥美刻文壺は、平泉遺跡群でも出土数が少ない希少な個体である。

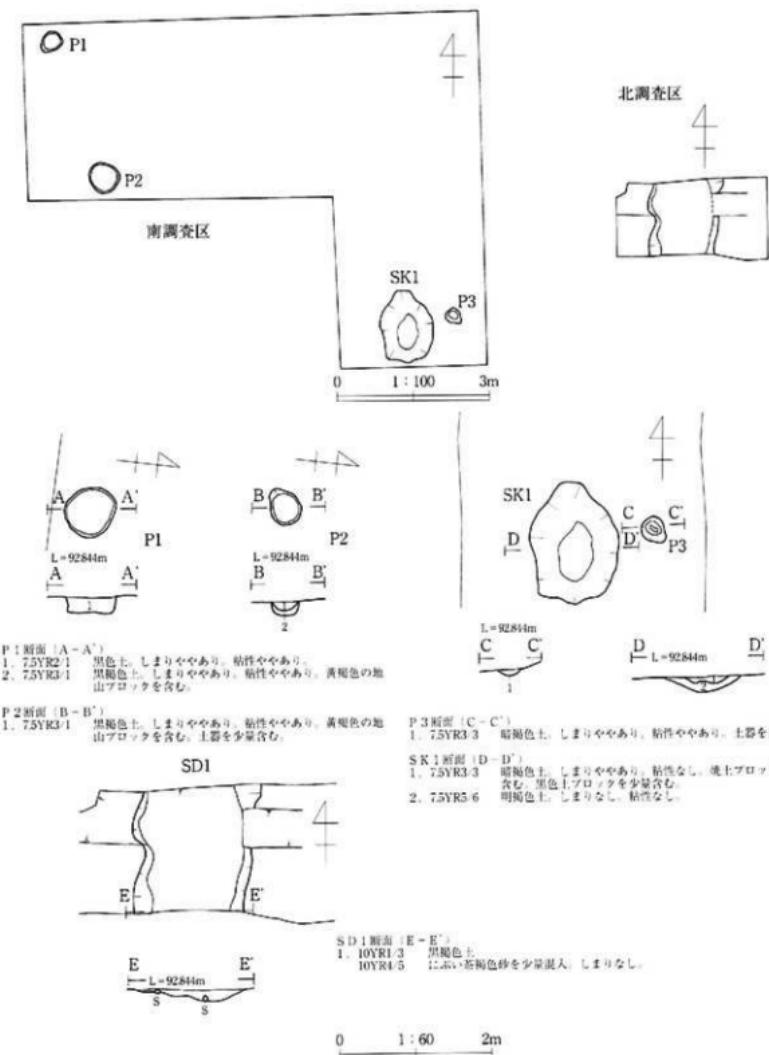
このように、かわらけ、中国産磁器、国産陶器の三種類が多量に出土し、柳之御所遺跡など平泉で出土するものと質的に全く遜色ない高級品も含まれる。これは本遺跡が通常の集落ではなく、支配者の居館や都市といった性格を付与できる可能性が高い。また、今回の試掘調査から、比爪館の東側には広い範囲で12世紀の遺跡が存在することが明らかになった。これは12世紀に比爪館が単独で存在していたのではなく、比爪館に隣接してそれに付随する広範囲な施設の存在を示唆する。

また、53は中国産青磁の酒海壺片である。この遺物の存在から、13~14世紀鎌倉時代の居館等の遺構の存在も予想される。

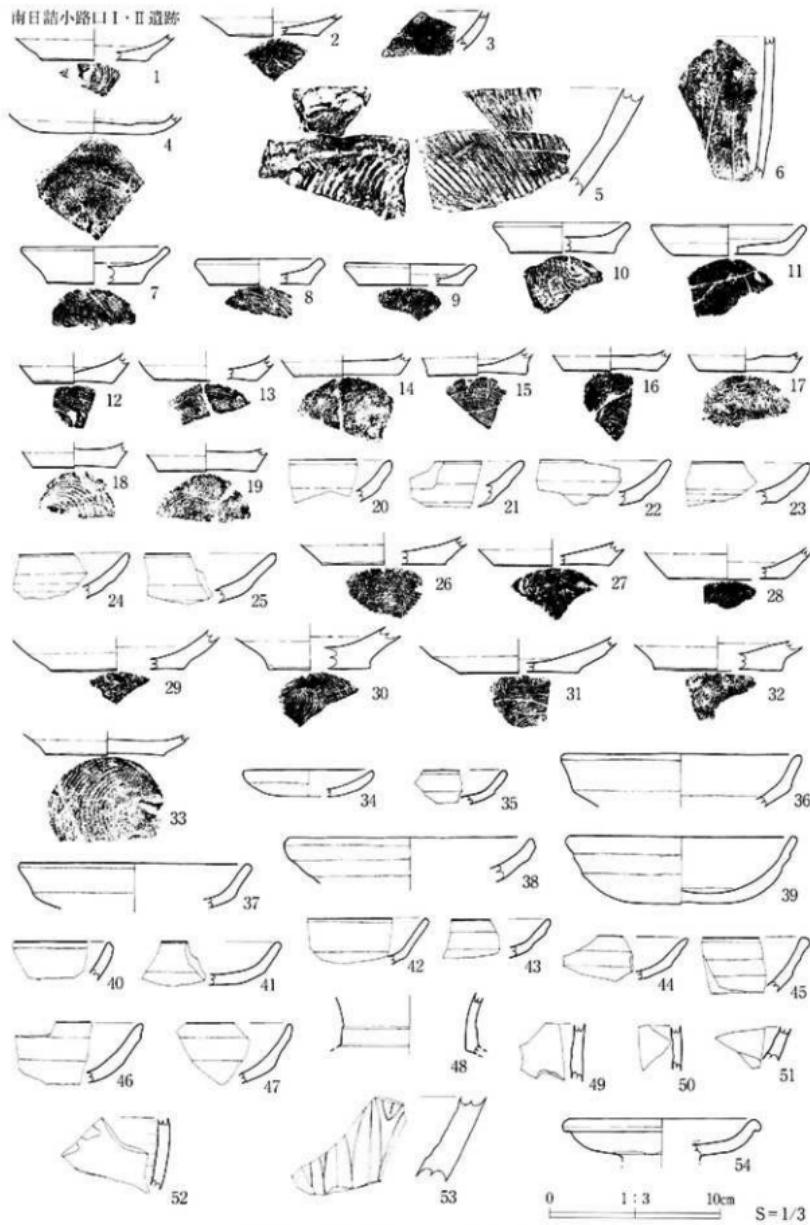
#### 下川原I 遺跡出土遺物（遺物掲載番号75~85）

75~79は平成18年度の試掘、80~84は平成11年試掘の出土遺物である。これらも12世紀の遺物がほとんどを占める。中でも注目されるのは85番の瓦である。これは軒平瓦の瓦当部分が剥離したものと判断される。瓦当部がないため詳細な時期の判定は不可能であるが、中世以降に下る可能性は低いと考えられる。詳細は本調査時に良好な資料が得られた段階で判断すべきであろう。75、76、80~82はかわらけである。ロクロ、手づくね双方あるが、いずれも小路口遺跡、比爪館跡と共に胎土のもので12世紀に属する。78は常滑産広口壺、79は渥美産甕の破片である。いずれも12世紀代に属する。また、77は竜泉窯青磁の碗である。内面には割文は施されていないが、12世紀代に属するものと推測される。84は常滑三筋壺の下半部片である。筋線は細い複数線で、12世紀代の三筋壺と判断できる。これらの12世紀の遺物の出土により、比爪館と同時代の遺跡が広範囲に分布している事が明らかになった。本遺跡の性格を含め、須恵器関連遺跡の分布域を明らかにするのが、今後の課題といえる。

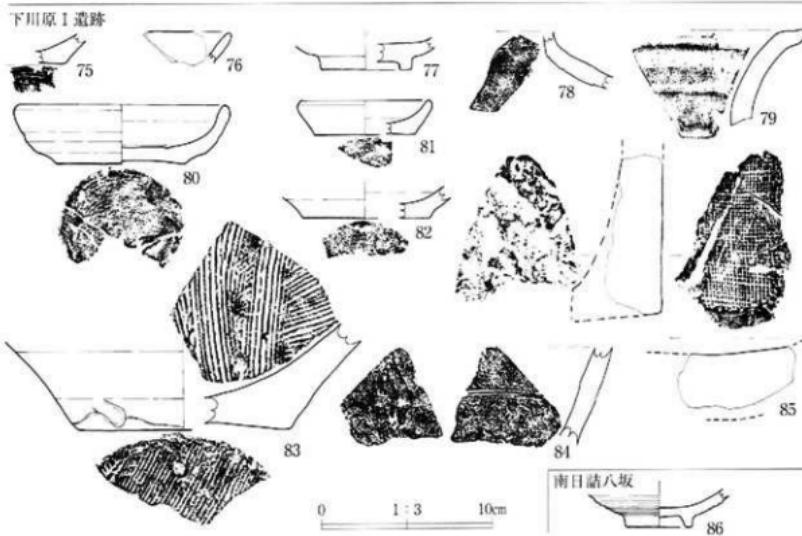
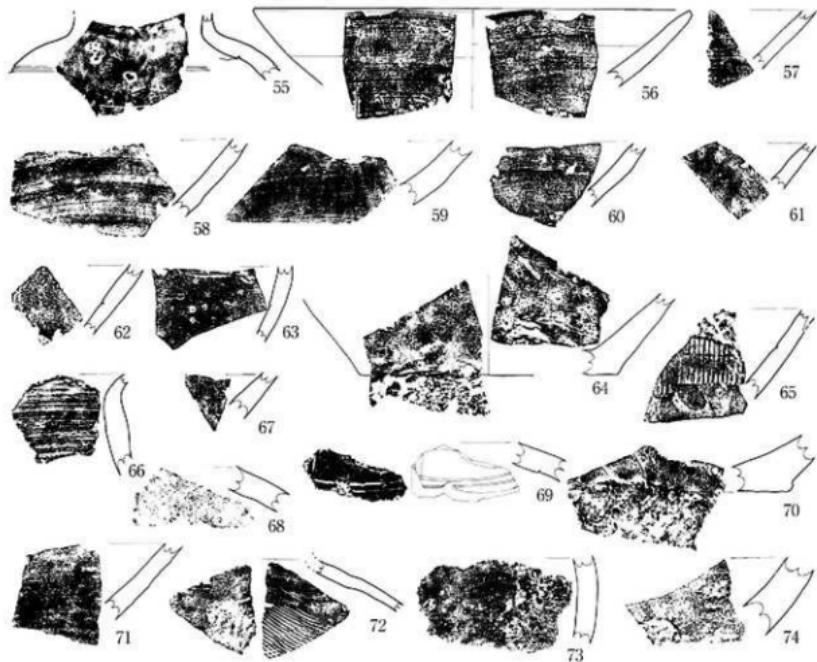
また83は須恵器系陶器（おそらく珠洲産）の擂鉢である。口縁部がないため時期決定が難しいが、15世紀頃と推測される。岩手県では珠洲産の擂鉢出土事例は少なく注目される事例である。



第26図 南日詰小路口 I・II 遺跡遺構配置図・検出遺構



第27図 南日詰小路口I・II遺跡出土遺物(1)



第28図 南日詰小路口 I・II 遺跡出土遺物(2) 下川原 I 遺跡出土遺物

南日諸小島跡遺物収集表						
番号	種別	出土位置	色調	堆定期	口径(cm)	高さ(cm)
1	土師器部	I. 1573	にふい青褐色	9~10世紀	—	12
2	土師器部	I. 10. 20西	にふい青褐色	9~10世紀	—	12
3	土師器部	2. 22P1棟出頭	にふい青褐色	9~10世紀	—	2.4
4	須恵器部	I. 10. 20東	灰褐色	8~10世紀	—	1.1
5	須恵器部	I. 1. 1572	明赤褐色	9~10世紀	—	6.5
6	土師器長周邊	2. 22P3埋土	褐色	9~10世紀	—	8.5
7	ロクロカウリッケト	2. 23SD1埋土	深黄褐色	12世紀	8.9	2.2
8	ロクロカウリッケト	I. 1572	深黄褐色	12世紀	7.7	1.6
9	ロクロカウリッケト	I. 20西	深黄褐色	12世紀	7.8	1.3
10	ロクロカウリッケト	I. 20. 23東	褐色	12世紀	8.2	1.8
11	ロクロカウリッケト	I. 23東	黄褐色	12世紀	6.9	1.8
12	ロクロカウリッケト	I. 23東	褐色	12世紀	—	1.1
13	ロクロカウリッケト	I. 23東	褐色	12世紀	—	1.1
14	ロクロカウリッケト	南日諸島	深黄褐色	12世紀	—	1.1
15	ロクロカウリッケト	I. 24東	深黄褐色	12世紀	—	1.1
16	ロクロカウリッケト	I. 20. 23西	褐色	12世紀	—	1.1
17	ロクロカウリッケト	2. 27	褐色	12世紀	—	1.1
18	ロクロカウリッケト	I. 1. 1571	褐色	12世紀	—	1.6
19	ロクロカウリッケト	2. 27	深黄褐色	12世紀	—	1
20	ロクロカウリッケト	I. 20. 23西	褐~深黄褐色	12世紀	—	2.5
21	ロクロカウリッケト	I. 24東	褐色	12世紀	—	2.8
22	ロクロカウリッケト	I. 24東	褐色	12世紀	—	2.7
23	ロクロカウリッケト	I. 24東	褐色	12世紀	—	2.6
24	ロクロカウリッケト	24. 25	褐色	12世紀	—	2.8
25	ロクロカウリッケト	I. 23東	褐色	12世紀	—	3
26	ロクロカウリッケト	I. 23東	褐色	12世紀	—	1.2
27	ロクロカウリッケト	I. 23東	褐色	12世紀	—	1
28	ロクロカウリッケト	I. 23東	褐~深黄褐色	12世紀	—	6.9
29	ロクロカウリッケト	I. 24東	褐色	12世紀	—	7.2
30	ロクロカウリッケト	I. 1. 1573	深黄褐色	12世紀	—	8.1
31	ロクロカウリッケト	I. 23東	褐~深黄褐色	12世紀	—	6.1
32	ロクロカウリッケト	南日諸島	にふい青褐色	12世紀	—	7.3
33	ロクロカウリッケト	I. 23東	褐色	12世紀	—	7.8
34	ボツベカウリッケト	I. 1. 1571	褐色~黒褐色	12世紀	—	7.2
35	ボツベカウリッケト	I. 20. 23東	黃褐色	12世紀	—	1.6
36	ボツベカウリッケト	I. 20. 23西	褐色	12世紀	—	2.1
37	ボツベカウリッケト	I. 24東	褐色	12世紀	—	3.2
38	ボツベカウリッケト	I. 24東	褐色	12世紀	—	3.9
39	ボツベカウリッケト	I. 24東	褐色	12世紀	—	4.9
40	ボツベカウリッケト	I. 24東	褐色	12世紀	—	13.8
41	ボツベカウリッケト	I. 24. 27	深黄褐色	12世紀	—	4.1
42	ボツベカウリッケト	I. 23東	深黄褐色	12世紀	—	2.7
43	ボツベカウリッケト	I. 23東	深黄褐色	12世紀	—	2.6
44	ボツベカウリッケト	I. 1. 1571	にふい青褐色	12世紀	—	2.3
45	ボツベカウリッケト	I. 1572	紺	12世紀	—	2.6
46	手づらカウリッケト	南日諸島	褐~深黄褐色	12世紀	—	3.3
47	手づらカウリッケト	南日諸島	褐色	12世紀	—	3.6
48	白磁西瓦	I. 24. 24東	灰白色	12世紀	—	3.7
49	白磁西瓦	I. 20. 23東	灰白色	12世紀	—	3.1
50	白磁西瓦	I. 20. 23東	灰白色	12世紀	—	3.4
51	白磁西瓦	I. 20. 20東	灰白色	12世紀	—	2.7
52	白磁西瓦	I. 1. 1572	灰白色	12世紀	—	2
53	青磁酒呑器	東	鐵灰色	13~14世紀	—	4.3
54	陶器部	東	オリーブ灰褐色	遅世?	11.8	2.4
55	常滑三筋釜	I. 23東	オリーブ灰褐色	12世紀	—	3.4
56	常滑口口鉢	I. 20. 20東	灰褐色	12世紀	25.9	4.7
57	常滑口口鉢	I. 1. 1573	褐色	12世紀	—	3.5
58	常滑口口鉢	I. 23東	灰褐色	12世紀	—	4.6
59	常滑口口鉢	I. 1. 1571	褐色	12世紀	—	3.8
60	常滑口口鉢	I. 20. 20東	灰褐色	12世紀	—	3.8
61	常滑広口壺	I. 23東	にふい青褐色	12世紀	—	2.8
62	常滑広口壺	南日諸島	暗褐色	12世紀	—	4.1
63	常滑広口壺	南日諸島	暗赤褐色	12世紀	—	4.4
64	常滑広口壺	I. 20. 20西	にふい青褐色	12世紀	—	5.1
65	常滑器	I. 24. 24東	にふい青褐色	12世紀	—	5.3
66	常滑器	I. 20. 20東	灰褐色	12世紀	—	5.1
67	常滑器	I. 20. 20西	灰褐色	12世紀	—	2.6
68	常滑器	I. 20. 20東	オリーブ灰褐色	12世紀	—	1.6
69	常滑刻文鏡	I. 1. 1572	オリーブ灰褐色	12世紀	—	1.3
70	漫遊鏡	2. 27	褐色	12世紀	—	2.1
71	須恵器系筒形器	I. 1. 1573	褐色	12世紀	—	4.6
72	須恵器系筒形器	I. 20. 20東	褐色	12世紀	—	2.6
73	須恵器系筒形器	I. 1. 1573	オリーブ灰褐色	12世紀	—	5.2
74	須恵器系筒形器	I. 2. 27	褐色	12世紀	—	4.5
下川原】遺物収集表						
75	ロクロカウリッケト	I. 10. 371	褐色	12世紀	—	1.4
76	手づらカウリッケト	I. 10. 371	褐色	12世紀	—	1.9
77	青斑焼	I. 10. 371	オリーブ灰褐色	12世紀	—	5.4
78	常滑広口壺	I. 10. 371	オリーブ灰褐色	12世紀	—	2.8
79	青斑燒	I. 10. 371	オリーブ灰褐色	12世紀	—	5.3
80	ロクロカウリッケト	I. 12. 7. 17北	褐色	12世紀	12.7	3.6
81	ロクロカウリッケト	I. 12. 7. 17北	深黄褐色	12世紀	—	2.1
82	ロクロカウリッケト	I. 12. 7. 17北	灰褐色	12世紀	—	1.3
83	須恵器系筒形器	I. 12. 7. 17北	暗褐色	15世紀前頃	—	5.5
84	常滑三筋釜	I. 12. 7. 17北	オリーブ灰褐色	12世紀	—	7.1
85	瓦(野草)	I. 12. 7. 17北	にふい青褐色	古代か	9.3(長さ)	2.5(厚さ)
南日諸小島跡遺物収集表						
86	大庭相馬鹿田御陵跡	I. 9. 171	暗赤褐色	18世紀	—	1.9
					3.9	内面灰褐色

## 8 県立花巻厚生・北上病院統合整備事業

蒲沢遺跡 (ME45-2367)

所在地：北上市村崎野

事業者：岩手県医療局

調査期日：平成18年4月11日㈬～13日㈭

本遺跡は北上市役所の北約4kmに位置している。今回の調査は、花巻厚生・北上病院統合整備事業に伴うものである。岩手県教育委員会、北上教育委員会が試掘調査及び発掘調査を行っており、平成17年度に当課でも試掘、発掘調査を行っている（岩手県教育委員会2007「岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成17年度）」岩手県文化財調査報告書第124集）。

その後、新たにバイパス線及び排水路の新設箇所が生じたことから、平成17年に試掘調査を行った箇所である。

いざれの調査箇所も以前のは場整備事業等により、浅い表土の下層に遺構検出面である地山面が確認された。削平を受けており遺構の残存は良くない。

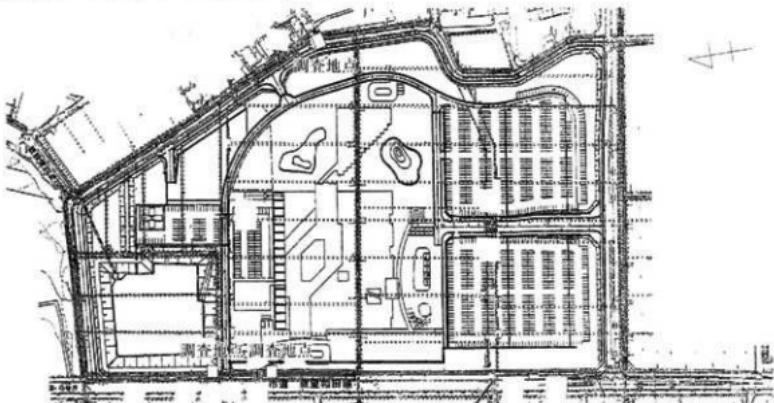
北側調査区では陥し穴を1基確認した。上部が削平されているため浅くなっている。堆積層は3層に分かれれる。長さ約320cm、幅55cmほどで、底面は中央部に比べて両端部が深い形状となっている。今回の調査区周辺でも縄文時代の陥し穴が確認されており、同様のものと考えられる。今回の調査では遺構や周辺からは遺物等は確認されなかった。

南側調査区では溝跡を1条確認した。溝跡は上幅が65～115cm程で、底面に幅20cmのくぼみが溝状に走る。今回の調査区では長さ485cm程度であるが、調査区外に伸びている。溝は東側が標高が高く、西へと傾斜している。出土遺物はないが、埋土の状況から近世以降の新しい時期の溝とみられる。

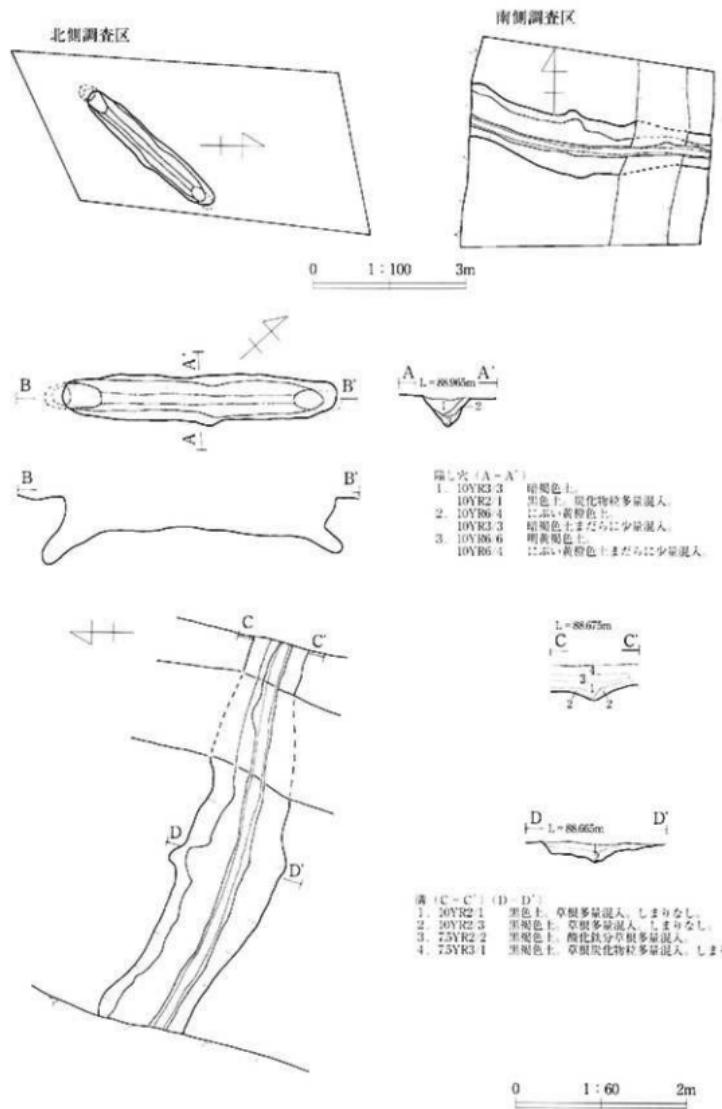
今回の調査でも、昨年度等の調査結果と同様に陥し穴が検出されており、縄文時代の狩猟場であったことが考えられる。ただし、今回の調査範囲等では堅穴住居等の集落を構成する遺構が検出されておらず、蒲沢遺跡を含めた周辺地域での土地利用が考えられる。



第29図 蒲沢遺跡位置図



第30図 蒲沢遺跡調査区位置図



第31図 蒲沢遺跡遺構配置図・検出遺構

## 9 緊急地方道整備事業

境遺跡（ME86-0069）

所在地：北上市福浦町地蔵堂

事業者：県南広域振興局北上総合支局上本部

調査期日：平成19年2月19日㈪、20日㈫

本遺跡は、北上市役所の南東約5.1kmに位置し、北上川東岸の自然堤防に立地している。現況は道路、水田で標高は50m前後を測る。

今回の調査は主要地道一関北上線下門岡地区道路改良工事に伴うものであり。今回の調査範囲は土木協議により、工事立会による対応としたが弥生時代の土器が出土したことから、発掘調査を行うこととした。

また、境遺跡の他の地点は平成18年度に当課で試掘調

査を行い、弥生時代初頭の土器や古代の土器や遺構を検出しておらず、平成19年以降に岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査を行っている。本遺跡は、岩手県埋蔵文化財センターの発掘調査で、縄文時代晩期末から弥生時代初頭にかけての土器群が多量に出土した北上市金附遺跡の南に位置し、同様の自然堤防上に立地している。

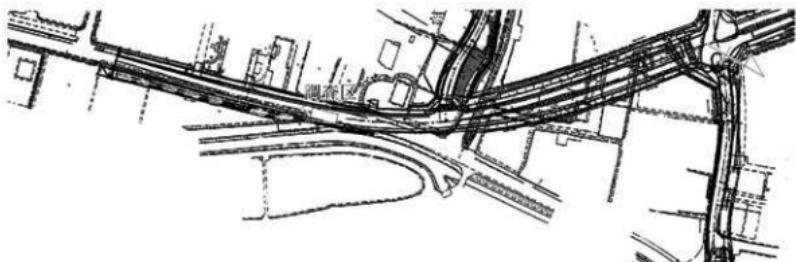
調査区の基本層序は第Ⅰ層 道路面60cm、第Ⅱ層 黄褐色土層110cm、第Ⅲ層 黄褐色砂層20cm、第Ⅳ層 暗褐色土層120cm、第Ⅴ層 黄褐色土層（遺物包含層）180cm、第Ⅵ層 黒褐色砂層 20cm、第Ⅶ層 青灰色土層となっている。

第Ⅴ層上部に弥生時代の土器が包含することが確認された。包含層の厚さは約20cmで、路盤上面から310～330cmの深さに相当する。調査範囲の西側に密度が高く土器が分布していた。出土した土器の総量は中コシテナ1箱分である。時期は縄文時代晩期末から弥生時代初頭とみられる。また、V層の下には黒褐色土のVI層が存在したが、この層からは縄文土器等の包含は確認されず、さらに下層からは湧水がみられた。

遺物はいずれも第V層上面で検出したもので、摩滅が著しく、固化できる個体は少ない。1、5は深鉢で口縁部直下まで縄文がみられるが、摩滅が著しい。3、4は変形工字文がみられるが、全体的に摩滅が著しい。6、7、8は深鉢の底部で、底部付近まで縄文が施されている。摩滅が著しいが、8はLR縄文である。3、4、5は赤褐色（5YR5/6赤褐色）の胎土で、他とやや異なる胎土である。7は胎土に石粒を多く含む、粗い胎土である。



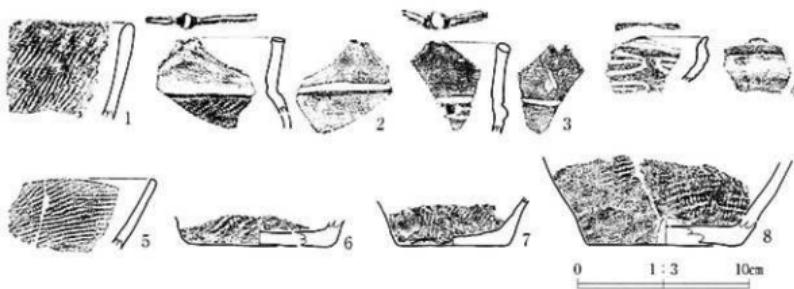
第32図 境遺跡位置図



第33図 境遺跡調査区位置図

今回の調査では遺構は確認されておらず、出土した土器も摩滅が著しく、器形の復元できるものはみられない。これらのことから、今回の調査範囲は集落の端部に当たり、周辺からの土器等が含まれる包含層のみが分布していたものとみられる。

境遺跡からは、平成19年度に行われた岩手県埋蔵文化財センターの調査でも、縄文時代初頭の土器が出土している。今回の調査で検出された土器も、同様の時期のものとみられ、集落の端部にあたるものと考えられる。また、今回の調査範囲では、古代の土器や遺構は検出されなかった。



境遺跡遺跡揭露遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特徴
1			弥生土器	鉢	縄文晩期から弥生初頭
2			弥生土器	壺	縄文晩期から弥生初頭
3			弥生土器	壺	縄文晩期から弥生初頭
4			弥生土器	壺	縄文晩期から弥生初頭
5			弥生土器	鉢	縄文晩期から弥生初頭
6			弥生土器	鉢	縄文晩期から弥生初頭
7			弥生土器	鉢	縄文晩期から弥生初頭
8			弥生土器	鉢	縄文晩期から弥生初頭

第34図 境遺跡出土遺物

## 10 北上川上流流域下水道事業

下芋田遺跡 (KE47-2195)

所在地：盛岡市玉山区芋田字上武道

事業者：岩手県北上川上流流域下水道事務所

調査日：平成18年9月4日(金)～6日(日)

下芋田遺跡は、IGRいわて銀河鉄道株式会社渋民駅の北北東約4.5kmに位置し、北上川左岸の沖積地に形成された微高地に立地している。今回の調査は下水道敷設に伴うもので、平成18年6月2日及び7日7日に試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された箇所の本発掘調査である。

調査区の基本層序は第Ⅰ層が盛土層で層厚が50cm、第Ⅱ層が旧水田耕作土と暗褐色土層で層厚30cm、第Ⅲ層が黒褐色土層で層厚が30cm、第Ⅳ層が暗褐色土層で層厚が30cmで上器を若干含んでいる。第Ⅴ層が検出面で、褐色土層で層厚が30cm、第Ⅵ層より下層は、砂質層、砂礫層である。

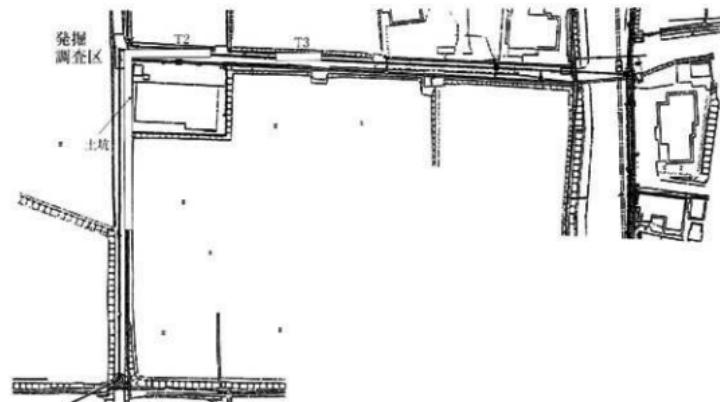
調査では、堅穴住居跡に付随するとみられる煙道部状土坑及び上坑4基が検出された。煙道部状土坑については、調査区が狭小であるため、住居跡のプランを確認することはできなかったが、大量の炭化物及び焼土ブロックが含まれていた。この煙道部状土坑のうち煙出し部分と思われる箇所からは、試掘調査時に平安時代のものと思われる土器片が数点出土している。その他4基の上坑が検出され、そのうち2号土坑及び4号土坑は、形状等から堀立柱建物等を構成する柱穴であると推測した。1号土坑は、30cm大的の礫が埋土上面に置かれ、その中の一つには、受熱の痕跡がみられ、遺構等の可能性があると考えられた。周辺部の精査を行い、この縁を外して掘り下げたが、底面までの深さは5cm程度であり、遺物は出土しなかった。埋土は黒褐色土の單層で、時期や性格は不明である。

遺物は土器は、土器片の小破片のみの出土で、図化可能なものはなかった。また、寛永通宝が1つ出土している。背面に「文」と記されるものである。

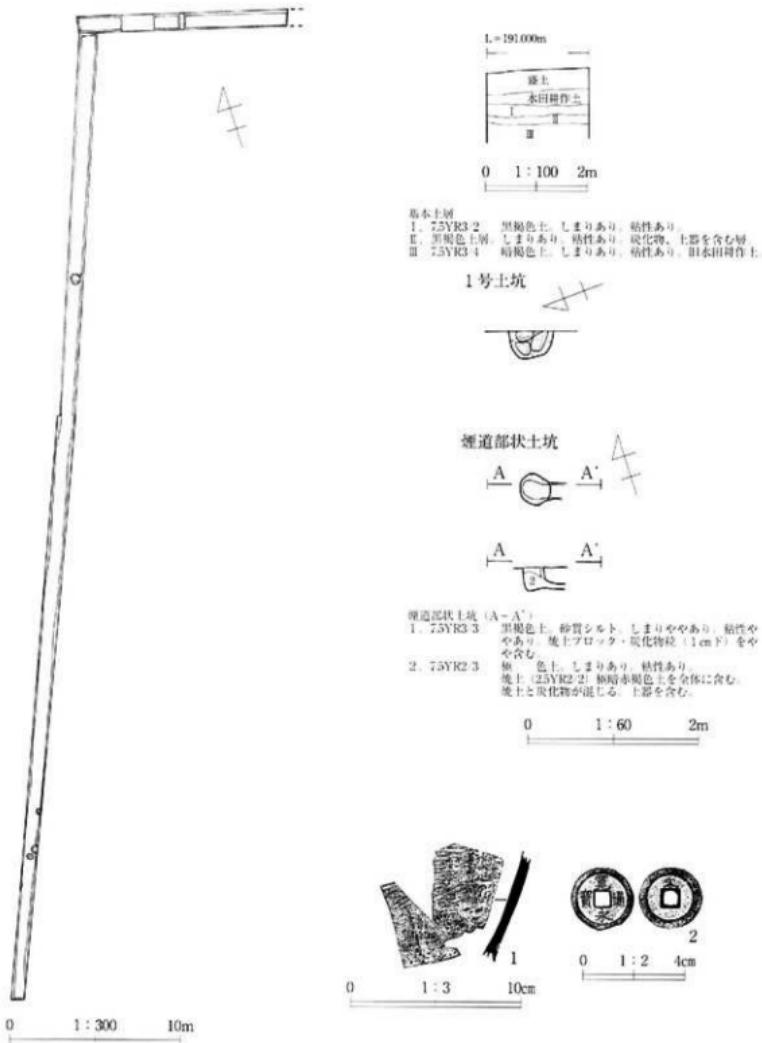
以上のように今回の調査範囲では、堅穴住居に伴うカマドの煙道部が検出されている。これらから遺跡内の微高地には平安時代の集落跡が分布するものとみられる。土層状況から、北上川等の影響を受けやすい範囲であったとみられる。



第35図 下芋田遺跡位置図



第36図 下芋田遺跡調査区位置図



下芋田跡跡検出遺構・出土遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	多様	特徴
1	II層		須恵器		体部破片 内外面手平
2	II層		残骨		寛永通宝

第37図 下芋田跡跡検出遺構・出土遺物

## 11 地域振興支援道路ネットワーク整備

### 事業要旨地区

清田台遺跡（NF91-1291）

所在地：一関市千厩町清田台

事業者：県南広域振興局一関総合支局農林部千厩農林センター

調査期日：平成19年2月15日(木)、16日(金)

本遺跡はJR大船渡線千厩駅の東北東約1.3kmに位置し、千厩川の支流金田川流域の段丘面から沖積低地に立地している。今回の調査は地域支援道路ネットワーク整備事業に伴うもので、道路建設後の湧水処理工事に伴うものである。平成18年5月12日付け千農七第199号の試掘依頼を受け、平成18年5月23日に当課が試掘調査をおこない、埋蔵文化財が確認された（回答・平成18年5月24日付け教生第300号）。今回この結果を受け、記録保存を目的とした発掘調査（調査面積約18m<sup>2</sup>）をおこなうことになった。今回の調査区の南側に隣接する範囲を岩手県埋蔵文化財センターが発掘調査を行い、縄文時代の中期を中心とした集落跡であることがわかっている。調査範囲は岩手県埋蔵文化財センターが調査をおこなった道路本線北側に接する緩斜面に位置する。東西幅約2m（上幅）、南北長10mの細長い調査範囲で、調査前現況の南端部の標高は約109.5m、北端部は108.5mである。

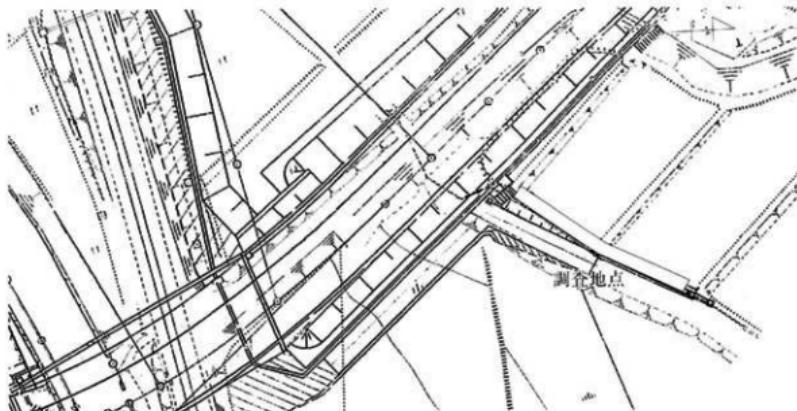
基本層序は第Ⅰ層が現在の水田耕作土である表土層で層厚は40cm、第Ⅱ層が明黄褐色の砂が混じる灰色土層で層厚は20cm、第Ⅲ層は砂粒が少量混じるオリーブ黒色土層で層厚は60cm、第Ⅳ層は砂粒を多く含む水成堆積層とみられるオリーブ黒色土層、第Ⅴ層は砂や礫を多く含む黑色土層、第Ⅵ層は青灰色砂層である。

掘削をおこなった結果、基本土層の第Ⅳ層から少量の、第Ⅴ層から多量の縄文土器片が出土した。第Ⅳ・V層は流水の痕跡が認められる水成堆積層で、出土した土器片も縄文時代の原位置を留めたものではなく、流水により再堆積したものと推測される。また第Ⅴ層下部では開元通寶の模銅錢が出土しており、中世以降に流水による再堆積があったと考えられる。縄文土器の遺物総量は21.5kgで、不掲載としたが破片類も多く出土している。

出土した縄文土器は大コンテナ2箱分で、縄文中期前半のものが主体を占める。また、今回の調査では遺構は検出されなかった。



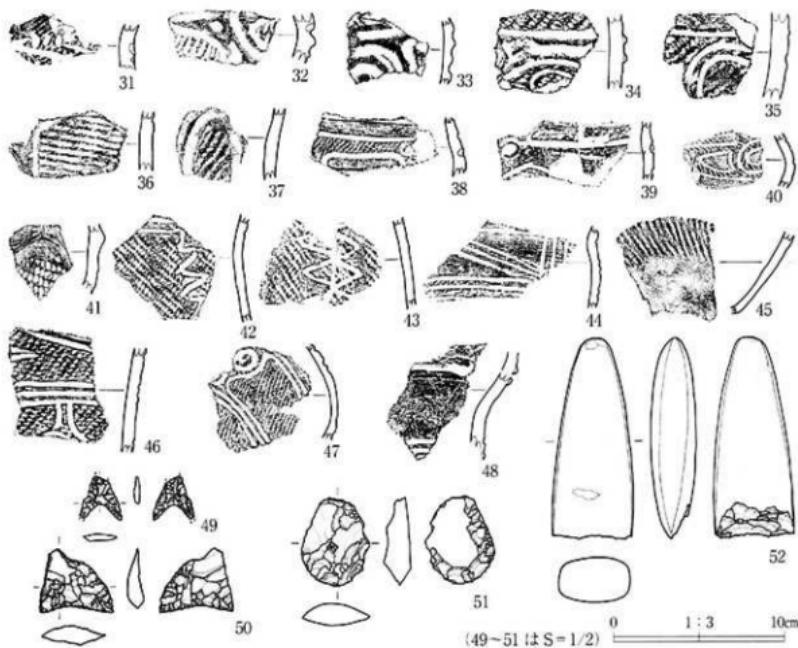
第38図 清田台遺跡位置図



第39図 清田台遺跡調査区位置図



第40図 清田台遺跡基本層序・出土遺物(1)



清田台遺跡発掘遺物観察表

番号	出土地點・層位	種別	器種・その他	番号	出土地點・層位	種別	器種・その他
1	IV ~ V層	縄文土器	中期	27	IV ~ V層	縄文土器	大木S
2	IV ~ V層	縄文土器	大木S	28	IV ~ V層	縄文土器	大木S a
3	IV ~ V層	縄文土器	晚期	29	IV ~ V層	縄文土器	大木S a
4	IV ~ V層	縄文土器	大木S	30	IV ~ V層	縄文土器	大木S a
5	IV ~ V層	縄文土器	大木S a	31	IV ~ V層	縄文土器	大木S a
6	IV ~ V層	縄文土器	大木S a	32	IV ~ V層	縄文土器	大木S a
7	IV ~ V層	縄文土器	後期	33	IV ~ V層	縄文土器	大木S a
8	IV ~ V層	縄文土器	後期	34	IV ~ V層	縄文土器	大木S
9	IV ~ V層	縄文土器	中期	35	IV ~ V層	縄文土器	大木S a
10	IV ~ V層	縄文土器	大木S a	36	IV ~ V層	縄文土器	大木S a
11	IV ~ V層	縄文土器	中期	37	IV ~ V層	縄文土器	大木S
12	IV ~ V層	縄文土器	大木S	38	IV ~ V層	縄文土器	後期
13	IV ~ V層	縄文土器	大木S	39	IV ~ V層	縄文土器	大木S
14	IV ~ V層	縄文土器	大木S	40	IV ~ V層	縄文土器	後期
15	IV ~ V層	縄文土器	大木S	41	IV ~ V層	縄文土器	大木S
16	IV ~ V層	縄文土器	大木S	42	IV ~ V層	縄文土器	大木S
17	IV ~ V層	縄文土器	大木S	43	IV ~ V層	縄文土器	大木S
18	IV ~ V層	縄文土器	大木S	44	IV ~ V層	縄文土器	後期
19	IV ~ V層	縄文土器	大木S	45	IV ~ V層	縄文土器	後期
20	IV ~ V層	縄文土器	大木S	46	IV ~ V層	縄文土器	大木S
21	IV ~ V層	縄文土器	大木S	47	IV ~ V層	縄文土器	大木S
22	IV ~ V層	縄文土器	大木S a	48	IV ~ V層	縄文土器	大木S
23	IV ~ V層	縄文土器	大木S a	49	IV ~ V層	石器	石器 (0.4g)
24	IV ~ V層	縄文土器	大木S a	50	IV ~ V層	石器	石器 (39g)
25	IV ~ V層	縄文土器	大木S	51	IV ~ V層	石器	石器 (87g)
26	IV ~ V層	縄文土器	大木S a	52	IV ~ V層	石器	石器 (237.5g)

第41図 清田台遺跡出土遺物(2)



## II 試掘調査



## 1 いさわダム建設事業

大平野Ⅱ遺跡 (NE30-2300)

所在地：奥州市胆沢区若柳字大平野

事業者：国土交通省東北地方整備局

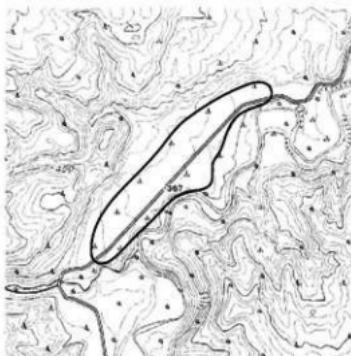
胆沢ダム工事事務所

調査期日：平成18年7月26日(火)～28日(木)

大平野Ⅱ遺跡は奥州市役所胆沢支所の南南西約19kmに位置し、胆沢川支流前川左岸に形成された扇状地状の傾斜地に立地している。今回の調査は、ダム建設事業に伴う堤体用具材取得候補地を対象としている。過去の試掘調査により埋蔵文化財が確認されており、今回の調査では遺跡隣接地を含めて試掘調査を行った。調査区に22本のトレンチを設定した (T167～T188)。

遺跡の南側の前川まで舌状にのびる段丘面にトレンチ (T167～T179) を設定した。この区域は、平成16年度の調査で陥穴状遺構が複数確認された箇所に隣接した区域である。T167、177で、土坑が検出された。T167で検出された土坑は70×90cmの規模で黒褐色の埋土である。T177で検出された土坑は45×75cmの規模で、埋土に炭化物や焼土を含んでいる。この箇所の沢を挟んだ西側の段丘面にトレンチ (T181～T184) を設定した。T184で200×70cm程の陥穴状遺構を検出した。遺物はT172付近で繩文土器片を確認している。

今回の調査区では、一部で検出面にあたる褐色土層が確認されたが、削平を受けている箇所も多くみられた。そのため、遺構の残存状況も良好ではなく、遺物量も多くない。ただし、調査区全体にわたって散漫ながらも遺構等が確認されている。今回の調査範囲は、遺構数等から遺跡の縁辺部にあたるものと考えられる。



第42図 大平野Ⅱ遺跡位置図



第43図 大平野Ⅱ遺跡調査区位置図

## 2 いさわダム建設事業

坪測Ⅰ遺跡 (NE31-1042)

坪測Ⅱ遺跡 (NE31-1023)

所在地：奥州市胆沢区若柳字坪測

事業者：国土交通省東北地方整備局

胆沢ダム工事事務所

調査期日：平成18年7月14日㈭～15日㈮、11月29日㈰、

12月14日㈪

坪測Ⅰ、坪測Ⅱ遺跡は奥州市役所の西南西約25kmに位置し、胆沢川支流前川の左岸の河岸段丘上に立地している。今回の調査は、ダム建設事業に伴う工事用道路及び付け替え道路の建設予定箇所を対象としている。

坪測Ⅰ・Ⅱ遺跡では、調査区に17本のトレンチを設定した(T1~T17)。遺跡は前川対岸に狼岩を望む川へ下がる南向きの緩斜面である。T3では、近世墓とみられる土坑を3基、縄文時代とみられる土坑を1基検出した。周辺部から縄文土器片も確認されており、このトレンチの周辺には住居跡等を含む縄文時代の遺構の存在が予想される。また、この調査区の上部の道路を挟んだ山際の緩斜面にT8～T10のトレンチを設定した。T8では、縄文時代の土器片を含む土坑を2基、30×30cmの土坑を1基、50×50cmの土坑を1基確認した。また、90cm四方程度に広がる焼土遺構も確認している。T9では、130×100cmほどの土坑を1基、T10では、焼土遺構を1基確認している。T11、12は遺構等はみられず、沢筋にあたることが土質等から推測された。これらの試掘調査結果から、坪測Ⅱ遺跡は、縄文時代の集落跡を中心として、一部に近世墓等が存在することがわかる。T3を設定した緩斜面から山際のT8～T10を設定した緩斜面に、沢で区切られる範囲に、遺構等が存在するものと判断できる。

このほかに、坪測Ⅱ遺跡より標高の低い段丘面に、3本のトレンチを設定したが (T15～T17)、いずれのトレンチでも一部がグライ化した土壤や、疊層がみられた。土層の状況から、沢状の地形であったとみられる。いずれのトレンチからも、埋蔵文化財は確認されなかった。



第44図 坪測Ⅰ・Ⅱ遺跡位置図



第45図 坪測Ⅰ・Ⅱ遺跡調査区位置図

### 3 東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～東和間) 新直轄事業

倉沢3区I遺跡(NE49-2021)

所在地：花巻市東和町倉沢地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査日：平成18年5月24日㈭～25日㈮

倉沢3区I遺跡は、花巻市役所東和支所の南約6.2kmに位置し、倉沢地区内の低位段丘上に立地している。遺跡の現況は水田及び畠跡で標高は176m前後を測る。今回の調査は東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業に伴うもので、事業予定地内にトレンチを37本設置した。

調査対象区は西側の標高が高く、東側に向かって標高が低く傾斜する地形である。地形に沿って水田が段状に造成されており、その造成工事によって地山面まで削平がなされ、旧来の地形が改変されている部分が多い。

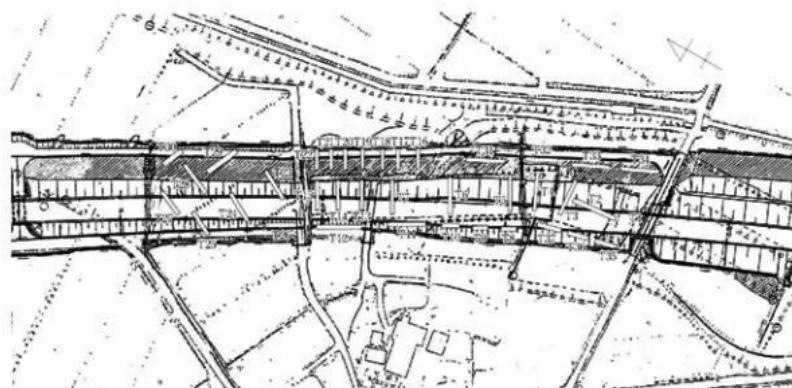
調査範囲南端のT1、T34、T35、調査範囲北端のT25、T27、T30、調査範囲中央のT11の南半でそれぞれ埋設沢が検出され、西から東に流れる3本の埋設沢が存在すると推測される。調査区範囲中央の埋設沢の東側(下流)部分は現地表面にもその痕跡を留めている。T25から近世末～近代の福鉢片が出土した他には、埋設沢からの人為的な遺物の出土はない。

T12で平安時代の土師器壺、須恵器壺、内里土師器壺が出土し、60×80cmの土坑が1基検出された。またT14で竪穴と類似する形状(幅30cm、長さ270cm)の遺構が1基、T15で幅160cmの溝が1条検出された。またT16で幅30cmの溝1条、径30cmの柱穴1基、T17で径50cmの土坑1基と幅40cmの溝1条、幅20cmの落し穴1基、T18で幅40cmの溝1条、T19で幅40cmの溝1条が検出された。

これらの遺物、遺構が検出されたトレンチはいずれも調査範囲中央部に位置している。遺構、遺物の分布範囲の境界は、南側が調査区中央部の埋設沢、北側がT15、T22の北に接する農道である。農道北側は標高が急に低くなっている、地形の変化が認められる。埋設沢の南、農道の北のトレンチでは遺構、遺物はみつかっていない。



第46図 倉沢3区I遺跡位置図



第47図 倉沢3区I遺跡調査区位置図

#### 4 東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）新直

轄事業

倉沢3区Ⅱ遺跡（ME49-2063）

所在地：花巻市東和町倉沢3区

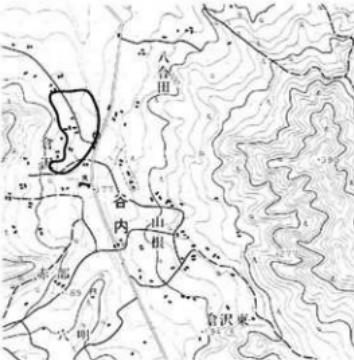
事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査明日：平成19年3月26日㈰

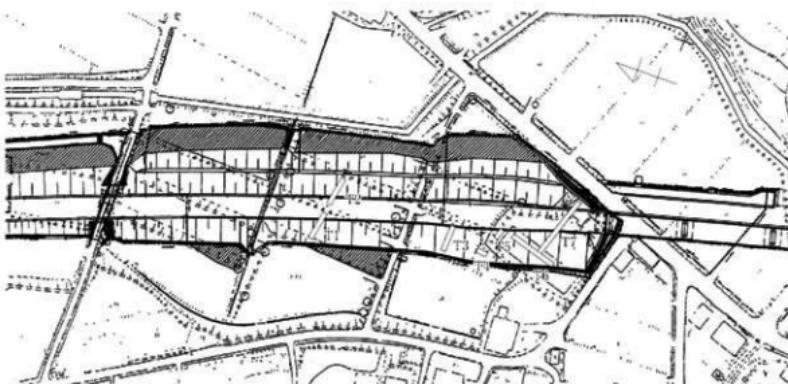
倉沢3区Ⅱ遺跡は、旧東和町役場の南東約8.0kmの河岸段丘に立地する。現況は水田と郵便局跡地で標高は166m前後を測る。今回の調査は東北横断自動車道（遠野～東和間）新直轄事業に伴うものである。調査対象区城は北側の水田部分と、南側の郵便局跡地に分かれる。調査区全体の地形は、西側の標高が高く、東側に向かうに従って標高を減ずるものである。調査対象区城の7箇所にトレンチ（T 1～T 7）を設定した。

水田部分のトレンチは標高の高い西側に多く設定した（T 1～T 4）。いずれのトレンチでも耕作土の下は、黒褐色の有機質分の多い低湿地に堆積する土が厚く堆積しており、遺構、遺物は存在しなかった。このことから、調査範囲の水田部分全体は低湿地が窪状に入り込む地形であり、埋蔵文化財の存在はないと判断される。調査範囲の北側にはトレンチを1箇所も設定しなかったが、今範囲は周囲に比較しても標高が低く、埋蔵文化財の存在はないと判断したのである。郵便局跡地にはT 5～T 7のトレンチを設定した。土層観察の結果、この範囲は水田部分とは異なり、段丘が岬状に張出す地形であることが明らかになった。T 7の黒褐色土（第Ⅱ層）中から縄文土器片が出土し、同層中で径約50cmの現地性の焼土が検出された。この黒褐色土層は郵便局跡地の西側では整地により失われている。また、北側のT 5では整地層の下に低湿地とみられる土層が厚く堆積することが確認され、郵便局跡地全体が解状に張出す段丘の上に立地しないことを示している。このように郵便局跡地では、埋蔵文化財の存在が確認されたが、遺跡が立地する段丘の範囲は郵便局跡地範囲と完全に重ならないことが明らかになった。また整地により、遺物を包含する土層が失われて範囲も存在する。しかしながら、これらの範囲を明示するのは難しい。

また、郵便局跡地のさらに南側は地形が明らかに遺跡範囲より低くなってしまい、現道路も含め、遺跡が広がる可能性はないと判断される。



第48図 倉沢3区Ⅱ遺跡位置図



第49図 倉沢3区Ⅱ遺跡調査区位置図

## 5 東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業

羽黒田遺跡（NE38-0210）

所在地：花巻市東和町安俵

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査日：平成18年7月11日(火)

羽黒田遺跡は旧東和町役場の南西約1.1kmに位置し、猿ヶ石川北岸の自然堤防上に立地している。現況は水田及び道路で、標高は101m前後である。今回の調査は、東北横断自動車道（遠野～東和間）新直轄事業に伴うものである。調査区に8本のトレーンチを設定した（T1～T8）。

調査対象区域は羽黒田遺跡の遺跡範囲の東端にあたり、T1、2、6、7で遺跡が立地する自然堤防と後背湿地との地形的な境界部分が確認された。T4、5を設定した箇所は後背湿地となっている。これらの調査結果から、自然堤防はトレーンチ北側より広がるものとみられる。

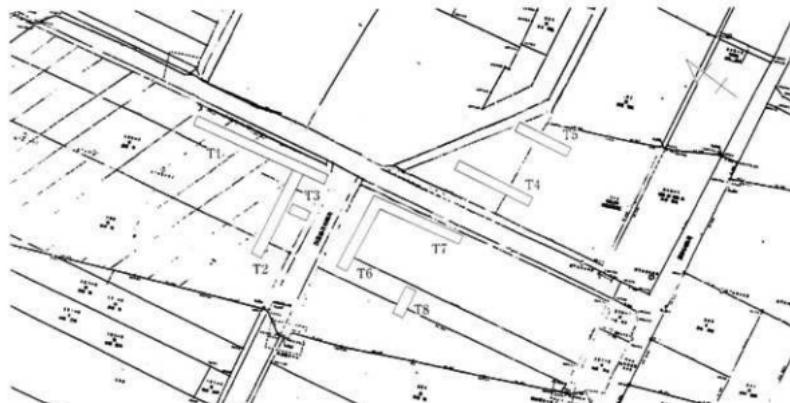
T6では自然堤防面と後背湿地との境界付近で土師器、須恵器、焼土等を含む層が確認された。この遺物包含層はT4及びT5でも確認された。自然堤防面から後背湿地に流れ込む遺物とみられるが、自然堤防面には造構等が存在するものと考えられる。

遺物はロクロ土師器や須恵器が多量に検出されており、9世紀中葉から後半を中心とする時間の遺物と考えられる。また、T7では縄文時代の磨製石斧も検出されている。

以上の結果から、羽黒田遺跡の今回の調査範囲では平安時代の遺物を多量に含む層が確認され、自然堤防面にはその時期の造構も存在する可能性が高い。また縄文時代の遺物も少量ではあるが、検出されていることから縄文時代の造構も周辺に存在することが考えられる。



第50図 羽黒田遺跡位置図



第51図 羽黒田遺跡調査区位置図

## 6 東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業

中嶋遺跡（NE38-0210）

所在地：花巻市東和町安俵

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査日：平成18年7月12日(水)

中嶋遺跡は旧東和町役場の南西約1.0kmに位置し、猿ヶ石川北岸の自然堤防から後背湿地にかけて立地している。現況は水田及び道路で標高は100m前後である。今回の調査は東北横断自動車道（遠野～東和間）新直轄事業に伴うもので、調査対象区域に6本のトレンチを設定した。

調査範囲は主要地方道江刺東和線で東西に分かれており、

遺跡範囲に近い東側に5本、西側に1本のトレンチを設定した（T1～T6）。

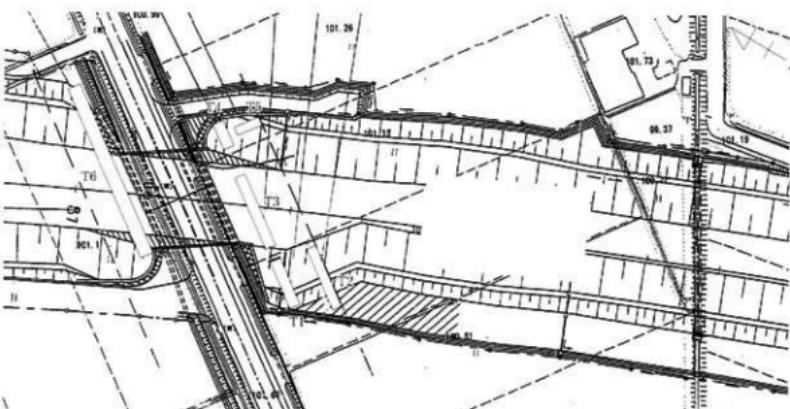
東側の調査区では、北側が南側より標高が高く、北側が自然堤防の端部で南側が後背湿地にあたるものとみられる。後背湿地に位置するとみられるT1、2、3では9世紀中葉とみられる土師器や須恵器を含む層が確認された。この包含層は20cm程度の厚さである。自然堤防面に設定したT4、5では遺物包含層にあたる層は、削平されており存在しなかったが土師器片が検出された。また、T5では幅約1m程の南北に走る溝が検出された。今回の調査範囲は自然堤防の端部であることから、遺構等も少なかったが、より自然堤防面の中心に至る箇所では平安時代の遺構等が分布するものとみられる。

調査区西側では、東側と同様に北側が南側より標高が高くなる様子がうかがえた。しかし、遺物を含む層も確認されなかった。このため、遺構等の分布は東側の調査区内に収まるものと考えられる。

以上の結果、中嶋遺跡では自然堤防面に接する後背湿地から自然堤防にかけて、平安時代の遺物が確認された。遺物の状況や地形面の様相から、自然堤防面には当該時期の遺構が存在するとみられる。



第52図 中嶋遺跡位置図



第53図 中嶋遺跡調査区位置図

## 7 一般国道盛岡西バイパス改築工事

矢盛遺跡（LE26-0139）

所在地：盛岡市向中野字野原

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成18年9月28日㈭

矢盛遺跡は、盛岡市役所の南西約3.5kmに位置し、零石川南岸の微高地に立地している。現況は道路、宅地跡、畑で標高は123m前後を測る。

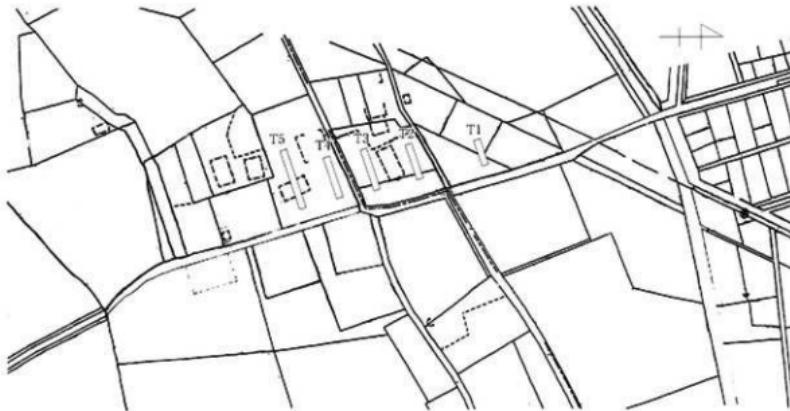
今回の調査は一般国道4号盛岡西バイパス改築工事に伴うものである。今回の調査対象範囲の5カ所にトレンド（T1～T5）を設定した。

T1は宅地跡地で、厚さ約80cmの盛土がなされていた。盛土の下の黒色土を除去したところ、径約30cmの柱穴が

2基検出された。柱穴の所属時期は中世～近世と推測される。また、T1では近世の陶磁器が少量出土している。T5では径80cmの円形の土坑と50×70cmの方形の土坑が検出された。所属時期ははっきりしないが、中世～近世のものと推測される。T2、T3、T4では遺物の出土、遺構の検出はなかった。今回の調査対象範囲は遺構の分布は薄いが、中世～近世の堀立柱建物や土坑が存在すると推測される。



第54図 矢盛遺跡位置図



第55図 矢盛遺跡調査区位置図

## 8 一般国道盛岡西バイパス改築工事

細谷地遺跡（LE26-0214）

所在地：盛岡市向中野字野原

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査日程：平成18年9月28日㈭

細谷地遺跡は、盛岡市役所の南西約3.5kmに位置し、零石川南岸の微高地に立地している。現況は道路、宅地跡、りんご畠で標高は123m前後を測る。

今回の調査は一般国道4号盛岡西バイパス改築工事に伴うものである。今回の調査対象範囲は北側と南側の2カ所に別れる。南側調査区は5カ所にトレンチ（T1～T5）を、北側調査区には1カ所にトレンチを設定した。

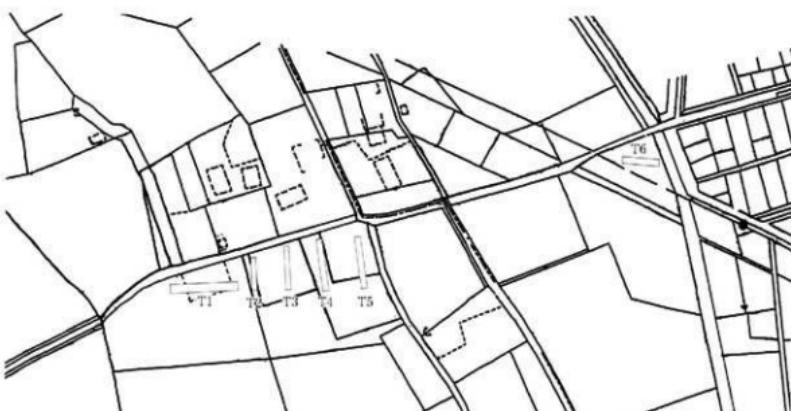
T1では径250cmと径180cmの円形プランの土坑が2基検出された。T2では径80cmの土坑1基と径20～30cmの柱穴3個が検出された。T3では造構の検出はなかった。T4、T5では径20～30cmの柱穴が合わせて7個検出された。これらの造構の時期は明確ではないが、中世～近世のものと推測される。出土遺物はT1で近世陶器が少量、T4で縄文土器片が1片出土した。

南側調査区のT6では長さ200cm、幅25cmの陥し穴が1基検出された。形状から縄文時代のものと判断される。

今回の調査対象範囲は柱穴の散布状況から中世～近世の堀立柱建物が存在すると推測される。また縄文土器片の出土、陥し穴の検出から縄文時代の生活の痕跡も存在すると推測される。



第56図 細谷地遺跡位置図



第57図 細谷地遺跡調査区位置図

## 9 一般国道106号都南川目道路改築工事

川目A遺跡 (LE28-0151)

所在地：盛岡市川目第5地割

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成18年10月12日(4)

川目A遺跡は、盛岡市役所の南東方向約8kmに位置し、蘿川左岸に河岸段丘及び丘陵地に立地している。今回の調査は、一般国道106号改築工事に伴うものである。調査対象区域の25カ所にトレント（T1～T25）を設定した。今回の調査対象区域は2カ所に分かれ、それぞれを「東区」、「西区」と称する。

東区は東側の畠地部分と西側の水田部分がある。畠地部分は今年度（平成18年度）に岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査をおこなった範囲の隣接地である。この畠地部分は地形面も発掘範囲と連続し、遺物が表土に散布することも確認され、発掘調査で検出された遺構（配石遺構）が連続して存在するとみられる。水田部分には3カ所（T1～T3）のトレントを設定した。いずれのトレントでも耕作土下の黒褐色土（第Ⅱ層）に縄文土器片が含まれていた。特にT1は遺物量が多く、東側深掘箇所では約1mで9号袋1つ分の土器が出上した。包含層下の黄褐色土層（第Ⅲ層）上面では遺構が検出された。T1では土坑2基、T2は土坑1基、T3では柱穴状1基である。T1では深掘箇所以外に遺構検出面まで掘り下げておらず、存在する遺構数はさらに多いと推測される。また、T1の西側深掘箇所では第Ⅲ層下に暗褐色土層（第Ⅳ層）が確認された。この箇所での遺物の出土はなかったが、埋蔵文化財センターの発掘調査では、これに対応すると推測される土層で縄文中期の包含層が確認されており、本調査対象範囲においても第Ⅳ層の調査が必要と思われる。西側調査区は丘陵と丘陵の間を流れる沢とその周辺の水田からなる。T4～T11の8箇所にトレントを設定した。T4、T5では耕作土下の黒褐色土（第Ⅱ層）で縄文土器片が出土し、T4のⅢ層上面で2×2m以上の堅穴住居のプランが検出された。T4、T5の周辺は現況では造成された水田であるが、原地形は丘陵の裾部に相当すると判断される。T6～T11では礫を多量に混入する第Ⅱ層の下は砂礫層で、遺構、遺物は確認されなかった。土層から、この周辺は沢の開析と堆積によって生成された地形と判断される。また、有機質遺物を含む可能性のある低湿地層等は存在しなかった。



第58図 川目A遺跡位置図



第59図 川目A遺跡調査区位置図

## 10 一般国道4号平泉バイパス改築工事

瀬原Ⅱ遺跡 (NE66-1086)

所在地：平泉町平泉字瀬原

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査日：平成18年12月26日㈬

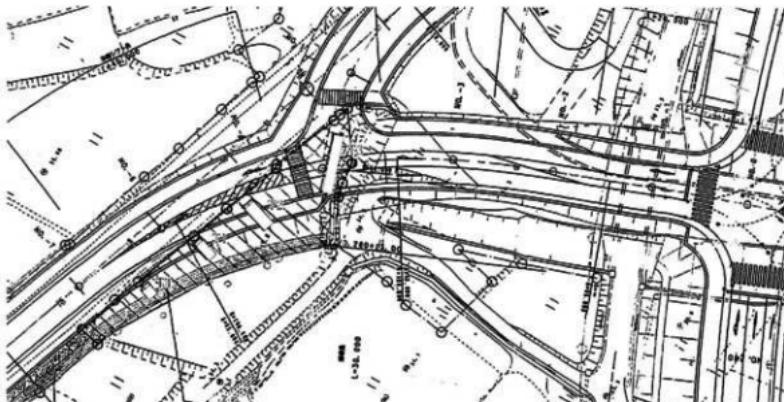
瀬原Ⅱ遺跡は東北自動車道平泉前沢インターチェンジの南南東約2kmに位置し、更新世の低位段丘面に立地している。現況では、国道を挟んで西側の水田面と今回の調査区城とは約1mの高差があり、傾斜を考慮しても約0.5m程度は削平されているものと考えられる。現況の標高は約34mである。本遺跡では、これまでにも平泉町教育委員会や岩手県埋蔵文化財センターにより調査が行われており、古代から中世の遺構や遺物が多数検出されている。今回の調査は一般国道平泉バイパス改築工事に伴うもので、調査区に4本のトレンチを設定した (T1～T4)。

いずれのトレンチでも、表土下に地山とみられる土層が確認された。この面では、以前の水田造成時のものとみられる、重機等の痕跡がみられた。今回の調査区城では全体にわたって造成が行われたものと考えられる。そのため、地山とみられる表土直下の層で遺構検出を行った。T1では120×120cmほどの円形の土坑を検出した。理上は黒褐色の砂質粘土で、亜円礫や炭化物を含んでいる。T2では、不整形の柱穴状の遺構を検出した。褐灰色砂質粘土がまとまっており、柱穴等の可能性があるとみられる。

今回の調査区城内では遺物は出土していないが、周辺の調査状況等から判断して、今回の調査区で検出した遺構も古代から中世にかけての遺構の可能性が高い。瀬原Ⅱ遺跡では、以前の水田造成時の地形変更により、遺構等は削平を受けていると考えられる。そのため、遺構等の残存状況は良好ではないが、一部に埋蔵文化財が存在することがわかる。



第60図 瀬原Ⅰ遺跡位置図



第61図 瀬原Ⅱ遺跡調査区位置図

## 11 国営いさわ南部農地整備事業

岩洞堤遺跡 (NE34-1263)

所在地：奥州市胆沢区小山字岩洞沢

事業者：農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所

調査日目：<第1期>平成18年10月19日(木)～10月25日

(4回)

<第2期>平成18年10月31日(木)～11月10日

(5回)

岩洞堤遺跡は、JR東日本鉄道東北線陸中折居駅の西方約7.5kmに位置し、胆沢層状地の中央付近に北西～南東方向に広がる横道段丘上に立地する。現況は水田、牧草地、山林である。

今回の試掘調査は、国営いさわ南部農地整備事業に係るもので、今年度の本調査区で2カ所の旧石器ブロックが認められたことから、その遺物の広がりを把握する目的で実施した。

本調査での石器の出土状況から、地形的に調査区南側にある旧河道側に遺物の広がりが予想されたため、第1期試掘調査ではその周辺を中心にT6～T22 (2×2m) を設定、精査した。その結果、旧石器はT8・T10・T11・T13・T19・T20・T22の各トレンチから出土し、その種類は石刃、ナイフ形石器、剥片、ハンマーなどであった。なお、T10では溝状の陥り穴状遺構が1基確認された。

これを受け第2期試掘調査では、さらに東側に範囲を広げ、T1～T5 (6m×40～70m) を設定した。結果、T1・T2において溝状の陥り穴状遺構を1基ずつ計2基検出したが、それ以外に遺構は確認できなかつた。また、旧石器の有無を確認するために設けた29箇所の2×2mトレンチではいっさい遺物が出土しなかつた。なお、T1北側の盛土中から石器剥片が1点出土したが、時期は判断できない。

2回の試掘調査で出土した旧石器の総数は、製品・剥片・ハンマーなどの標石器を含め15点ほどで、それらの年代は、出土した層位（黒沢尻火山灰層上位）から、およそ30,000年前の年代と考えられる。



第62図 岩洞堤遺跡位置図



第63図 岩洞堤遺跡調査区位置図

## 12 馬淵川沿岸農業水利事業

上町遺跡（IE89-2346）

所在地：二戸市金田一字上平

事業者：東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所

調査日：平成18年9月20日(水)

上町遺跡は、IGRいわて銀河鉄道金田一温泉駅の南約2kmに位置し、馬淵川左岸の河岸段丘上に立地している。南北に延びる河岸段丘上の平坦面が、遺跡範囲となっている。また周囲は相馬大作の演武場跡地とされており、関連する旧跡が存在する。今回の調査は、馬淵川沿岸農業水利事業に伴うものである。現況は畑と道路である。調査範囲にバイブルайн埋設位置に沿って8本のトレンチを設定した（T1～T8）。

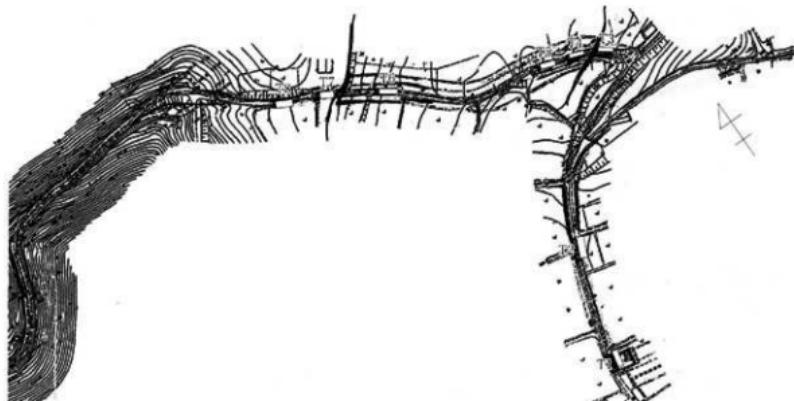
T4～T6は調査範囲の北側の平坦部分に設定した。いずれのトレンチでも10～20cm程の表土及び盛土を除去すると、黒褐色土が確認できた。この層の上面で、多量の縄文土器が検出された。また、これらのトレンチでは、周囲の畑に縄文土器の散布が認められた。このように縄文時代の遺物が多量に確認でき、この平坦面には縄文時代の遺物及び遺構が濃密に分布していることが想定できる。T3を設定した東側斜面では、盛土の直下に地山が検出され遺物も出土していない。また、T7及びT8を設定した西側斜面では、厚い盛土の直下に厚い黒色土層を確認したが、遺構及び遺物は確認できなかった。

T1とT2は調査範囲の南側の平坦部分に設定した。いずれのトレンチでも盛土の下層に黒色土層が確認できたが、遺構及び遺物は確認できなかった。

以上の結果、調査範囲北側の平坦面では遺物が多く確認できた。また、今回の調査範囲外ではあるが、このトレンチの周囲にも遺構及び遺物が分布することが推定できる。



第64図 上町遺跡位置図



第65図 上町遺跡調査区位置図

### 13 農用地総合整備事業下閉伊北地区

割沢遺跡 (KG01-2113)

所在地：下閉伊郡普代村字萩牛、割沢

事業者：緑資源機構東北北海道整備局下閉伊北建設事業所

調査期日：平成18年7月13日(木)、14日(金)、26日(木)

割沢遺跡は、普代村役場の南南西約5kmに位置し、普代川沿いの山間に立地している。割沢遺跡は江戸時代の後期に操業された割沢鉄山として知られ、「割沢御鉄山錦書」などの鉄山関係の文書が残されていることでも著名である。現在でも沢沿いの平場やその周辺には鉄滓が散布しており、周辺に鉄山関係の遺構が存在する可能性がある。また、周辺の測量が過去に行われており、地形観察等から遺構が推測されている。今回の調査は道路建設事業に伴うもので、鉄山関連の遺構が予想される範囲にかかるのは沢沿いの平坦面についてである。

沢沿いの平坦面では沢に下る緩斜面にいたるまで一面に鍛治によるとみられる鉄滓が多量に散布している。また、この鉄滓の中には羽口等も含まれている。鍛治滓は2m程度の厚さで堆積しており、濃密な分布が予想される。今回の調査では、遺構の破壊を防ぐため重機等による掘削は避けているが、鉄滓が鍛治滓であることや、今回の調査区域の南側の平坦面に高殿と推測されている箇所がありその周辺でも鉄滓が散布していることなどから、今回の調査範囲でも製鉄関連遺構が所在する可能性が高い。過去の調査などから、今回の範囲では鍛冶炉や掘立柱建物跡の存在が予想される。

前述したように割沢鉄山は、操業当時の状況を記した文書が豊富に残されていることからも、当時の鉄山操業の実態を検討する上で貴重な遺跡であることが知られている。今回の試掘調査の結果から、周辺地域には関連遺構が分布するとみられる。



第66図 割沢遺跡位置図



第67図 割沢遺跡調査区位置図

#### 14 一般国道106号梁川道路起点部改良工事

戸仲遺跡（LE28-0232）・戸仲遺跡隣接地

所在地：盛岡市川目第4地割地内

事業者：盛岡地方振興局土木部梁川ダム建設事務所

調査日：平成19年2月8日本

戸仲遺跡は、盛岡市役所の南東約7.0kmに位置し、梁川北岸の河岸段丘に立地している。現況は道路、水田で標高は190m前後を測る。

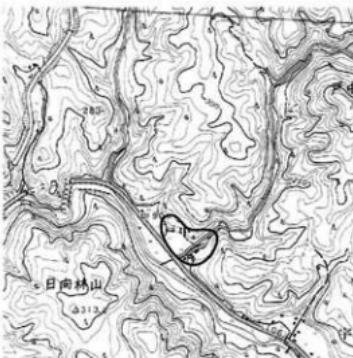
今回の調査は一般国道106号線梁川道路起点部改良工事に伴うものである。調査対象範囲は、戸仲遺跡の登録範囲内の国道北側地点と、遺跡隣接地に相当する国道南側の地点に分かれる。国道北側地点には2箇所（T1、T2）、国道南側地点には4箇所（T3～T6）のトレンチを設定した。

国道北側地点は遺跡登録範囲内であるが、遺構、遺物は見出されなかった。耕作土下の第Ⅱ層には礫が非常に多量混入しており、その下のⅢ層は河川に由来すると推測される砂礫層であり、埋蔵文化財は存在しないと判断される。

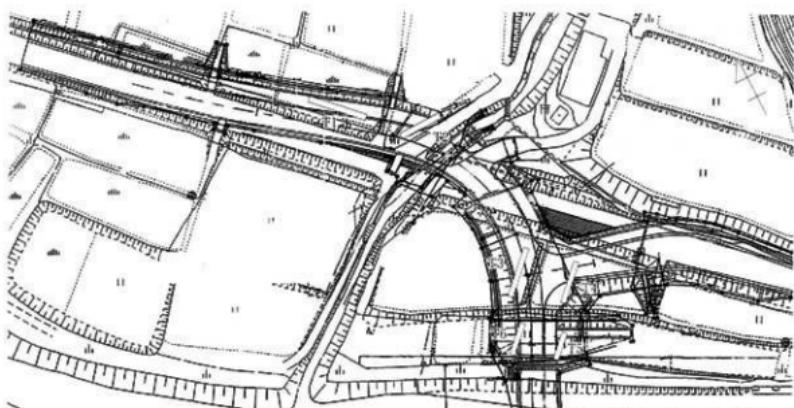
国道南側地点は現況は水田であるが、上段（国道側）と下段（梁川側）の2段に分かれる。上段では、耕作土下の第Ⅱ層から縄文土器片が出土した。T3の北側では第2層が削平のため失われているが、南側では残存している。T4では非常に多量の土器片が出土し、付近に堅穴住居跡等の存在も予測される。

下段は上段と土層が異なっており、耕作土の下には砂質土（第Ⅱ層）が厚く堆積している。この層中でも縄文土器片が出土し、上段の縄文土器出土層と対応することが確認された。

以上、国道南側地点（戸仲遺跡隣接地）で遺物が出土し、埋蔵文化財が存在することが確認された。



第68図 戸仲遺跡位置図



第69図 戸仲遺跡調査区位置図

## 15 一般国道106号都南川目道路工事

小屋野遺跡(LE28-0263)

所在地：盛岡市川目第5地割122-82・22-1・22-2・  
122-29ほか

事業者：盛岡地方振興局土木部梁川ダム建設事務所

調査期日：平成18年12月27日(水)～28日(木)

小屋野遺跡は盛岡市役所の南東約7.4km、梁川によって形成された河岸段丘上に立地している。調査区の標高は212～233m前後を測り、現況は山林となっている。今回の調査は一般国道106号都南川目道路工事に伴うものである。今回の調査を実施した小屋野遺跡は縄文時代後期の散布地として周知されている。

今回の調査区は東側の高位面と西側の高位面及び低位

面の3箇所に分かれる。東側高位面については2～3箇所のトレンチ内で表土下に黒褐色土が30cmあまり残存するが、多くは表土直下に地山層とみられる層が確認され、遺構、遺物は一切確認されなかつた。

一方西側については、高位面は東側と同じような状況で、表土直下に地山層とみられる層が確認され、遺構、遺物は確認されなかつたが、低位面については調査区北西部のT24、T26、T27の3箇所から土器の出土が確認された。出土面は第II層下部であるが、T27では-80cmの面から縄文土器の体部片など多数の土器の出土が見られている。同トレンチからは焼土遺構も1基確認されているが、同遺構の検出面は-100cmである。土器の出土地点と焼土検出地点は2mほど離れているが、出土状況から見て同時期のものである可能性が極めて高く、どちらも同じ住居跡に関連するものである。T24、T26についてはまとまった出土ではないが、どちらからも縄文土器が数点出土している。土器の出土は調査区の北側で見られたが、地形的に見て、今回の調査区低位面については遺構、遺物が広く分布する可能性が極めて高いものとみられる。



第70図 小屋野遺跡位置図



第71図 小屋野遺跡調査区位置図

## 16 松園養護学校整備事業

松屋敷遺跡 (KE86-2378)

所在地：盛岡市上田字松屋敷

事業者：岩手県教育委員会事務局教育企画室

調査期日：平成18年10月16日㈪

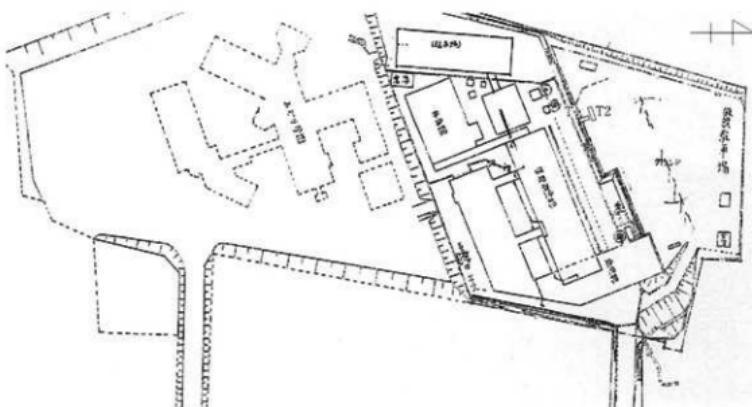
松屋敷遺跡は、盛岡市役所の北約6.5km、北上川によって形成された河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は15m前後を測り、現況は校庭となっている。今回の調査は岩手県立松園養護学校整備事業に伴うものである。今回調査を実施した松屋敷遺跡は縄文時代早期及び中期の集落跡として周知されており、平成3年度には岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって遺跡の一部の調査が実施されている。また平成17年度にも駐車場建設による試掘調査が本課によって実施され、縄文時代の住居跡などが確認されている。今回は前回試掘調査を実施した地点より20mほど南側の地点で、現在の校庭の南辺にある。

今回の調査では2箇所のトレンチを設定し実施した。T1は北東～南西方向に設定したが、その結果、現在の校庭の南辺部は北から南に向かって低くなることが明らかになった。旧表土と見られる黒褐色土は南に行くほど厚くなるが、その地点で遺物、遺構を確認することはできなかった。T1北端部の黄褐色土の埋土（IV層）の中から縄文土器片が2片出土している。T2はT1の北隣地点に北西～南東方向に設定した。この部分はⅢ層の堆積が薄く、IV層が厚く堆積する。IV層を50cmほど掘り進めると1辺が130cmほどの住居状遺構が検出された。検出面は表土～120cmの暗褐色土層上面と考えられる。住居は北側に広がるものと見られるが、現在も授業等で使用しているため、それ以上確認することはしなかった。

昨年度の調査においても今回と同様、縄文時代の住居跡が確認されているが、前回は黒褐色土中からの検出（地表から-80cm地点）であり、今回は埋土が褐色土、地表からの確認面も前回より低い地点であることから、過去の発掘調査で確認されたとおり、今回の調査範囲においても縄文時代の複数期の生活面が残る可能性が高いものとみられる。



第72図 松屋敷遺跡位置図



第73図 松屋敷遺跡調査区位置図

## 17 主要地方道花巻北上線東十二丁目地区側溝設置工事

小袋遺跡 (ME36-1331)

所在地：花巻市東十二丁目第12地割

事業者：県南広域振興局 花巻総合支局土木部

調査期日：平成18年8月7日(月)

小袋遺跡は、花巻市役所の南東約3.0kmに位置し、北上川旧河道の自然堤防に立地する。現況は道路及び住宅で標高は20m前後を測る。

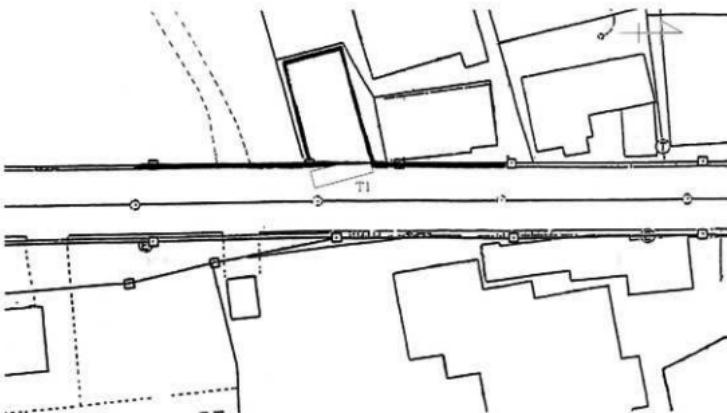
今回の調査は主要地方道花巻北上線東十二丁目地区側溝設置工事に伴うものである。調査対象区域の1カ所にトレンチ (T1) を設定した。

現地表下約110cmの第Ⅲ層上面において溝と土抗状の遺構が検出された。いずれも調査対象区域外にプランが伸びており、溝は幅20cm以上、長さ3m以上のものである。土抗状の遺構は20cm×20cm以上の規模である。出土遺物はなく、検出遺構の年代は不明である。

調査区は現道の脇で、調査可能範囲が限られていたため、検出遺構は少なく、遺物はみられなかった。しかし、埋土の状況等から、周辺にも埋蔵文化財が広がる可能性が高いと考えられる。



第74図 小袋遺跡位置図



第75図 小袋遺跡調査区位置図

## 18 直轄河川改修事業 北上川上流石鳥谷築堤

小館遺跡（LE96-0305）

所在地：花巻市石鳥谷町字好地

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査日：平成18年8月10日㈭

小館遺跡は、花巻市役所石鳥谷総合支所の北約600mに位置し、北上川西岸の河岸段丘に立地している。現況は山林及び原野で標高は87m前後を測る。

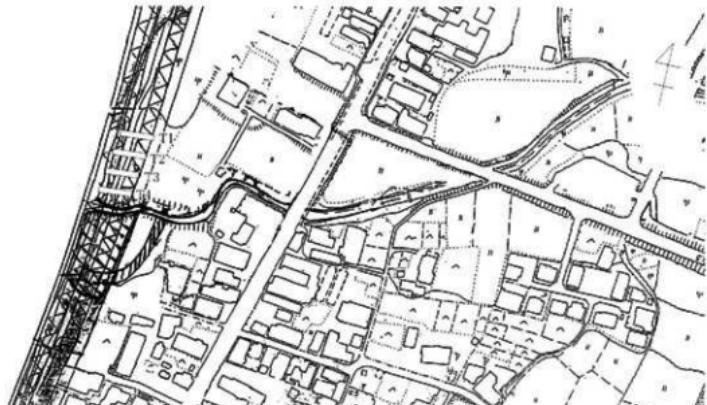
今回の調査は直轄河川改修事業北上川上流石鳥谷築堤に関わるものである。小館遺跡について、岩手県中世城館分布調査報告書には「東流する大沢口川が北上川に合流する北岸の段丘上。西側に幅8mの堀が一部残る。規模60m×60m」と記される。今回の調査対象範囲は大沢口川を境に、北側（北側調査区）と南側（南側調査区）に分かれる。

北側調査区は、通路、立木の関係上、重機の進入、掘削が不可能であったが、現地で確認したところ、西側から北側に廻る堀の痕跡が認証でき、中世城館に関わる造構が存在することが判断できた。また、堀の北側部分は登録の遺跡範囲からは外れるが、遺跡範囲内よりも標高が高く、中世城館を構成する範囲の可能性が高く、調査の必要があると判断される。南側調査区は4カ所にトレチ（T1～T4）を設定した。いずれのトレチでも洪水堆積層と推測される砂（第I層）が厚く堆積し、その下には黒色～暗灰色土が確認され、湧水が著しく、低湿地に堆積した土層と判断される。周辺の地形を考え合わせて、南側調査区全体が低湿地であったことが推測され、中世城館の範囲からは外れていると判断できる。なお、南側調査区のいずれのトレチでも、造構、遺物の出土はなかった。

以上、北側調査区は中世城館の範囲と確認され、埋蔵文化財調査が必要と判断される。南側調査区は中世城館の範囲外と考えられ、埋蔵文化財調査の必要はないと判断される。



第76図 小館遺跡位置図



第77図 小館遺跡調査区位置図

## 19 中山間地域総合整備事業 町井地区

徳島遺跡（ME39-1001）

所在地：花巻市東和町町井

事業者：県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成18年12月6日(火)

徳島遺跡は、花巻市役所東支所の南東約3.1kmに位置し、猿ヶ石川南岸の河岸段丘に立地する。現況は水田、宅地で標高は109m前後を測る。今回の調査は中山間地域総合整備事業町井地区に伴うものである。調査対象範囲に11カ所のトレンチ（T1～T11）を設定した。

T1～T5は周知の遺跡範囲内に設定したものである。

T1からは長径290cm、短径190cmの楕円形の土抗が検出された。埋土中には焼土、炭化物が混入し、鉄製品が出土した。また、径約30cmの柱穴が2基検出されている。

検出面は現表土から40cmの深さで、標高108.87mである。T2では遺構は検出されなかつたが、現地表から50cmの深さ（標高108.77m）から土師器片が出土している。T4からは東西方向に走る110cmの溝が1条検出された。検出面は現地表面から80cm下（標高108.42m）である。T3、T5では遺物の表土、遺構の検出はなかつた。周辺部にも広がりが予測されるため、遺跡範囲外にT6～T11のトレンチを設定した。その結果T6では柱穴3個が深さ60cm（標高109.25m）から検出され、近世の陶器片が出土した。3個の柱穴は直線上に約140cm間隔で並び、同一の堀立柱建物を構成する柱穴と推測される。T7では径約100cmの方向の土抗3基と柱穴1基が深さ60cm（109.33m）で検出され、T8では柱穴3個と繩文土器片が深さ60cm（109.33m）で検出された。またT9でも柱穴3個と繩文土器片が深さ70cm（109.23m）で検出された。T6～T9で遺構、遺物が確認されたことにより、埋蔵文化財の存在範囲は周知の遺跡範囲の東側に広がることが確認された。T10、T11は遺跡範囲よりも標高が約1m低い、猿ヶ石川側の水田面である。これらのトレンチから遺構、遺物は検出されず、川側には遺跡が広がらないことが確認された。今回の調査で検出された土抗、柱穴の年代は、共伴する遺物が明確ではなく、中世～近世に属するものと推測される。また、平安時代の土師器、繩文土器片が出土し、これらの時期の遺構の存在も予測される。



第78図 徳島遺跡位置図



第79図 徳島遺跡調査区位置図

## 20 緊急地方道整備事業

雨滝（舌崎A）遺跡（IE89-2346）

所在地：二戸市金田一

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成18年9月19日㈬

雨滝（舌崎A）遺跡は、IGRいわて銀河鉄道金田一温泉駅の北西約3.0kmに位置し、馬淵川右岸の河岸段丘上に立地する。雨滝遺跡は昭和20年代から30年代にかけて、明治大学が2度調査を行っている。その調査では、縄文時代晚期初頭の土器が多量に出土し、土偶等も出土している（岸沢長介1960『石器時代の日本』考古書館）。本遺跡は、調査時と同様に現在でも緩斜面の畑地となっており、遺構及び遺物の存在が推測できる。今回の調査範囲は、明治大学が調査したとされる地点の道路を挟んだ南側の緩斜面である。今回の調査は地方道路の整備に伴うものである。調査区域に7本のトレンチを設定した（T1～T7）。

T1は、今回の調査区域のもっとも高い段丘面に設定した。第Ⅲ層暗褐色土層で、40×40cmの土坑を1基、柱穴状土坑を2基確認した。土坑は埋土中に縄文晚期の土器片を含んでいる。一部で中振火山灰を含む第Ⅳ層が確認でき、第Ⅲ層の層厚は薄いものと考えられる。T2はT1を設定した段丘面から1段下がった面に設定している。表土下に褐色の地山層がみられた。T3～T4はもっとも低い段丘面に設定している。層序はT1と同様だが、第Ⅰ層下にT1にはみられない暗褐色土層がみられる。第Ⅳ層となる暗褐色土層で約20×20cmの土坑が2基確認されている。

T6及びT7は、現在駐車場となっている地点である。この区域では200cm以上の盛土があり、その下に黄褐色土の地山層がみられる。

以上の結果、今回の調査範囲で遺構及び遺物が確認されている。T1を設定した段丘面を中心に縄文時代の遺物等が埋蔵されていると考えられる。



第80図 雨滝遺跡位置図



第81図 雨滝遺跡調査区位置図

## 21 緊急地方道整備事業

齊羽場館遺跡 (ME76-2110)

所在地：北上市福瀬町下門岡

事業者：県南広域振興局北上総合支局土木部

調査期日：平成18年6月9日(金)

齊羽場館遺跡は、北上市役所の南南東約3.2kmに位置し、北上川左岸の河岸段丘上に立地している。本遺跡は、昭和46年度に県道改築工事に伴い発掘調査が実施され、柱穴等が確認されているほか、旧石器時代の石器、縄文早期の土器片も出土している。また、昭和61年度に北上市教育委員会によるトレンチ調査が実施され、南北方向の堀跡が検出されている。

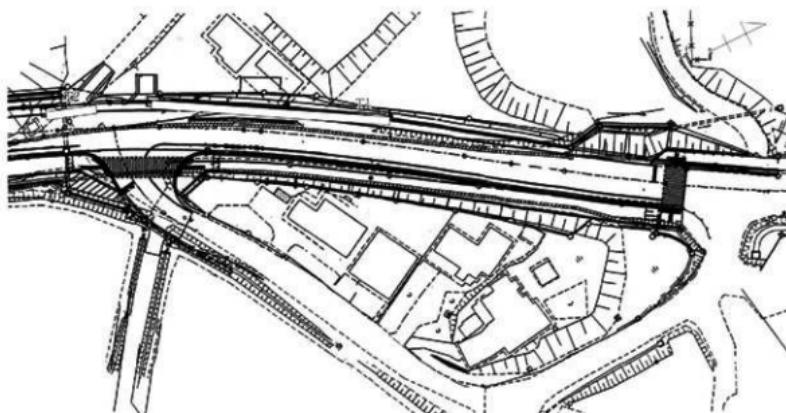
今回の調査は、県道改良工事に伴うもので道路拡幅予定箇所及び歩道設置予定箇所が対象である。調査対象区域に2本のトレンチを設定した(T1・T2)。

現在宅地となっている箇所から昭和61年度調査で堀跡が確認された一段低い平場にかけてT1を設定した。一段低い平場における層序は、表土直下に第Ⅲ層の下層にあたると思われる黄白色粘土層があらわれたことから、過去の工事によるものと思われる地形変化を大きく受けていることがうかがえた。宅地脇の歩道予定地部分においては、第Ⅲ層上面で、埋土が暗褐色の柱穴状土坑が3基が検出され、この埋土には焼土粒及び炭化物粒を含んでいるものがあった。また、埋土が黒色の柱穴状土坑が2基検出された。いずれの柱穴状土坑は径30cm前後の規模であった。遺構が検出されたトレンチ内から、縄文土器片が1点出土したが、遺構とは直接関連して出土していない。これらの遺構が検出された箇所からトレンチ南端方向にかけて、埋滅した土器片、焼土粒及び炭化物を含む暗褐色の遺物包含層が確認された。この包含層下には、堀跡等の遺構が所在している可能性があると思われる。城館跡の南端部分を確認するために、現在はバス停として使用されている平場にT2を設定した。厚い盛土層下には、旧表土らしき暗褐色土が広がっており、遺跡範囲の境界にあたる沢に向かって緩やかに傾斜していることが確認された。なお、昭和61年度調査で確認された堀跡の範囲については、T1において他の遺構が検出されていること等から、改めて確認することは行わなかった。

以上のことから、本遺跡は、中世城館跡と縄文時代の複合遺跡であると推測した。



第82図 齊羽場館跡位置図



第83図 齊羽場館跡調査区位置図

## 22 緊急地方道整備事業

野田 I 遺跡 (ME56-2213)

所在地：北上市二子町才の羽場

事業者：県南広域振興局北上総合支局土木部

調査期日：平成19年9月11日(月)

野田 I 遺跡は、北上市役所の北東約2.9kmに位置し、北上川西岸の微高地に立地している。現況は道路、宅地で標高は70m前後を測る。今回の調査は主要地道北上東和線才の羽々地区道路改良工事に伴うものである。調査対象範囲の4カ所にトレンチ (T 1 ~ T 4) を設定した。

調査区の基本土層はⅠ層が表土、Ⅱ層が黒色土層、Ⅲ層が地山とみられる黄褐色土層である。遺構等はⅢ層上面で検出している。

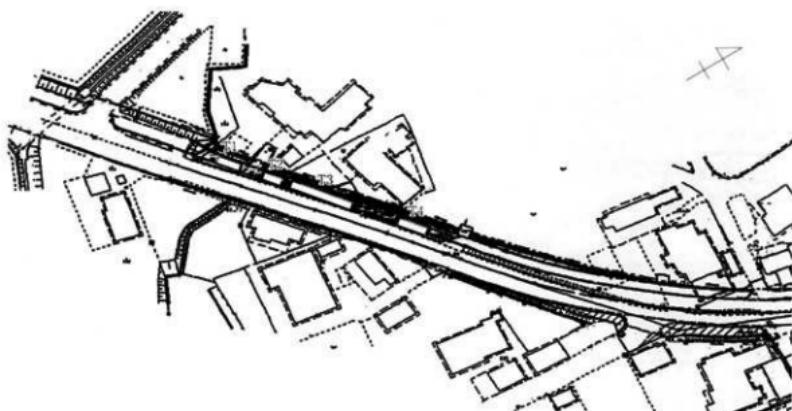
調査対象範囲の北側に設定したT 3 からは径約20cmの柱穴が1個、T 4 からは南北に走る幅約120cmの溝が検出された。いずれも出土遺物はなく、所属時期は明確ではない。しかし、溝跡等については造構埋土の状況から平安時代の造構の可能性も考えられる。

調査対象範囲南側のT 1 は、Ⅱ層の黒色土が厚く堆積している。このトレンチでは、Ⅲ層の上面の標高がT 3、T 4より低く、湧水もみられることから、遺跡が立地する微高地よりも低い沖積低地面に相当すると判断できる。

以上の結果から野田 I 遺跡は、T 3、T 4 を設定した微高地状の地形を中心に分布し、時期は近世の造構もあるものの一部に平安時代のものとみられる造構も所在するものと考えられる。またT 1 を設定した面は沖積地と考えられ、今回の調査範囲では、遺構等は所在していないものとみられる。



第84図 野田 I 遺跡位置図



第85図 野田 I 遺跡調査区位置図

### 23 緊急地方道整備事業

成田岩田堂館跡 (ME46-1221)

所在地：北上市成田第1地割

事業者：県南広域振興局北上総合支局土木部

調査期日：平成18年9月12日(水)

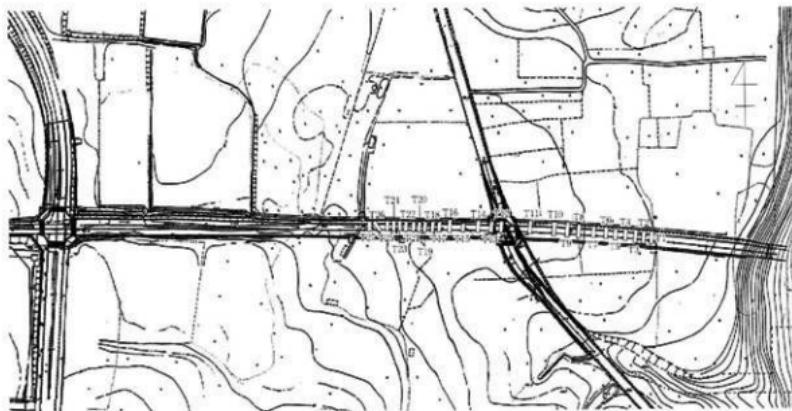
成田岩田堂館遺跡は、北上市役所の北東約6.1kmに位置し、北上川西岸の河岸段丘に立地している。現況は道路、りんご畑で標高は83m前後を測る。今回の調査は主要地方道北上東和線(仮称)平成橋工事に伴うものである。今回の調査対象範囲は成田岩田堂館跡の南半部に相当する。調査可能な地点28カ所にトレーン(T1~T27)を設定した。T1~T11は二子地区と成田地区を結ぶ道路の東側、T12~T27は道路の西側に位置する。

道路東側のT1~T11においては部分的にりんごの作付けによる擾乱が見られるものの、地山に至る掘削、改変は少ない。T1~T6、T9~T11からは径20~30cmの柱穴が合計25個検出され、T11においては長径80cm、短径30cmの土坑が1基検出された。出土遺物はT2、3、11において繩文土器片、土師器片が少量出土した。道路西側のT12~18では出土遺物、遺構の検出はなく、地山層とみられるⅡ層面まで擾乱が及んでおり、りんご畑の造成の際に大規模掘削、改変が行われたと判断される。地元の方によると、この範囲は盛り上がった地形であったものを、削平し、平坦にしたものであるという。この擾乱範囲には埋蔵文化財は残存していないと判断できる。擾乱範囲は道路の路肩から西に57mまでの範囲である。擾乱範囲のさらに西側のT19~T28は擾乱がおよんでもらざり、Ⅰ層の黒色土、Ⅱ層の地山面が残存している。T22、23において合計6個の柱穴が検出され、西側のT27では径130cmの円形の土坑が検出された。T19~T28においては遺物の出土はなかった。

今回の調査対象範囲においては擾乱範囲を除き広い範囲に柱穴の散布がみられた。柱穴の年代を決定付ける遺物は出土しなかったが、中世城館とされる成田岩田堂館の範囲内であることに加え、当地域最大級の中世城館、二子城の北端に近く、検出された柱穴は中世に属する建物を構成する可能性が高いものと推測される。



第86図 成田岩田堂館跡位置図



第87図 成田岩田堂館跡調査区

## 24 経営体育成基盤整備事業和賀中部第5地区

下成沢Ⅱ遺跡（ME75-0182）

所在地：北上市相去町下成沢

事業者：県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室

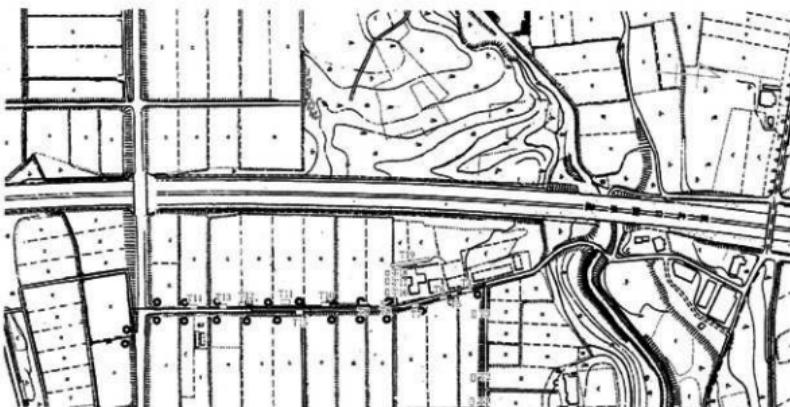
調査日：平成18年10月30日㈪、31日㈫

下成沢Ⅱ遺跡は、北上市役所の南西約3.9km、和賀川によって形成された河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は96~98m前後を測り、現況は水田となっている。今回の調査は場整備事業和賀中部第5地区に伴うものであり、今回は水田への給水施設を設置する水路工事箇所の調査を実施した。今回調査を実施する下成沢Ⅱ遺跡は旧石器時代、縄文時代、平安時代の散布地として周知されている。

今回の調査にあたってはT1~T19の19ヶ所にトレンチを設定して調査を実施した。遺跡東部の水路設置路線には3ヶ所のトレンチを設定したが、T2は表土直下に地山が検出されたものの、T1からは遺構、遺物は確認できなかったものの、旧表土が30cmほど残っている様子が確認された。また、T3は表土直下に地山が確認されたものの、その地山面から30×30cmほどの土坑が検出され、その土坑のすぐ東側に幅30cmほどの溝が東西に伸びていた。長さは300m以上あり、埋土には炭化物や焼土粒が含まれていた。農道建設時に大きく削平され、底の部分がかろうじて残存していたものと見られる。遺跡南部から遺跡外南側に続く路線には13ヶ所のトレンチを設定したが、その多くが40~100cmあまりの盛土の下に旧表土が20~100cm残るもの、Ⅲ層の地山は褐色で遺構が検出されないという状況が観察された。ただ、T10のみがⅡ層の旧表土の下に黄褐色の地山が確認され、径70cmほどの土坑が検出された。また、そのすぐ南側から柱穴状の土坑らしきものも確認されたが、これについては確定することはできなかった。遺跡内の中央部にある屋敷の周囲には4ヶ所のトレンチを設定した。屋敷西部の平場には10mあまりのトレンチを設定して精査したが、遺構、遺物は確認できなかった。



第88図 下成沢Ⅱ遺跡位置図



第89図 下成沢Ⅱ遺跡調査区位置図

## 25 経営体育成基盤整備事業更木新田地区

中の屋敷II遺跡（ME46-1321）

所在地：北上市更木5地割

事業者：県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備

室

調査期日：平成18年9月1日(金)、22日(火)

中の屋敷II遺跡は、北上市役所の北東約6.8kmに位置し、北上川東岸の微高地に立地する。現況は水田で標高は66m前後を測る。今回の調査は経営体育成基盤整備事業更木新田地区に伴うものである。調査対象範囲に17ヶ所のトレンチ（T1～T17）を設定した。

南西側のT1ではⅢ層上面から径20～30cmの柱穴が4基検出された。出土遺物はなく、柱穴の年代を確定できないが、中世に属する柱穴の可能性が考えられる。

また、T7の耕作土中から土師器片が1片出土したが、周囲のトレンチからは遺構、遺物の検出がなく、原位置を留めていないものと判断できる。T1、T7以外のトレンチからは遺物の出土、遺構の検出は確認されなかった。また、柱穴検出面より下の、基本土層IV層は黒褐色土層であるが、縄文土器等の包含は存在しなかった。



第90図 中の屋敷II遺跡位置図



第91図 中の屋敷II遺跡調査区位置図

## 26 経営体育成基盤整備事業更木新田地区

戸桜遺跡（ME46-1354）

所在地：北上市更木10地割

事業者：県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成18年9月4日㈰、10月4日㈪、12月1

日㈮、12月4日㈰

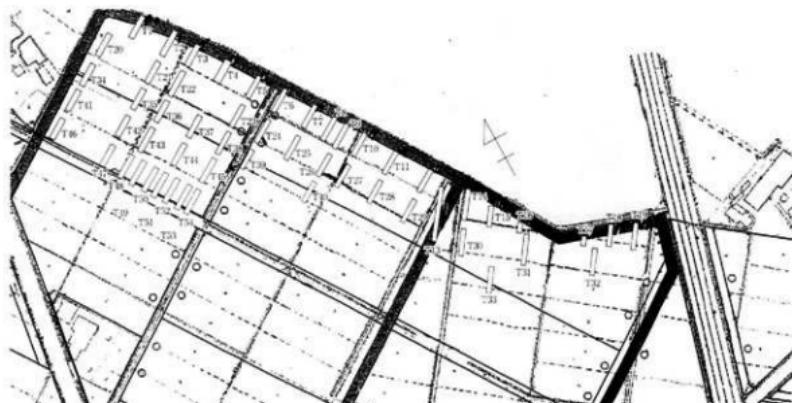
戸桜遺跡は、北上市役所の北東約6.5kmに位置し、北上川東岸の微高地に立地する。現況は水田、宅地で標高は65m前後を測る。今回の調査は経営体育成基盤整備事業更木新田地区に伴うもので、調査対象範囲は戸桜遺跡の南端部分に相当する。調査対象範囲に54ヶ所のトレンチ（T1～T54）を設定した。

調査の結果、T2で90cmの深さ（標高64.41m）から土師器片が出土した。また、T7から径80cmの方形の土坑1基が検出された。検出面は地表から40cmの深さ（標高64.76m）である。T8からは長径130cm以上、短径70cmの土坑1基が検出され、縄文時代後期の土器片が出土した。土坑の検出面、土器の出土位置は地表から60cmの深さ（標高64.56m）である。T13では長径350cm、短径180cmの楕円形のプランが検出され、埋土の様相などから縄文時代の土坑の可能性も考えられる。検出面は地表から40cmの深さ（標高64.53m）である。T31では変形工字文が施された縄文時代終末期から弥生時代初頭の土器片が出土した。出土高は地表面から80cmの深さ（標高64.11m）である。また、T27では縄文時代と推測されるような微細な土器片が出土している。出土高は深さ60cm（標高64.41m）である。

以上のように幾つかのトレンチから遺構、遺物が確認されたが、その分布は調査対象範囲の北側に偏っていることが読み取れる。遺跡の本体は標高等から調査対象範囲の北側と推測され、今回の遺構、遺物と矛盾しない。



第92図 戸桜遺跡位置図



第93図 戸桜遺跡調査区位置図

## 27 緊急地方道整備事業

岡島遺跡 (ME56-1289)

所在地：北上市二子町字岡島

事業者：県南広域振興局北上総合支局土木部

調査期日：平成18年12月14日(火)

岡島遺跡は、北上市役所の北東約3.1kmに位置し、北上川西岸の微高地に立地している。現況は水田、畑地、宅地で標高は81m前後を測る。

今回の調査は主要地道北上東和線二子地区歩道設置工事に伴うものである。調査対象範囲の18カ所にトレンチ (T1～T18) を設定した。T6から、東西に走る幅110cmの溝が1条検出された。埋土中には遺物は確認できず、時期は確定できないが、埋土の様相と、現在の地割とは関係を見出せない位置で検出されたことから、近世以前の溝と推測される。検出面は現地表から50cmの深さである。

他のトレンチでは、T5で近年の盛土中から近世（18世紀後半～19世紀初頭）の磁器碗が出土したのみで、遺物、遺構は確認されなかった。

以上の点から、今回の調査範囲の中では、T6で検出された溝周辺のみが要調査範囲で、他には埋蔵文化財が存在しないと判断される。



第94図 岡島遺跡位置図



第95図 岡島遺跡調査区位置図

## 28 経営体育成基盤整備事業更木新田地区

舟渡I遺跡 (ME46-1390)

所在地：北上市更木17地割、18地割

事業者：島南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成18年11月13日(日)、14日(祝)、12月5日(祝)

平成19年1月18日(祝)、19日(金)、2月27日(日)

舟渡I遺跡は、北上市役所の北東約6.0kmに位置し、北上川東岸の微高地に立地する。現況は水田、宅地で標高は66m前後を測る。今回の調査は経営体育成基盤整備事業更木新田地区に伴うものである。11月13日、14日の調査対象範囲は5地点（調査区①～⑤）に別れ、合計24カ所のトレンチ（T1～T24）を設定した。

最も東側の調査区①では、T1～T3の第II層から、平安時代の土師器片が出土し、T3では直径60cmの梢円形の土坑を1基検出し、埋蔵文化財の存在が確認された。

調査区②ではT4、T6、T7から土師器片、T9から縄文土器片が出土し、埋蔵文化財が確認された。調査区③～⑤では出土遺物、検出遺構は全くなかった。以上今回の調査対象範囲の中で、調査区①、②が要発掘調査範囲で、他の調査区③～⑤は調査が不要な範囲と判断される。

また、11月の試掘調査で埋蔵文化財の包含範囲が北側に広がる可能性が生じたため、遺跡の北側調査区とし、79カ所のトレンチを設定した。

北側調査区の西側のT25、T27、T28、T29、T30、T31、T32、T33、T34、T35、T37、T40、T41、T43において、土師器片、縄文土器片が出土し、柱穴、土坑、溝等が検出された。

北側調査区東側ではT56、T60、T61、T66、T85、T86、T99で土師器片が出土したが、遺構は全く検出されず、出土した遺物は周囲からの流れ込みと推測される。よって発掘調査の必要な範囲は北側調査区の西側と判断される。

北側調査区西側・堤防内部の北側にはさらに埋蔵文化財の広がりが予測され、試掘調査が必要である。

調査対象範囲は堤防を挟んで、西側と東側に分かれる。西側調査区には15箇所（T104～T118）、東側調査区に12箇所（T119～T130）のトレンチを設定した。

西側調査ではT104で直径30cmの柱穴が2基検出され、縄文土器片が1片出土した。T107、T108では縄文土器片がそれぞれ数片ずつ出土した。またT110、T114では土師器片、縄文土器片がそれぞれ1片出土したが、遺構の検出はなく、土器片は原位置を留めておらず、他地点からの流入と推測される。T110、T114より北のトレンチでは遺構、遺物の検出が全くなく、遺跡の範囲はT110、T114付近で途切れていますと判断される。

東側調査区ではT120で縄文土器片が数片出土し、T130でも縄文土器片が数片出土した。ただし、T12の縄文土器は数片に分かれると同一個体で、周囲のトレンチで遺構、遺物の検出が皆無なことから、他地点から移動してきた破片と推測される。前回の試掘調査の結果も考え合わせて、T105付近の北側には遺跡は広がらないと判断される。

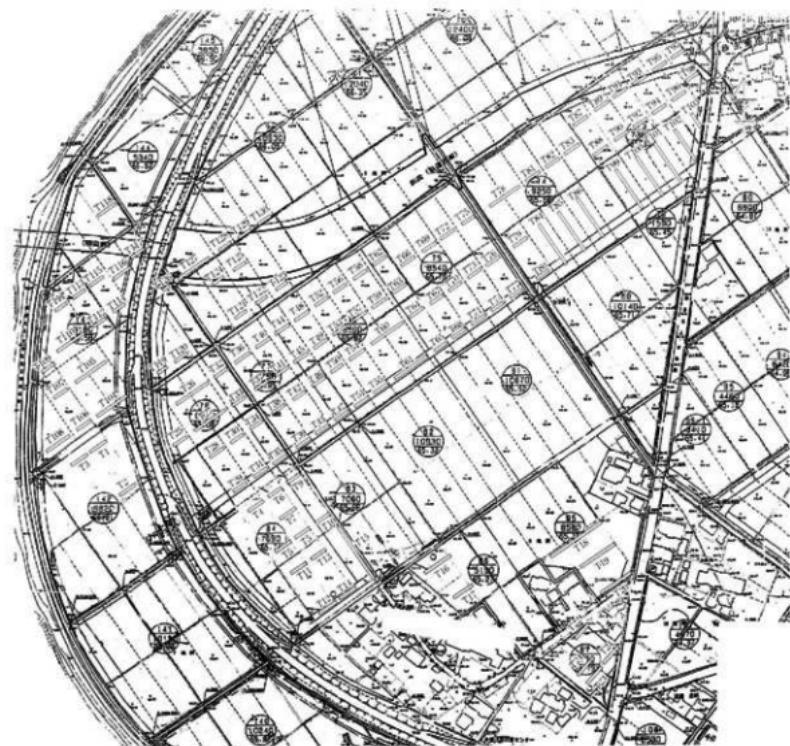
以上のとおり、今回の調査結果から、遺跡範囲の北限を別紙のとおり示すことができた。

舟渡I遺跡は北上川東岸に広がる遺跡で、縄文時代の土器片及び土師器片等が出土していることから、縄



第96図 舟渡I遺跡位置図

文時代及び平安時代の遺跡と考えられる。今回の試掘調査においても、多数の遺構が確認されていることから、当該時期の遺構が遺跡全体に広がるものとみられる。



第97図 舟渡I遺跡調査区位置図

## 29 主要地方道花巻北上線平沢地区歩道設置工事

湯沢 I 遺跡 (NE57-0097)

所在地：北上市湯沢7地割

事業者：県南広域振興局北上総合支局土木部

調査期日：平成18年10月19日本

湯沢 I 遺跡は、北上市役所の北東約5.5kmに位置し、北上川東岸の河岸段丘に立地している。現況は道路、宅地で標高は9m前後を測る。

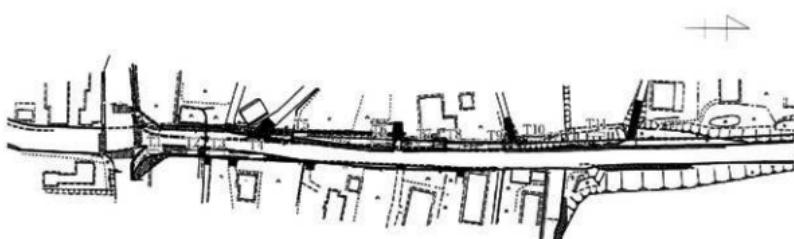
今回の調査は主要地方道花巻北上線改良工事に伴うものである。調査対象区に11箇所のトレンチを設定した(T1～T11)。

調査の結果、T4から幅40cmの南北に走る溝と径150cmの円形プランの土坑が重複して検出（現表土下90cm）された。またT9からは幅40cmの南北に走る溝が検出された（現表土下10cm）。T5、T6、T7では柱穴と推測される円形プランがそれぞれ1個検出された（現地表下10～20cm）。遺構の時期は明瞭ではないが、中世から近世のものと推測される。遺物はT5から土製焜爛の破片、T6からは肥前産磁器蓋が出土した。

調査範囲南端のT1、T2は低湿地に堆積する土がみられ、また他の地点に比較すると標高が低く、遺跡範囲からは外れると判断される。



第98図 湯沢 I 遺跡位置図



第99図 湯沢 I 遺跡調査区位置図

### 30 経営体育成基盤整備事業古城地区

安久沢東遺跡 (NE46-2300)

所在地：奥州市前沢区古城字水神ほか

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成18年10月23日㈪、24日㈫、2月14日㈬

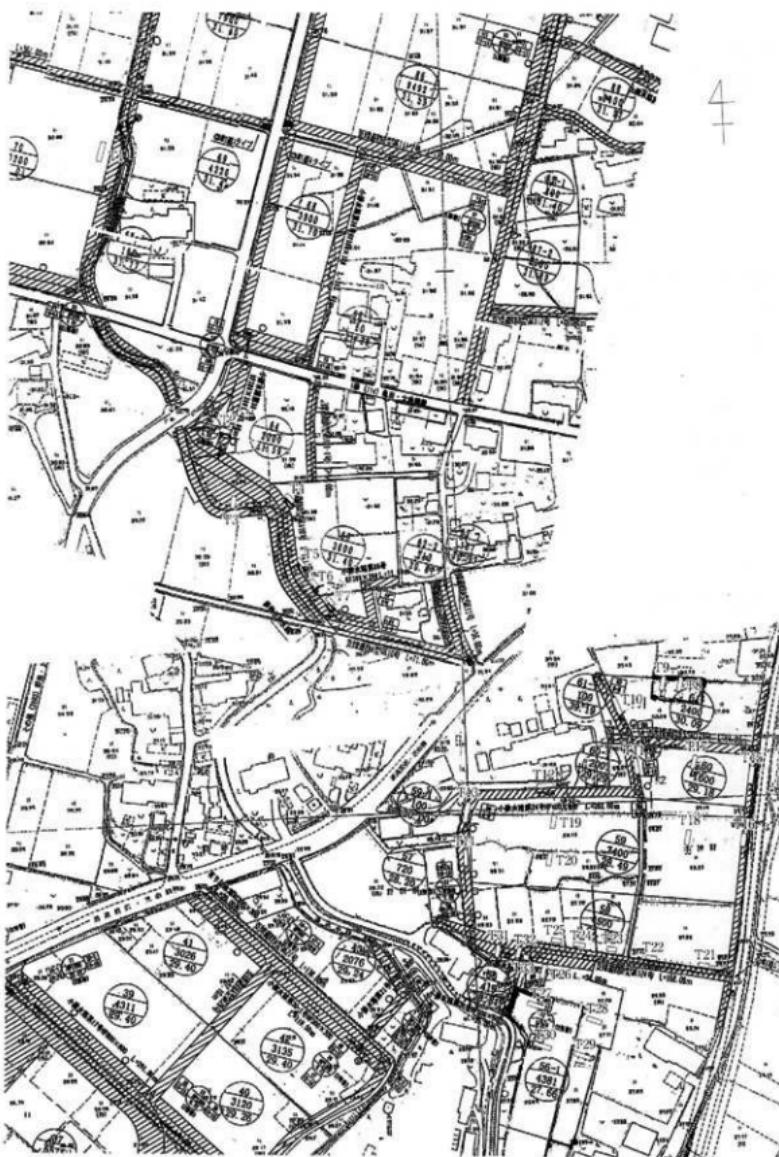
安久沢東遺跡は、奥州市役所前沢総合支所の北東約25km、北上川によって形成された沖積地上に立地している。遺跡の標高は27~30mを測り、現況は水田となっている。今回の調査はほ場整備事業古城地区に伴うものである。今回の調査区は平成17年度に岩手県教育委員会が分布調査を実施した結果、遺構、遺物が所在する可能性があるとした範囲で、本試掘調査により新規に遺跡の存在が確認された。

今回の調査は道路、水路の新設及び田面の切り土部分に隣接部分も含め31カ所に試掘トレンチを設定して調査を実施した。調査区は西側の丑沢水路沿いと、東側の水神野地区の大きく2カ所に分けられる。このうち西側の丑沢水路沿いについては表土下に粘性の多い暗褐色土が堆積した後、褐色の砂層が堆積するなど、湿地の植物痕が多く含まれる黒色土が堆積する様子が観察され、遺構、遺物は一切確認されなかった。東側の水神野地区については本調査区で最も標高が高い位置に設置したT9から幅40cmの方形周溝状の遺構が確認された。高さは表土-35cmであり、遺物は出土しなかった。T9から南では標高は次第に低くなり、支線道路B型第124号の設置予定部分になると再び標高が上がる。この高さから少し標高が上がる箇所に設定したT30から縄文土器が出土している。また同トレンチの東側に設定したT29からも同じく縄文土器が出土している。この2箇所の高さはどちらも表土-25cmである。これらのトレンチには表土下に黒褐色土が堆積し、その中から土器が出土している。どちらも遺物包含層と思われるが、この下に住居跡などの遺構が所在する可能性もある。

今回の調査範囲の北側は不整形なマウンド状を呈しているが、同箇所は最近まで近世墓があった場所であり、現在は移設されている。この箇所を中心T32、T33の2箇所のトレンチを設定して調査を実施した。表土の下に黒褐色土が20~30cm堆積し、その下に地山が確認されるが、Ⅱ層の黒褐色土の部分も擾乱が著しい。T32、T33ともそれぞれのトレンチを広げる形で検出したが、T33の地表-60cmから1辺が50cmほどの隅丸方形の土坑が検出された。土坑についてはその性格は明確ではないが、近世墓とみられる。また同トレンチのⅡ層下部からは縄文土器の細片が1点出土している。隣接する安久沢東遺跡から縄文土器が出土したことを考え合わせると、その範囲が広がる可能性がある。



第100図 安久沢東遺跡位置図



第101図 安久沢東遺跡調査区位置図

### 31 経営体育成基盤整備事業古城地区

下町遺跡 (NE46-0226)

所在地：奥州市前沢区古城

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成18年10月26日(水)、27日(木)、11月13日(土)、

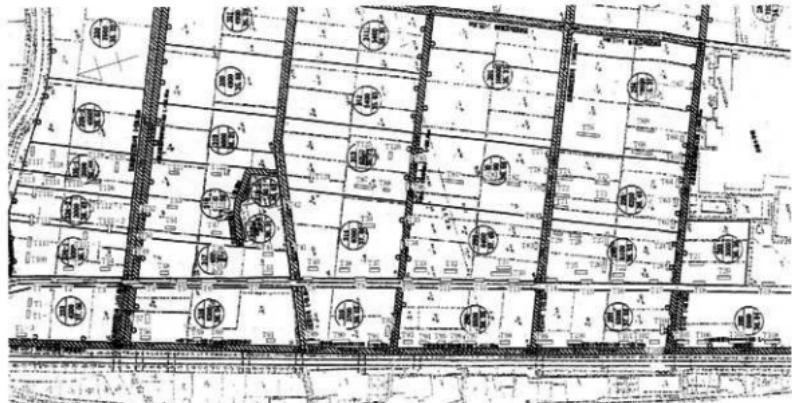
14日(日)

下町遺跡は、奥州市役所前沢総合支所の北東約2.7km、北上川によって形成された沖積地上に立地している。遺跡の標高は36~38mを測り、現況は水田となっている。今回の調査はは場整備事業古城地区に伴うものである。今回の調査区は平成17年度に岩手県教育委員会が分布調査を実施した結果、遺構、遺物が所在する可能性があるとした範囲で、本試掘調査の結果、新規に遺跡とされた範囲である。

今回の調査は道路、水路の新設及び田面の切り土部分に隣接部分も含め124か所に試掘トレンチを設定して調査を実施した。その結果、遺物、遺構が確認されたのは調査区の北側にあたる部分で支線道路A型第11号設置箇所より北側の地区である。田区333は調査区最北端の配水施設建設予定地以外はまもなく上器の出土が見られる。T1-1~T1-3からは表土直下の青灰色砂層の中から土師器片が数点出土した。T56からも土師器片が出土したが、T60からは縄文土器片が表土-25cmの地点から出土している。この土器は完形ではないが、埋設状態で出土している。また農道を挟んだ東側調査区の北側部分の田区334-1、334-2、335-1からも上器の出土が確認されている。T113、T114、T115からは表土-35cmから土師器壺の底部や須恵器が出土しているほか、T116、T112からは表土-40~50cmから幅30~50cmの溝が検出された。T109からは20×20cmの柱穴状土坑、また50×60cmの土坑が各1基検出された。また、T112-1からは土師器片が、T112-2からも須恵器片がそれぞれ出土している。田区334では最も標高が高い地点に設定したT54、T55からもⅡ層の黒褐色土中須恵器、土師器、石器等が出土している。いずれも平安時代のものとみられる。以上のように今回の調査区の北側から集中して遺物、遺構が確認された。実際の生活面は東側の高い地点であり、西側は遺物包含層であるものとみられる。



第102図 下町遺跡位置図



第103図 下町遺跡調査区位置図

32 経営体育成基盤整備事業白山地区

### 合野遺跡 (NE47-0084)

所在地：奥州市前沢区自由字合野

事業者：県南地域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成18年11月1日(木)

合野遺跡は、奥州市役所前沢総合支所の北東約4.3km、北上川によって形成された沖積地上に立地している。遺跡の標高は30m前後を測り、現況は水田となっている。今回の調査は場整備事業白山地区に伴うものである。今回調査を実施した合野遺跡は古代の散布地として周知されている。

今回の調査は道路の新設及び拡幅、水路設置部分にT1～T10の試掘トレンチを設定して実施した。新設道路設置を予定している部分に設置したT1～T3については下には青灰色の粘土層が確認された。道路拡幅を予定しが褐色の地山面が残っており、西側に一段上がる部分のしたT7及び西端に設定したT9からも繩文土器の出土がており、遺物は黄褐色の地山面からも出土している。水れなかった。



第104図 合野遺跡位置図



第105図 合野遺跡調査区位置図

### 33 経営体育成基館整備事業白山地区

道上遺跡 (NE47-0045)

所在地：奥州市前沢区白山字道上

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成18年10月2日㈬、11月2日㈬、12月5

日(火)

道上遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南東23kmに位置している。北上川右岸の沖積平野にある微高地に立地し、現況は畑及び水田となっている。本遺跡は古代の遺跡として周囲されており、現在までの調査では、古代の住居跡、土坑及び柱穴等の遺構が広範囲から検出され、土師器及び須恵器等の遺物が出土している。今回の調査は、水路予定の範囲が対象である。調査対象区域に21本のトレンチを設定した (T 1 ~ T 21)。

トレンチは現在水田となっている面に設定した。T 8 は、黒褐色土層で須恵器、土師器が出土している。T 14 では地表から15cm下の黒褐色層で30cm大の土坑を1基確認した。T 11 でも黒褐色層で須恵器が出土しており、T 10 では繩文土器が出土している。T 19~21 はT 12 から続く同一の平坦面に設定した。これらのトレンチでも、土坑及び溝が確認されている。これらの調査区では遺構及び遺物が確認されており、埋蔵文化財が分布している。

T 1 ~ T 7 は水路予定の田面に設定した。これらのトレンチでは第Ⅰ層の耕作土直下に、地山とみられる砂礫層が確認された。周辺地形より標高が低く、旧河道の一部とみられる。また、遺構及び遺物が確認されたトレンチ (T 8 ~ T 14) の西側のトレンチ (T 15 ~ T 18) では、湿地帯となっていたと考えられる地山層が確認できた。

これまでの調査から、本遺跡は北上川右岸の自然堤防上に位置する古代の集落跡とみられる。今回の調査でも遺構及び遺物が検出された。



第106図 道上遺跡位置図



第107図 道上遺跡調査区位置図

### 34 経営体育成基盤整備事業 満倉地区

崩田遺跡 (NE05-2345)

所在地：奥州市水沢区佐倉河字崩田

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成18年10月23日㈪、11月9日㈭

遺跡は、奥州市役所の北西方向約3kmに位置し、胆沢川右岸の河岸段丘上の微高地に立地している。遺跡の標高は、64m前後を測り、現況は水田となっている。今回の調査は、は場整備事業に伴うものであるが、平成17年度調査において、旧來の遺跡範囲を越えて埋蔵文化財が確認されたことから、追加試掘調査を実施したものである。切土予定の田面、排水路設置予定箇所及びバイブルайн埋設予定の農道設置箇所が対象である。調査対象箇所に15本の試掘トレンチを設定した (T37～T51；トレンチ番号は平成17年度調査のものに連続させてある。)

平成17年度調査で、堅穴住居跡状構が確認されたT12に近接した田面に設定したT37、T42において古代の土器器及び須恵器片を含む遺物包含層が確認された。また、T12を設定した田面と農道を挟んだ北側に設定したT43においても遺物包含層が確認された。北側へトレンチを掘り進めたところ、遺物包含層はトレンチ内で消滅し、地形的に一段低くなる田面に設定したT44では、表土直下に褐色砂礫層が確認されたことから、この区域は胆沢川の旧河道にあたる箇所であると推測した。

平成17年度調査で、遺物包含層が確認されたT32及びT33に南接する田面においては遺物包含層は確認されていなかったが、さらに南側の田面に包含層あるいは遺構等の広がりを確認するためにトレンチを設定したが (T46～T49)、いずれのトレンチにおいても遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、昨年度調査で堅穴住居跡状構が確認された田面を中心として遺物包含層が広がっており、集落等の中心域であると推測した。



第108図 崩田遺跡位置図



第109図 崩田遺跡調査区位置図

### 35 経営体育成基盤整備事業江刺西部地区

広岡前遺跡（ME96-0399）

広岡前Ⅱ遺跡（ME96-0378）

所在地：奥州市江刺区福浦内

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成18年10月31日㈬・11月7日(火)～9日(木)

これらの遺跡は、奥州市役所江刺支所の北西約2.6kmに位置し、北上川東岸の微高地に立地する。現況は水田、宅地で標高は43m前後を測る。

今回の調査は経営体育成基盤整備事業江刺西部地区のバイオライン設置工事に伴うものである。調査対象範囲の80カ所にトレンチ（T1～T80）を設置した。

調査の結果、広岡前遺跡の範囲内のT21、T23、T24、T32、T36、T38、T52で遺構又は遺物が確認された。確認された遺構、遺物は以下の通りである。

T21…柱穴1基、土師器・須恵器片出土	検出標高42.79m
T23…土師器片出土	出土標高42.88m
T24…溝（幅50cm）1条、土師器片出土	検出標高42.85m
T32…焼土（50×40cm）須恵器片出土	検出標高42.80m
T36…土師器・須恵器片出土	出土標高43.11m
T38…土師器・須恵器片出土	出土標高43.03m
T52…溝（幅100cm）、土師器片出土	検出標高43.20m

これらのトレンチは広岡前遺跡の中央部にまとまっており、この付近に埋蔵文化財が広がっていることが予測できる。出土した遺物はいずれも平安時代（9～10世紀）のものであり、堅穴住居を有する平安時代の集落が存在される。

また、広岡前遺跡の範囲内の他のトレンチ、広岡前Ⅱ遺跡、範囲内のトレンチでは遺構、遺物が確認されず、今回の調査対象範囲においては埋蔵文化財は存在しないと判断される。



第110図 広岡前・広岡前Ⅱ遺跡位置図



第111図 広岡前・広岡前Ⅱ遺跡調査区位置図

### 36 地方特定道路整備事業

宝禄遺跡（ME97-1011）及び隣接地

所在地：奥州市江刺区福浦字宝禄地内及び

奥州市江刺区岩谷堂字内ノ町地内

事業者：県南広域振興局土木部

調査期日：平成18年12月1日(金)

本調査区は奥州市役所江刺総合支所の北西約2.1km、庄瀬川によって形成された沖積地上に立地し、標高は41～43mを測る。今回の調査は地方特定道路整備事業に伴うものである。

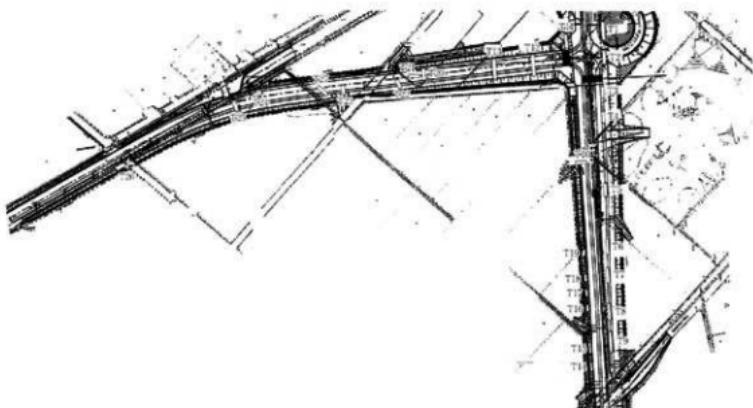
今回の調査は県道北上一関線の北側部分と、国道456号線の付け替え部分である。

県道の北側部分においては水田の水が浮いたままという悪条件の中での試掘となり、宝禄遺跡のすぐ南東に隣接する地域については一部調査できない箇所もあったが、層序は今回一緒に調査を実施した宝禄遺跡において、表上の下が湿地状の黒色土で、その下に灰色粘土が入るという前回の調査でも確認された層序が確認されたため、この地域については湿地状の地域であると判断した。

また、国道456号線の付け替え部分についてはT24、T26から溝状遺構と縄文土器が確認されている。T24の溝状遺構は深さ60cmの地点から幅40cm、南北に伸びる遺構が確認されているが、長さは不明である。あるいは陥り穴状遺構になる可能性もある。同遺構の直上及び埋土の表面からは縄文土器が数点出土した。T26の溝状遺構は深さ60cmの地点から幅50cmの南北に伸びる遺構が確認されている。長さは不明であるが、この遺構についても陥り穴状遺構になる可能性もある。このトレンチ内からは縄文土器とともに平安時代の土師器も出土している。T25についても土器が多数出土したため、遺構検出面まで下げずに調査を終えたが、土器の出土状況が、遺構が確認されたT24、T26と酷似していることから、この下にも遺構が所在している可能性は高い。



第112図 宝禄遺跡位置図



第113図 宝禄遺跡調査区位置図

### 37 一間遊水地事業

#### 鶴の木遺跡

所在地：奥州市前沢区字野切

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成18年11月15日(水)

鶴の木遺跡は、奥州市役所前沢支所の南東約3.2kmに位置し、北上川西岸の段丘に立地している。今回の調査対象範囲は白鳥館跡の南西側の隣接地で、南西側の標高の低い宅地部分と、北東側の山林部分に区分される。宅地部分の標高は23m前後、山林部分の標高は30m前後である。宅地部分に5カ所(T1～T5)、山林部分に2カ所(T6、T7)のトレンチを設定した。

宅地部分は約50cmの盛土が施されており、盛土の下は90～140cmの厚さで有機質分の多い暗褐色土が堆積し、湧水も著しく、遺構、遺物はみられなかった。

山林部分のトレンチT5、T6は斜面部に設定したが、層厚50～60cmの表土が堆積し、その下は黄褐色の地山が見られた。T5では縄文土器片が出土し、T6では東西長200cm、南北長100cm以上の堅穴住居状の遺構が検出され、埋土中からロクロ使用の土師器坏片が出土した。

以上の結果、宅地部分には埋蔵文化財は存在しないと判断されるが、山林部分は平安時代、鎌倉時代の埋蔵文化財が含まれていることが確認された。

山林部分は白鳥館と同じ地形区分の丘陵に相当し、トレンチを設定した斜面の上面にも遺構、遺物が存在すると推測される。今回の試掘調査では確認されなかったが、白鳥館跡と同時代の中世の遺構、遺物が存在する可能性も高い。



第114図 鶴の木遺跡位置図



第115図 鶴の木遺跡位置図

### 38 経営体育成基館整備事業白山地区

白山上野遺跡 (NE47-1032) 及び隣接地

所在地：奥州市前沢区白山字上野

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成19年2月7日㈬

本遺跡は、奥州市役所前沢総合支所の北東3.2km、北上川によって形成された沖積地上に立地している。遺跡の標高は27~28mで、現況は水田となっている。今回の調査は場整備事業白山地区に伴うもので、排水路及び仮排水路設置予定箇所について実施した。トレンチはT1~T33の33箇所を設定した。

T23は今回の調査区の南西部に設定したが、20cmの表土下に丸裸が多く混じる黒褐色土が残存しており、その中から縄文土器片が多数出土した。トレンチは南西部隅から北東部に設定したが、南北隅から北東部へ5mほどの地域に縄文土器の包含層が所在していた。また同トレンチで、柱穴状土坑が1基検出された。規模は25×25cmほどである。T25~T26については遺物の出土は確認されなかった。T29、T30についても数点の土器の出土が確認されているが、出土状況から、周囲からの流れ込みであると判断した。T31、T32、また水路を隔てた東側にT10についてはII層の黒褐色土が削平されており、遺物等は確認されなかった。T17においては、表土直下に古代の遺物包含層が確認され、この遺物包含層には焼土粒及び炭化物粒が多く含まれていた。T15においては、10m四方で幅約1mの規模である方形周溝が検出され、この埋土には須恵器片が含まれていた。この他、柱穴状土坑が3基確認された。

T1~T6は、現在道路となっている面に設定した。これらのトレンチでは、表土下に盛り土が確認でき、暗褐色土層がみられた。T6では、地山とみられる黄褐色土層上面で、30×35、30×30の柱穴状の土坑を5基確認した。T7、T18は、現況の水田面に設定した。これらのトレンチでは、耕作土直下に、黄褐色土層が確認できた。T13及びT17、T18で竪穴住居状遺構が1基、T17で土坑、18で30×30の柱穴が2基確認できた。T20では、第Ⅲ柄の暗褐色土層上面で柱穴を3基確認した。T21も、暗褐色土層で柱穴を2基確認した。T22では、表土下が地山とみられる明褐色土層で、幅120cmの溝を確認した。これまでの調査から、本遺跡は北上川右岸の自然堤防上に位置する集落跡とみられる。



第116図 白山上野遺跡位置図



第117図 白山上野遺跡調査区位置図

### 39 経営体育成基盤整備事業洪民地区

伊勢堂Ⅲ遺跡 (NF61-1007)

所在地：一関市大東町洪民

事業者：県南広域振興局一関総合支局農林部

千厩農林センター

調査期日：平成18年4月11日㈬

伊勢堂Ⅲ遺跡は、一関市役所大東支所の西方約4kmに位置し、砂鉄川右岸の河岸段丘低位面に立地している。

標高は、99~100m前後を測り、現況は主に水田である。本遺跡は、平成14年度に実施した当課による試掘調査で、それまでの遺跡範囲を越えて遺物包含層が広がっていることが確認され、遺跡範囲が拡大されている。今回の調査は、設計変更により切土予定となった田面と平成17年度に一関市教育委員会による試掘調査で埋蔵文化財が確認された近接区域が対象である。調査対象区域に9本の試掘トレンチを設定した (T1~T9)。

T1~T3は、比較的標高の低い水田に設定した。T1においては、水田造成時のものと思われる地形変形が何われ、耕作土直下に第Ⅳ層下層にあたる褐色砂層が見られた。T2においては、水性の黒色土が厚く堆積しており、低湿地であることが伺えた。T3においては、第Ⅳ層上面で、幅20~30cmの溝状遺構が検出され、埋土は極端に褐色を呈していた。遺物は確認できなかったため、遺構の構築時期は不明である。

T4は、水性黒色土が厚く堆積し、この黒色土中に植物根が多く見られたことから、湿地を水田に利用した箇所であると推測した。

T6~T9は、一関教委による試掘調査で鉛治関連の遺物が確認された区域に接続している水田に設定した。T6~T9とも、山側においては耕作土直下に褐色砂層が見られたことから、水田造成による削平を受けたことが伺えたが、トレンチの南側においては、厚い盛土下には旧水田耕作土が見られ、その下層は一部グリーン化している砂層であった。この田面においては、検出面にあたる層が確認されなかったこと、遺物が確認されなかったことから、遺構等は所在しない箇所であると思われる。



第118図 伊勢堂Ⅲ遺跡位置図



第119図 伊勢堂Ⅲ遺跡調査区位置図

#### 40 経営体育成基盤整備事業渋民地区

観音寺遺跡 (NF61-1115)

所在地：一関市大東町渋民

事業者：県南広域振興局一関総合支局農林部

千厩農林センター

調査期日：平成18年12月21日(木)、22日(金)、27日(水)、28

日(木)、平成19年2月1日(木)

観音寺遺跡は、一関市役所大東町支所の西方約4.3kmに位置し、砂鉄川右岸の河岸段丘低位面に立地している。標高は、110m前後を測り、現況は主に水田である。今回の試掘調査に先立って、一関市教育委員会による再分布調査が実施され、遺物が散見されるとの報告があった箇所である。

農道新設予定箇所、排水路及びバイオライン設置予定箇所、切土予定の田面を対象として、調査対象区域に26本の試掘トレンチを設定した（T22～T47:新規遺跡として確認される前に、佐の脇II遺跡と同じ調査区として調査したため、佐の脇II遺跡の試掘トレンチと番号は連続となっている）。

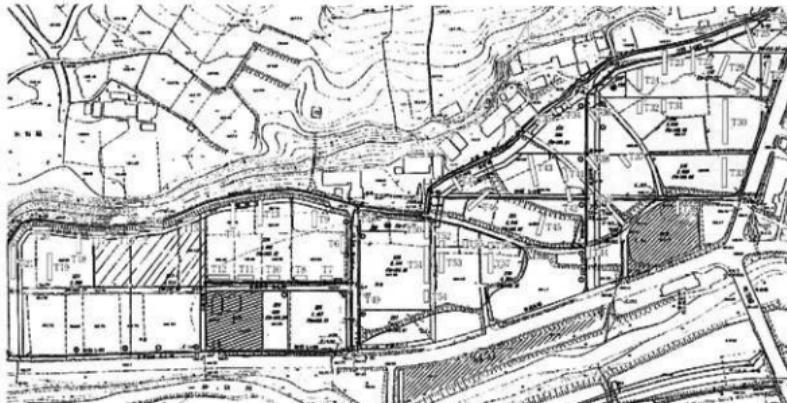
水田造成時による地形変化を受けてはいるものの、広い範囲で遺構及び遺物が確認された。T25で土坑1基、木根による搅乱を受けているものT40で土坑2基が検出されており、T40の土坑の埋土には土器片が含まれていた。T43では、水田造成による削平を受けているもの縮尺穴状遺構1基が検出されている。その他、多くのトレンチで縄文時代の遺物を多く含む遺物包含層が検出されている。

T33を設定した水田の南側に敷設されている水路の南側は、T33を設定した田面より約3m程標高の低い水田となっている。この水田にT39を、地形的に連続性があり同等の標高を測る田面にT44を設定したところ、耕作土直下に盛土の有無はあるものの、グライ化した砂礫層があらわれ、遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、遺構及び遺物が確認された区域はこの水路の北側に広がる田面であり、水路を挟んだ南側の田面は北側と比べて標高差が3mあることから、地形的に連続性を欠いていると推測され、遺構及び遺物は所在しないものと判断した。



第120図 観音寺遺跡・佐の脇遺跡位置図



第121図 観音寺遺跡・佐の脇遺跡調査区位置図

#### 41 一般国道342号巣美バイパス道路改築事業

上野Ⅰ遺跡 (NE95-0181)

上野Ⅱ遺跡 (NE95-0198)

所在地：一関市巣美町字上野地内

事業者：県南広域振興局一関総合支局土木部

調査期日：平成18年7月10日㈪

遺跡は、一関市役所の北東方向約4.9kmに位置し、磐井川左岸の河岸段丘縁辺部に立地している。今回の調査は、国道改築工事に伴うもので、道路付け替え予定箇所及び歩道設置予定箇所が対象である。調査対象箇所に2本のトレンチを設定した (T1~T2)。

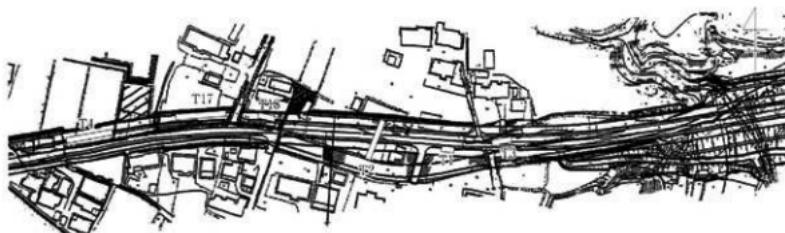
現在、荒地となっている緩やかな傾斜地にT1を設定した。この箇所はかつて畑地として利用されていたためか、旧表土にあたると思われる黒色土は削平されて確認できなかったが、T1において、径30cm大の柱穴状土坑3基が検出され、そのうち1基には摩滅した繩文土器片が含まれていた。また、時期不明ではあるが幅30cmの溝跡1条が検出された。道路脇の水田にT2を設定した。T2では、水田造成時に大きく地形変更を受けていることがうかがえたが、柱穴状土坑2基が検出された。埋土は黒色で炭化物を含み、間尺は約90cmであった。遺物は確認できなかった。畑地にT3を設定した。第IV層において径30cm大の柱穴状土坑1基が検出された。埋土には土器片が含まれていたほか、炭化物粒も含まれていた。第III層からは繩文土器片が出土している。

T1を設定した箇所は、畑地として利用される以前は、水田として利用されていた箇所であり、トレンチにおける層序は、耕作土、旧耕作土、褐色土の順となっており、地形変更を大きく受けていることがうかがえたが、幅40cmの時期不明の溝跡1条が検出された。遺物は出土していない。水田に設置したT2~T4であるが、T3を設定した箇所は、すでに耕作土が削平されており、表土直下に第IV層より下層に白色粘土層があらわれており、検出面が認められないことから、この水田には遺構は所在しないと推測した。

T4においては、第III層上面で、十和田a降下火山灰をブロック状に含む土坑3基を検出した。そのうち1基には、焼土ブロック及び炭化物を多く含んでいることから、焼土等を廃棄した可能性が高く、周辺に竪穴住居跡等が所在している可能性があると推測した。



第122図 上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡位置図



第123図 上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡調査区位置図

## 42 一般国道342号巣美バイパス道路改築事業

上野Ⅲ遺跡 (NE95-0186)

上野Ⅱ遺跡 (NE95-0198)

所在地：一関市巣美町字上野地内

事業者：県南広域振興局一関総合支局土木部

調査期日：平成18年7月12日㈬

本遺跡は、一関市役所の北東方向約5.1kmに位置し、磐井川左岸の河岸段丘線辺部に立地している。今回の調査は、国道改築工事に伴うもので、道路付け替え予定箇所及び歩道設置予定箇所が対象である。調査対象箇所に4及びトレンチを設定した（T1～T10）。

T1～T2を上野Ⅱ遺跡に連続する水田面に設定した。T1の第Ⅲ層上面で、十和田a（To-a）火山灰をブロック状に含む溝跡1条が検出された。埋土は傾斜褐色土であったが、遺物は確認できなかった。

磐井川まで舌状に延びる微高地上の緩やかな南向きの傾斜地にT3～T7を設定した。T3において、旧表土と推測される黒色土が見られ、縄文時代の土器を含んでいた。この黒色土層はT7でも確認できたが、遺物はT4～T7では確認できなかった。

T7はかつて住宅があった箇所に設定した。住宅基礎下の厚い盛土下に、礫を含む第Ⅳ層がみられ、掘り下げたところ、第Ⅴ層で摩滅した縄文土器片を埋土に含む土坑1基が検出された。この土坑の埋土は黒色、40×60cmの梢円形のプランであった。

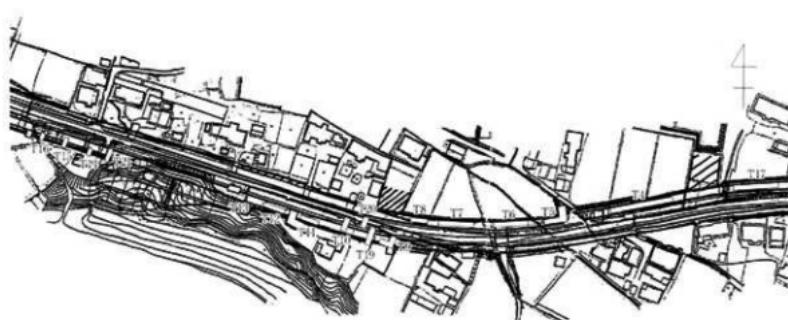
T8～T10を設定した箇所も住宅が所在していた箇所である。層序は、T1～T7と大きく異なり、旧表土にあたる黒色土層、検出面にあたる褐色土層に礫をかなり多く含んでいた。造構及び遺物は確認できなかった。

前回遺物包含層が確認された箇所に近接した調査未了区にT11を設定した。厚い盛土層下には旧表土と推測される第Ⅳ層が確認され、多量の遺物が確認されたため、掘削を第Ⅳ層上面で断念した。包含層下には、造構が所在している可能性がある。

T13を設定した箇所は、旧表土にあたる黒色土層、検出面にあたる褐色土層に礫をかなり多く含んでいた。造構及び遺構は確認できなかった。



第124図 上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡位置図



第125図 上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡調査区位置図

#### 43 一般国道342号道路改築事業

五輪堂遺跡（OE38-2093）

所在地：一関市花泉町湧津

事業者：県南広域振興局・一関総合支局土木部

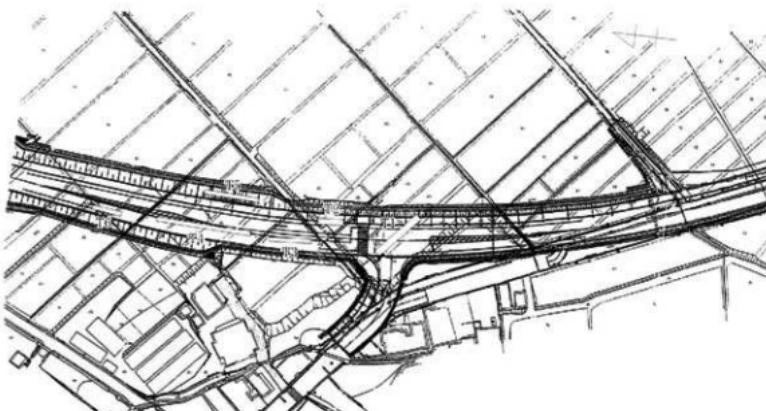
調査期日：平成18年12月12日（火）

五輪堂遺跡は、JR東北本線花泉駅の南東約2.5kmに位置し、北上川の支流の神流川右岸の河岸段丘上に立地している。現況は畑及び水田となっている。本遺跡は、鉄製の五輪塔が出土しており、現在重要文化財に指定されている。また、本遺跡は圃場整備事業に伴い、隣接区域が本調査対象となっている。今回の調査は、以前の調査範囲に隣接した範囲で道路予定の範囲を対象としている。調査対象区域に6本のトレンチを設定した（T1～T6）。

T1では、耕作土及び盛土の下層の暗褐色土層または地山層で、溝を確認した。T2～T5のトレンチを設定した田面では、いずれのトレンチでも溝、柱穴、土坑などの遺構を確認することができた。T6は、T5を設定した田面から一段下がった田面に設定した。このトレンチでは、盛土の下層に暗褐色粘土の地山層がみられ、T1～T5のトレンチで遺構を確認した層は確認できず、より下層の地山層と考えられる。このことから、T6を設定した田面はこれらの層が存在せず、改変が行われたものとみられる。このトレンチでは遺構及び遺物は確認できなかった。



第126図 五輪堂遺跡位置図



第127図 五輪堂遺跡調査区位置図

#### 44 一般国道342号道路改築工事

中村城跡（OE37-0332）

所在地：一関市花泉町老松字寺田

事業者：県南広域振興局一関総合支局土木部

調査期日：平成18年12月11日本

中村城跡は、一関市役所花泉支所の北東約0.6kmに位置し、金流川東岸の微高地に立地している。現況は水田、道路で標高は22m前後を割る。

今回の調査は一般国道342号道路改築事業に伴うものであるが、事業予定地の大半は平成14年12月には場整備事業に伴い試掘調査が行われており埋蔵文化財が確認されている。よって今回の調査は埋蔵文化財の広がりを確認するため、事業予定地に沿って、南北2方向にトレーンチを設置していく。

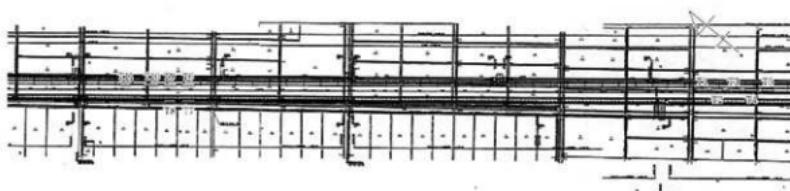
南側にはT1～T5の5箇所にトレーンチを設定した。T1は他のトレーンチと異なる層序を呈しており、有機質分の多い土が厚く堆積し、その間に十和田a降下火山灰の堆積層が確認され、T1付近に幅の広い埋没沢が存在することが予想される。十和田a火山灰は均一に堆積しておらず、幅40cmの帯状に2条の分布が確認され、水田、水路等が十和田a火山灰で被覆されている可能性がある。十和田a火山灰層は現地表面から140cmの深さに存在している。またT1ではⅢ層中から回転糸切痕のある土器片が出土している。T2では現地表下110cmから幅150cmの溝が1条検出されている。その他南側調査区では、T2よりも南に設定したT3～T5から遺物、遺構は確認されず、埋蔵文化財の広がりはT2付近までと判断される。

北側ではT6～T11の6箇所のトレーンチを設定した。いずれのトレーンチからも遺構、遺物は確認されず、埋蔵文化財は北側には広がらないと判断される。

以上、平成14年度に確認された範囲に加え、今回調査の南側に埋蔵文化財の範囲が広がることが確認された。



第128図 中村城跡位置図



第129図 中村城跡調査区位置図

#### 45 道路改築事業

松山大地田沢遺跡 (LG33-2166)

宮古市松山第7地割大地田沢

所在地：宮古市松山第7地割大地田沢

事業者：宮古地方振興局土木部

調査期日：平成18年12月4日㈰、5日㈪

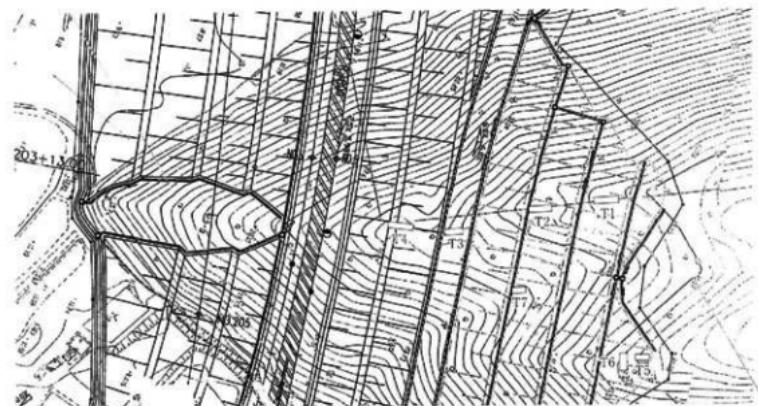
松山大地田沢遺跡は、宮古市役所の南西約3.8km、閉伊川によって形成された河岸段丘に立地している。遺跡の標高は36~45mを測り、現況は山林となっている。今回の調査は道路改築事業に伴うものである。遺跡は古代の集落跡として周知されている。

今回の調査では、全て人力で実施した。試掘トレンチは段丘の中腹にある南北側平場4箇所と北東側の平場2箇所、そして南西と北東の尾根に挟まれる沢の平場部分に1箇所の計7箇所に設定した。北東側の2箇所については遺構、遺物とも一切確認されなかった。一方、南北側の4箇所については上からT1~T4の順に設定したが、T1からは土師器片が数点出土している。いずれも平安時代のものと見られる。遺構については明らかに確定できるものを確認することはできなかったが、遺構になりそうなものは数基見受けられた。T2からは柱穴状遺構が1基確認されている。掘り方部分も含めた規模は45×30cmである。またT3からは遺構、遺物は確認できなかったが、割れた丸い礎が1点出土している。使用痕等は確認できなかったが、段丘の中腹に1点だけこのような石が確認されたことは遺物である可能性を伺わせる。T4については明らかな遺構は確認できなかったが、遺構になる可能性があるものが数基確認されている。南北と北東の尾根に挟まれた沢部分に設定したT7からは焼土混じりの土が確認されたが現地性のものではないと思われる。また、その焼土が確認された面の直上の層からは平安時代の土師器が数点出土している。この地区については地表面までは50~70cmほどである。緩やかな斜面になっているが、平坦面となる箇所もある。

遺跡内の調査については以上であるが、もう一箇所遺跡の東側に隣接する畠地に試掘トレンチT8を設定したが、遺構、遺物とも確認されなかった。



第130図 松山大地田沢遺跡位置図



第131図 松山大地田沢遺跡調査区位置図

#### 46 緊急地方道整備事業

森崎遺跡（KG93-0193）隣接地

所在地：宮古市田老字森崎

事業者：宮古地方振興局土木部

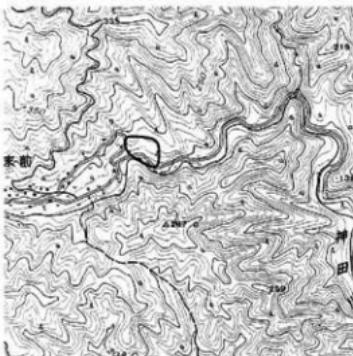
調査日：平成18年6月16日(金)

本調査区は、宮古市役所田老総合事務所の北西約4.6km、神田川によって形成された河岸段丘上に立地している。

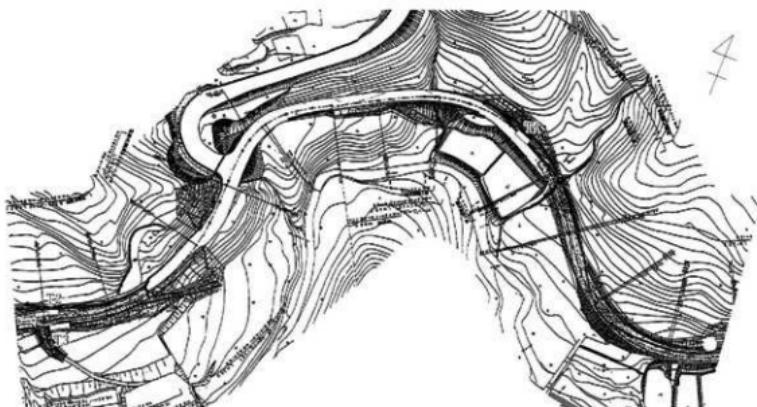
調査区の標高は184～187mを測り、現況は山林となっている。今回の調査は緊急地方道路整備事業に伴うものである。本調査区に隣接する森崎遺跡は平成17年の、宮古市教育委員会の分布調査によって発見された縄文時代の遺跡である。

調査区の現況は県道及びその南部の一段低い面に広がる草地であり、その南部には神田川が東流する。基本層序は表土であるやや茶色がかかった褐色土が最上位に比較的厚く堆積し、その下層には黒褐色土が入り、最下層は造構検出面となる黄褐色土である。Ⅱ層及びⅢ層には直径60～80cmほどの大きな礫が含まれる。遺構は第Ⅲ層上面から直径140cmほどの円形の土坑を検出した。造構の出土地点は県道より南部に一段低い原野の西側である。埋土は黄褐色～黒褐色の混合土であるが、その埋土の表面から縄文土器片が1片出土した。造構出土地点の北側の県道については路盤が30cmほどで、その下が盛土30cm、その下が黄褐色土の地山となる。この堆積状況から県道から南の原野にかけては緩やかに下がる斜面地形になっていることが明らかになった。

今回の調査では土坑1基が確認されたのみであったが、縄文土器が伴って検出されていることから、県道部分を含め当該時代の造構は更に周囲に広がる可能性が高いものと思われる。



第132図 森崎遺跡位置図



第133図 森崎遺跡調査区位置図

#### 47 経営体育成基盤整備事業猫川左岸地区

### 森の下Ⅱ遺跡 (OE37-0332)

所在地：遠野市上郷町細越字森ノ下

事業者：昭南広域振興局一関総合支局土木部

調査期間：平成18年11月10日(金)

森の下II遺跡は、JR釜石線岩手上郷駅の東約1.5kmに位置している。猫川左岸の微高地土に立地し、現況は畑及び水田となっている。本遺跡は绳文時代の散布地として周知されている。調査対象は切り土となる田面及び排水路予定箇所である。調査区にトレンチを3本設定した(T1~T3)。本遺跡は、平成17年11月にも試掘調査を行っている。その際には、調査範囲は湿地帯であった状況が確認され、埋蔵文化財は確認されなかった。今回の調査範囲はその際に調査未了であった箇所である。

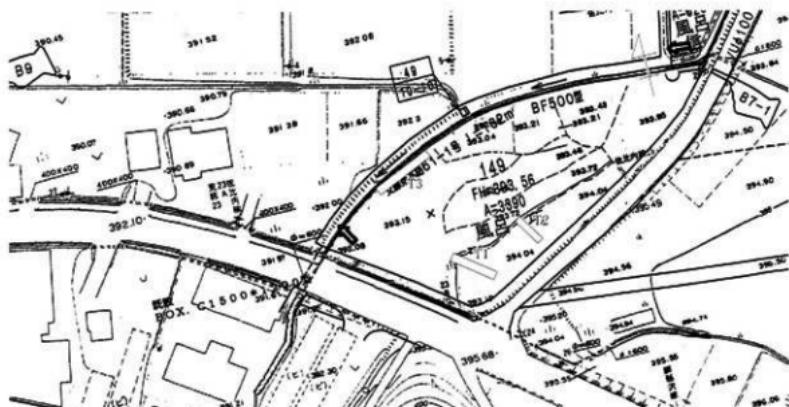
T3では、表土及び盛土の下に暗褐色土層が確認でき、その下層に褐色土層が確認できた。この褐色土層上面で、15×20cm大の柱穴、90cm大の土坑が確認できた。また、この層からは縄文土器片が確認された。これらのことから、T3を設定した箇所の周辺では、縄文時代の遺構および遺物の存在が確認され、周辺部にも埋蔵文化財が包蔵されているものとみられる。

T1及びT2を設定した田面では、表土、旧耕作土の直下に砂礫層が確認でき、過去の水田造成などにより地形の改変が行われたとみられる。

今回の調査の結果、遺構及び遺物が確認された。現在、宅地となっている微高地上の範囲とその周辺地域が埋蔵文化財の分布範囲と考えられ、過去の試掘調査等から周辺の標高の低い面は低湿地などが広がっているものとみられる。森の下Ⅱ遺跡は縄文時代の散布地として周知されている遺跡であるが、今回の試掘調査の結果からも、縄文時代の遺構や遺物が確認されており、当該時期の遺跡であることがわかる。



第134図 森の下Ⅱ遺跡位置図



第135図 森の下Ⅱ遺跡調査区位置図

#### 48 地方道路整備事業(主要地方道一戸山形線来田地区)

似平II遺跡 (JF10-2384)

所在地：二戸郡一戸町字小木田

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成18年8月1日(火)

似平II遺跡は一戸町役場の東約3.8km、馬淵川支流の小井田川によって形成された河岸段丘上に立地し、標高は217~233mを測る。今回の調査は地域道路整備事業主要地方道一戸山形線来田工区の道路拡幅に伴うものである。

今回調査を実施した似平II遺跡は縄文時代晩期の集落跡として周知されている。

今回の調査区は大きく3箇所に分かれる。1箇所目は調査区西側の現県道沿いのたばこ畑にあたる部分、2箇

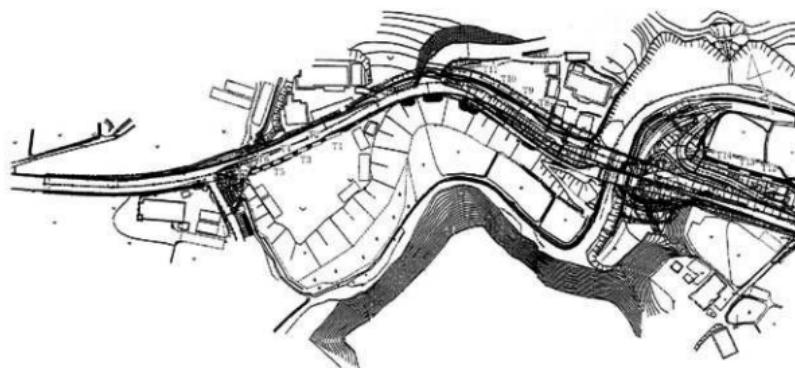
所目は調査区中央部付近の県道から4mほど高台にある現宅地の畠地部分、3箇所目は小井田川にかかる堂の前橋から北東に下がる水田部分である。1箇所目のたばこ畑部分にはT1~T7の7箇所にトレンチを設定した。本地區の土層は黒褐色の表土直下に褐色の地山が入るという堆積状況が観察されたが、同地区的T3から幅60cm、長さ210cm以上の中空穴状遺構が1基検出されている。本遺構は調査区外の南側に延びているものと推測されるが、調査区内も一部分水道の埋設で破壊されており、規模は限られた範囲しか確認できなかった。7箇所のトレンチのうち、確認された遺構はこの陥入穴状遺構1基のみであったが、同じような遺構は調査区外の北側、南側に広がって存在することが推測される。

2箇所目の宅地部分にはT8~T11の4箇所にトレンチを設定した。本地區は基本層序にも記したとおり、上部の黒色土及び暗褐色土、中部の中振浮石層の堆積が非常に多く、層序的には数枚の生活面が確認されたが、遺構、遺物については全く確認されなかった。

3箇所目の地区についてはT12~T14の3箇所にトレンチを設定したが、どのトレンチにおいても表土直下に小井田川の旧河道のものと見られる砂礫が確認された。



第136図 似平II遺跡位置図



第137図 似平II遺跡調査区位置図

#### 49 都市計画道路上野西法寺線砂森地区

野田城跡 (JF20-0051)

所在地：二戸郡一戸町高善寺字野田

事業者：二戸地方振興局土木部

調査日：平成18年8月2日㈭

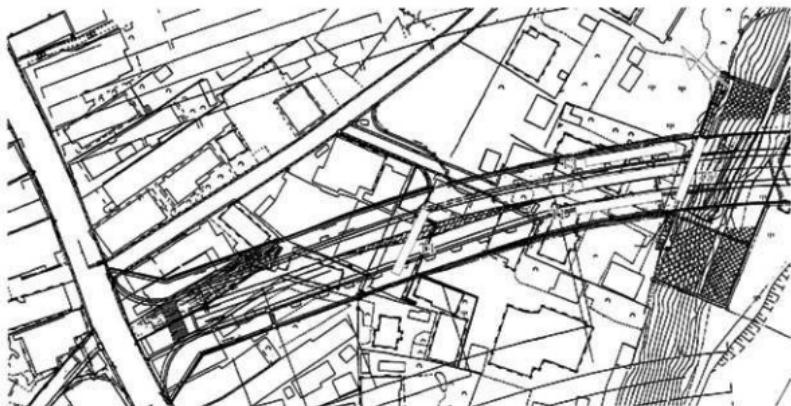
野田城跡は一戸町役場の東約750mに位置し、馬淵川西岸の河岸段丘上に立地している。現況は住宅及び道路で、標高は約144m前後である。今回の調査は、都市計画道路上野西法寺線砂森地区街路整備工事に伴うものである。調査対象区域は、野田城跡の南西部隣接地である。

調査対象区域に5本のトレンチを設定した(T1~T5)。

T3で11基の柱穴を、T4で4基の柱穴を検出した。柱穴はいずれも径が20×30cmで、明確な柱根が確認できるものも含まれている。T5では幅約10cm、長さ2m程度の溝を1条確認した。T3で、縄文土器の細片が出土しているが、縄文時代の遺構と考えられるものは周囲からは検出されなかった。今回の調査対象区域は野田城跡の遺跡範囲の隣接地であり、今回検出された柱穴や溝も野田城跡に関わる、中世の遺構と考えられる。



第138図 野田城跡位置図



第139図 野田城跡調査区位置図

## 50 遠野第二生活貯水池建設事業

夫婦石袖高野遺跡

所在地：遠野市遠野町字夫婦石袖高野

事業者：県南広域振興局花巻総合支局土木部遠野土木センター

調査期日：平成18年9月20日～

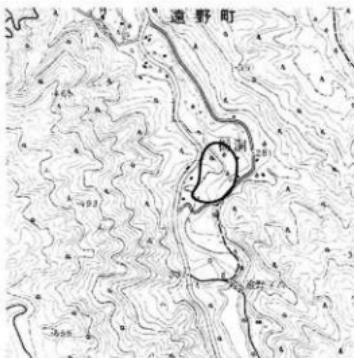
夫婦石袖高野遺跡は、遠野市役所の南約1.7kmに位置し、来内川西岸の中起伏山地の縁辺部に立地している。現況は山林、原野で標高は280m前後を測る。

今回の調査は遠野第二生活貯水池建設事業に伴うものである。本遺跡は平成15年度に財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより発掘調査がおこなわれており、堅穴住居跡、土坑などが検出され、縄文時代早期、後期の遺物が出土し、当該期の集落であることがわかっている。今回の調査対象範囲は平成15年調査範囲の南側隣接地に相当する。調査範囲内の6カ所にトレンチを設定した。T1～T5は平成15年調査区に連続する平場部分、T6は南側の斜面部分に位置する。

平場部分においては、T3で縄文土器片が1片、T5で縄文早期の貝殻文土器、縄文後期の土器数片が出土した。遺構はいずれもトレンチでも確認できず、平成15年調査区よりも遺構密度が薄い可能性がある。

また、南側の斜面部分のT6では遺物、遺構の検出はなかった。南側斜面部分に設定したトレンチはT6の1カ所のみであるが、周囲の地形の状況はかなりの急斜面で、埋蔵文化財は存在しないと判断される。

以上の試掘調査の結果、夫婦石袖高野遺跡は今回の試掘調査対象区では以前の岩手県埋蔵文化財センターの発掘調査区に隣接した箇所ではあるが、遺構や遺物の出土量は少なく、遺跡の主体は前回の調査区にあたるものと考えられる。しかし、量は少ないものの、今回の調査区においても縄文時代早期の貝殻文土器や縄文後期の土器が検出されており、一體に埋蔵文化財が広がるものとみられる。また、その範囲は南側の傾斜地まで至らない平場部分に収まるものと判断できる。



第140図 夫婦石袖高野遺跡位置図



第141図 夫婦石袖高野遺跡調査区位置図

## 51 緊急地方道整備事業

本波Ⅷ遺跡（JG10-0332）

所在地：久慈市侍浜町本波

事業者：久慈地方振興局上本部

調査期日：平成18年8月1日㈬、2日㈭、24日㈭、25日㈮

本波Ⅷ遺跡は、久慈役所の北東方向約5.6kmに位置し、海岸段丘上にある尾根状の微高地に立地している。標高は、142~153m前後を測り、尾根部と平地部分では11m前後の標高差がある。今回の調査は、県道新設工事に伴うもので、路線部分が対象である。調査対象区域に14本のトレーニングを設定した（T1~T14）。

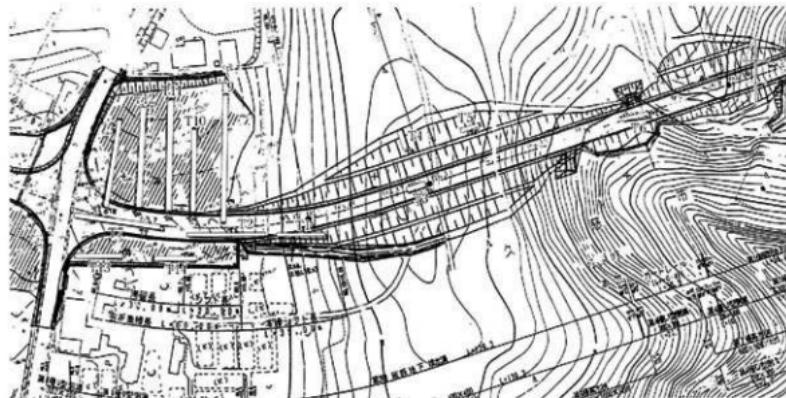
尾根部分にT1、T3~T5を、尾根の裾から平地部分にかけてT2を設定した。T1においては、第V層上面で、径110×80cmの規模の土坑1基と80×50cmの規模の土坑1基が検出され、110×80cmの土坑埋土には、縄文土器片が含まれていたほか、炭化物粒も含まれていた。尾根上に広がる平場にT3を設定した。第III層から土器が出土し、第V層で径100×70cmと径60×50cmの土坑が2基検出された。

南面する斜面にT5を設定したが、遺構及び遺物は確認できなかった。このT5を設定した箇所より南側はかなり傾斜がきつかったことから、重機による調査は今回の調査では困難であったため試掘トレーニングを設定しなかった。谷間の比較的傾斜があまりきつたくない箇所に土器捨場等が所在している可能性もあることから、T6を設定したが、第III層にあたる層は確認できたものの層は薄く遺物等は確認できなかったが、トレーニング設定箇所以外には所在している可能性がある。

現在、牧草地として利用されている区域にT7~T14を設定した。この区域は、道路新設予定路線と残土置場予定地となっている。T7~T14における層序は、表土、黒色土（盛土）、盛土、第V層下層の粘土層（第VI層）の順であり、一部は、粘土層下にあたる礫を多く含む層（第VII層）があらわれていた。T7において、表土内から摩滅の激しい土器片2点が出土したほか、他のトレーニングからは出土しなかった。包含層にあたる第III層から検出面上にあたる第V層が所在せず、堆積層の状況から草地造成の際と思われる工事によって、第V層上面まで地形変更を受けていることがうかがえた。



第142図 本波Ⅷ遺跡位置図



第143図 本波Ⅷ遺跡調査区位置図

## 52 一般農道整備事業大川目地区

外里遺跡 (JF38-0255)

所在地：久慈市大川目町

事業者：久慈地方振興局土木部

調査期日：平成18年10月18日(水)

外里遺跡は、久慈市役所の西約6.2km、久慈川左岸の丘陵斜面に立地している。遺跡の東側には久慈川の支流である田子内川が南流している。遺跡の標高は25m前後となっている。今回の調査は、一般農道整備事業に伴うものであるが、遺跡が位置する大川目町内には場整備事業大川目地区の範囲にも含まれており、周辺を含めて近年調査が行われている。外里遺跡においても過去に試掘調査等が行われている。これらの調査成果から本遺跡は縄文時代前～中期、晚期の遺跡であることが知られている。調査区に6本のトレンチを設定した (T 1～T 6)。

調査区の東側に設定したT 1、T 2では、水田造成時に大きく地形の改変が行われており、遺構や遺物は検出されなかった。西側の市道を挟んだ低位丘陵面に設定したT 3、T 4についても同様に以前の水田造成時に大きく地形改変が行われていることがわかった。またT 1～T 4を設定した低位面は、地形改変以前より沢筋にあたり低位面であったことが、堆積層の状況からうかがえた。ここから緩斜面でやや標高くなる地点にT 5及びT 6を設定した。これらのトレンチでは、表土下に旧表土とみられる黒褐色土層が確認された。T 5では最治期と考えられる焼土遺構が検出された。また、さらに下層の地山層とみられる黄褐色土層の上面で径150cm程度の上坑を検出した。周囲には柱穴状の遺構も確認された。T 6では縄文土器片を多数検出している。

以上の結果、外里遺跡の今回の調査区では山際のやや標高の高い傾斜地に遺構や遺物がみられることがわかった。また出土遺物から縄文時代は早期から晚期までの遺物がみられることから、多くの遺構の存在が考えられる。また、今回の調査区では鉛治炉や鉄滓等が検出されており、周辺に製鉄関連の遺構が存在すると考えられる。



第144図 外里遺跡位置図



第145図 外里遺跡調査区位置図

### 53 経営体育成基盤整備事業南日詰地区

下川原I遺跡 (LE77-2159)

所在地：紫波町南日詰下川原、八坂

事業者：盛岡地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成18年10月5日㈭、6日㈮、10日㈫

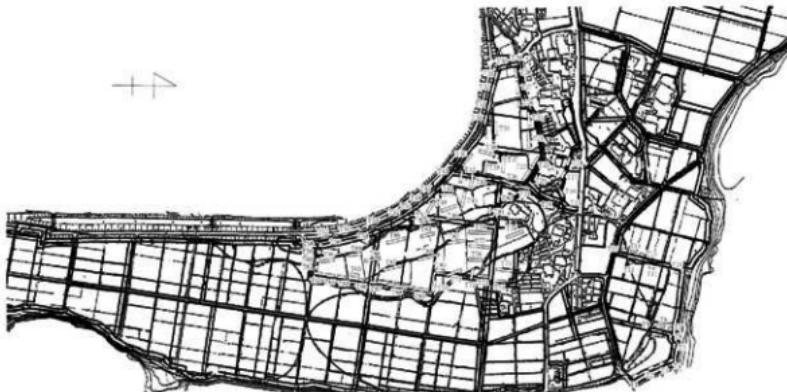
本遺跡は、紫波町役場の南約3.5kmに位置し、北上川西岸の河岸段丘に立地している。現況は水田、道路、神社境内などで標高は90m前後を測る。今回の調査対象範囲は下川原I遺跡の北側（北側調査区）及び西側（西側調査区）である。下川原遺跡範囲内は、平成10年度に岩手県教育委員会が試掘調査を行い、埋蔵文化財が確認されている。今回の調査は経営体育成基盤整備事業南日詰地区に伴うものである。北側調査区に15か所（T1～T15）、西側調査区に78か所にトレンチ（T16～T93）を設定した。

北側調査区のT1では現表土の30cm下で遺物包含層が確認された。出土遺物は湖美産陶器甕（12世紀）12世紀のかわらけとみられる土器の片が出土した。包含層の厚さは40cmある。遺物包含層上面の標高は、88.93mである。包含層直下は黄褐色ローム層だが、この面で遺構は存在しなかった。T2でも現表土下30cmで遺物包含層を確認し、常滑産広口壺片、中国龍泉窯青磁碗、かわらけ片など12世紀の遺物が出土した。T2の遺物包含層上面の標高は88.93mである。T7では、遺物包含層に相当する暗褐色土層は存在し、からわらけと思われる微細土器片が出土した。T7における遺物包含層上面の標高は89.00mである。T3～T6、T8、T9では遺物包含層に相当する暗褐色土層はあるが、遺物の出土、遺構の検出はなかった。また、T14では径100cmの円形の土坑、長辺200cmの長方形の土坑と径約20cmの柱穴1個が検出され、T15では径20cmの柱穴が1個検出された。T14では近世陶磁器が少量出土した。T14、T15の遺構検出面の標高は89.80mである。T10～T13では出土遺物や遺構はない。西側調査区では、全面を覆う形にトレンチを78箇所に設定したが、地山面は砂疊層で、旧河道と推測される。

今回の調査で、北側調査区から12世紀の遺物がまとまった量出土した。平成10年度試掘調査の際の出土遺物にも、12世紀のかわらけ、常滑産三筋壺片が存在しており、下川原I遺跡本体にも12世紀の遺構、遺物が濃密に分布することが予想される。



第146図 下川原I遺跡位置図



第147図 下川原I遺跡調査区位置図

## 54 経営体育成基盤整備事業南日詰地区

南日詰八坂遺跡 (LE77-2116)

所在地：紫波町南日詰字八坂

事業者：盛岡地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成18年10月5日㈬、6日㈭、10日㈪、18

日㈫

本遺跡は、紫波町役場の南側3.3kmに位置し、北上川西岸の微高地に立地している。現況は水田、道路、宅地で標高は91m前後を測る。今回の調査は経営体育成基盤整備事業南日詰地区に伴うもので、調査対象範囲は南日詰八坂遺跡の範囲内及び周辺隣接地である。遺跡範囲内的一部分については、平成10年度に岩手県教育委員会文化課が試掘調査を行い、鉢文土器片等が確認されている。調査区対象範囲の52方所 (T1~T52) にトレンチを設置した。

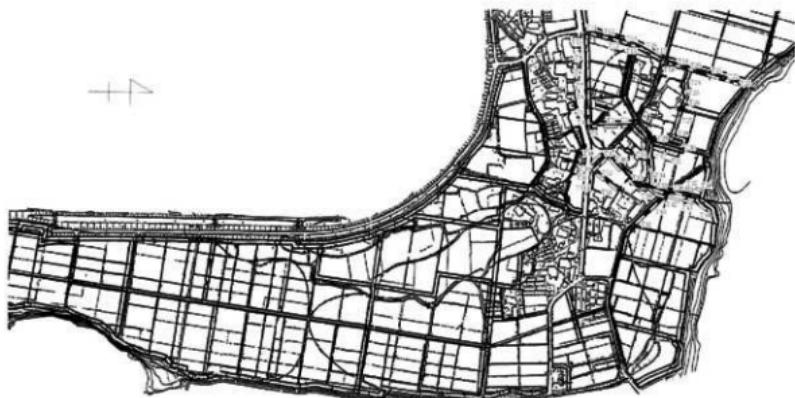
T1、T2は旧宅地に設置したトレンチである。T1は擾乱が著しかったが、T2では径20~40cmの柱穴15個とかまと状遺構1基が検出された。共伴遺物がなく遺構の詳細な時期は不明であるが、中世から近世のものと推測される。

他のトレンチは遺跡範囲外の水田部分に設定している。磨耗した土師器微細片が出土したトレンチもあるが、他に遺構、遺物は検出されず、遺跡の広がりは及んでいないと判断される。

今回の調査と平成10年度の試掘調査結果から、埋蔵文化財の分布は南日詰八坂遺跡の範囲内に納まるに推測される。



第148図 南日詰八坂遺跡位置図



第149図 南日詰八坂遺跡調査区位置図

## 55 経営体育成基盤整備事業南日詰地区

南日詰小路口I遺跡（LE77-1123）、  
南日詰小路口II遺跡（LE77-1131）及び隣接地  
所在地：紫波町南日詰字小路11

事業者：盛岡地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成18年10月20日㈬、23日㈯、24日㈰

本遺跡は、紫波町役場の南約2kmに位置し、北上川西岸の河岸段丘に立地している。現況は水田、道路、宅地などで標高は92m前後を測る。今回の調査対象範囲は、小路口I遺跡と小路口II遺跡の遺跡範囲とその周辺部である。調査対象範囲に112箇所のトレンチ（T1～T112）を設定した。ほとんどのトレンチで12世紀のかわらけ、陶磁器を含む遺物包含層が確認され、遺跡の範囲がこれまで確認されていた以上に広がることが確認された。また広い範囲で柱穴、溝などの構造も検出されており、12世紀の構造が広い範囲に分布していることも確認された。12世紀の遺物出土は今回の調査対象範囲のほぼ全面に広がっており、既には場整備が終了した南側と今回の場整備対象外の北側にも、さらに遺跡の範囲が広がっていると推測される。

今回の調査対象範囲の西側には、奥州藤原氏の一族である比爪氏の居館とされる「比爪館跡」がある。今回の出土遺物は手づくねかわらけ、ロクロかわらけ、中国磁白磁四耳壺、東海地方産陶器などがあり、比爪館出土のもと質的に遜色ないものである。比爪館と同時代の遺跡がその東側に広い範囲に存在し、同質の遺物が出土したことは、奥州藤原氏の居館、都市構造を考える上で非常に重要な資料である。



第150図 南日詰小路口I・II遺跡位置図



第151図 南日詰小路口I・II遺跡調査区位置図

## 56 一般県道盛岡石鳥谷線上平沢地区道路拡幅工事

南七合 I 遺跡 (LE66-2156)

所在地：紫波郡紫波町上平沢地内

事業者：盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成18年8月7日㈰

南七合 I 遺跡は紫波町役場の南西3.4km、北上川によって形成された沖積地上に立地し、標高は124m前後を測る。今回の調査は一般県道盛岡石鳥谷線上平沢地区道路拡幅工事に伴うものである。

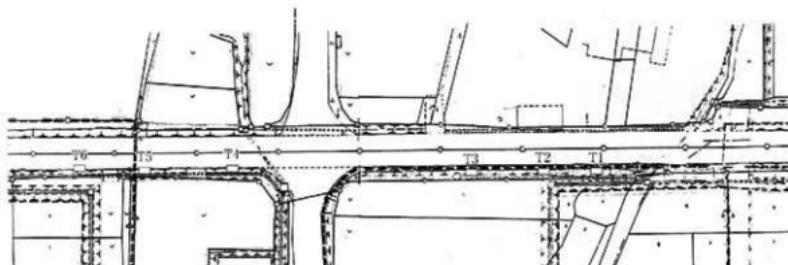
今回の調査区に隣接する南七合 I 遺跡は平安時代の散布地として周知されている。

調査は現県道の西側部分を拡幅することから県道の西端部の未舗装部分6箇所にトレンチを設定し実施した。

調査区南部に設定したT1～T3からは表土、盛土を40cmほど掘ると東隣に平行して走るパイプラインが検出され、その西側の部分からも同じ高さで地山が確認され、その上部には旧表土も確認されなかった。T4は調査区を東西に走ると見られる溝が10cm程度残存しており、70cm余り掘削すると褐色土の地山面から東西に走ると見られる溝が1条確認された。溝の幅は65cmほどであるが長さは不明である。また遺物等の出土も見られなかったことから時代についても特定できなかった。T5及びT6についてはT4で確認された旧表土の残る範囲がどこまで広がるかということを確認するために設定したが、T5までは旧表土の広がりが確認できたものの、T6については水分を多量に含む湿地状の土質に変わり、旧表土の残りも確認できなかった。



第152図 南七合 I 遺跡位置図



第153図 南七合 I 遺跡調査区位置図

## 57 農用地総合整備事業下閉伊北地区

二升石大根遺跡(KF59-2262)

所在地：下閉伊郡岩泉町尼御字長畑

事業者：緑資源機構東北北海道整備局下閉伊北建設事業所

調査日：平成18年10月10日(月)

二升石大根遺跡は、岩泉町役場から西方向へ約3.5kmに位置し、山から小本川まで延びた尾根状の丘陵地に立地している。遺跡の標高は、138~156mを測る。今回の調査区は、遺跡範囲隣接の標高127m前後の水田であり、ほ場整備事業予定区域となっている。調査は、切土予定の田面及び排水路設置予定箇所が対象である。調査対象区域に12本のトレンチを設定した(T1~T12)。

T1及びT2を設定した田面の一部は、地形観察等から水田造成時に尾根状地形の先端部を切土して開田されたことが伺えたが、掘り下げたところ、層序は、湿地性の植物根が多く残存している黒褐色土、グラウイ化した褐色腐層の順であった。沢沿いの湿地であったと推測した。T1及びT2においては、遺構及び遺物は確認できなかった。

丘地形が比較的良好に残存していると思われる田面にT3~T7を設定した。いずれのトレンチにおいても、縄文時代後期のものと思われる土器片を多く含む包含層が確認され、盛土予定の田面であったが確認のために設定したT4においては、径40cmの大土坑1基が検出され、周囲からは縄文土器が出土した。

周囲の田面より低い水田に設定したT8~T11においては、旧水田耕作土から埋没した上器片が出土したもの、包含層にあたる層は確認されなかった。今回の調査区で最も標高の高い水田下に設定したT12においては、包含層が確認された。

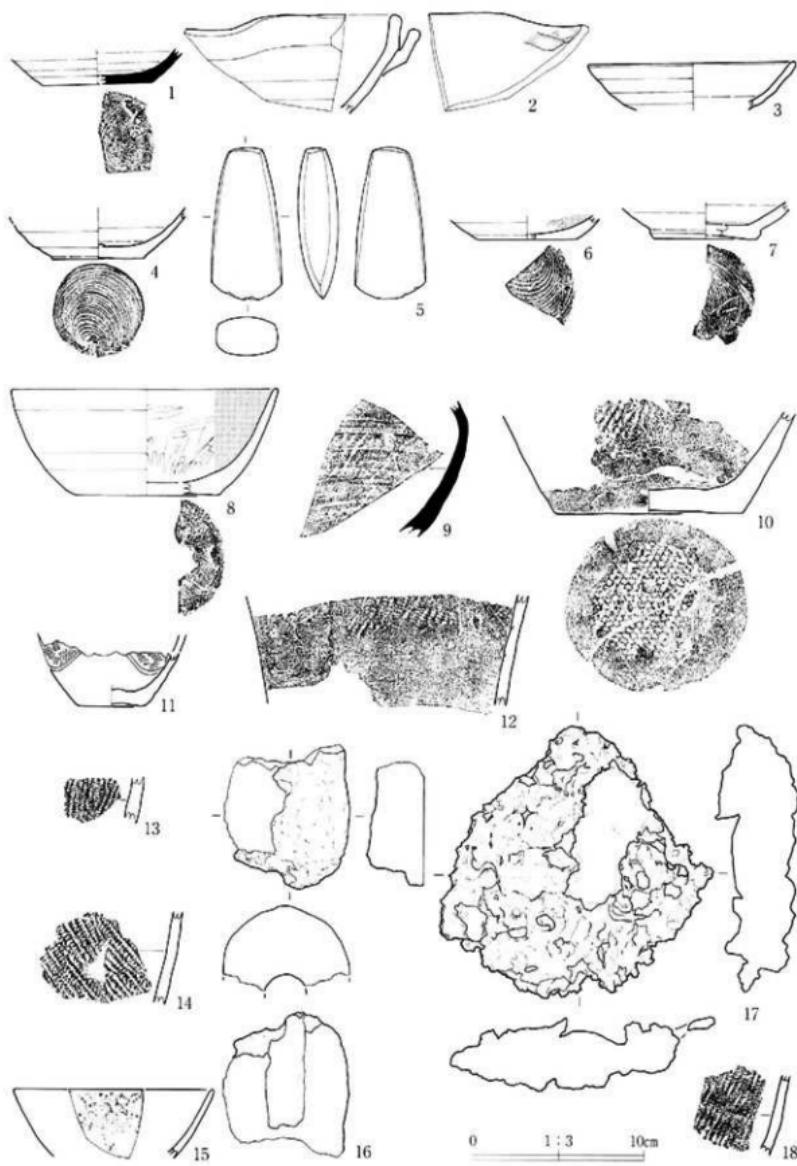
今回の調査区内において土坑は確認されたものの、土器に結びつく竪穴住居跡等の遺構が確認されなかったことから、集落等については、過去に試掘調査を実施し竪穴住居跡等の遺構が検出された標高150m付近の畠地に所在している可能性が高いものと推測した。



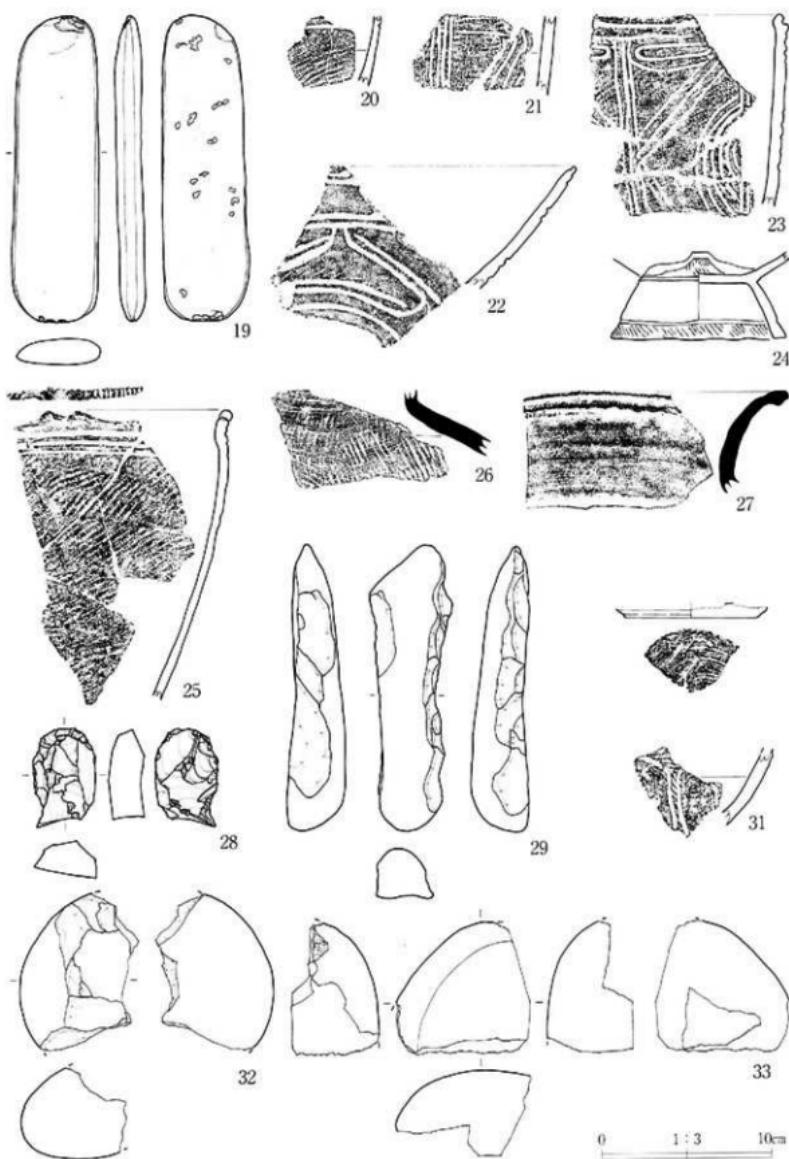
第154図 二升石大根遺跡位置図



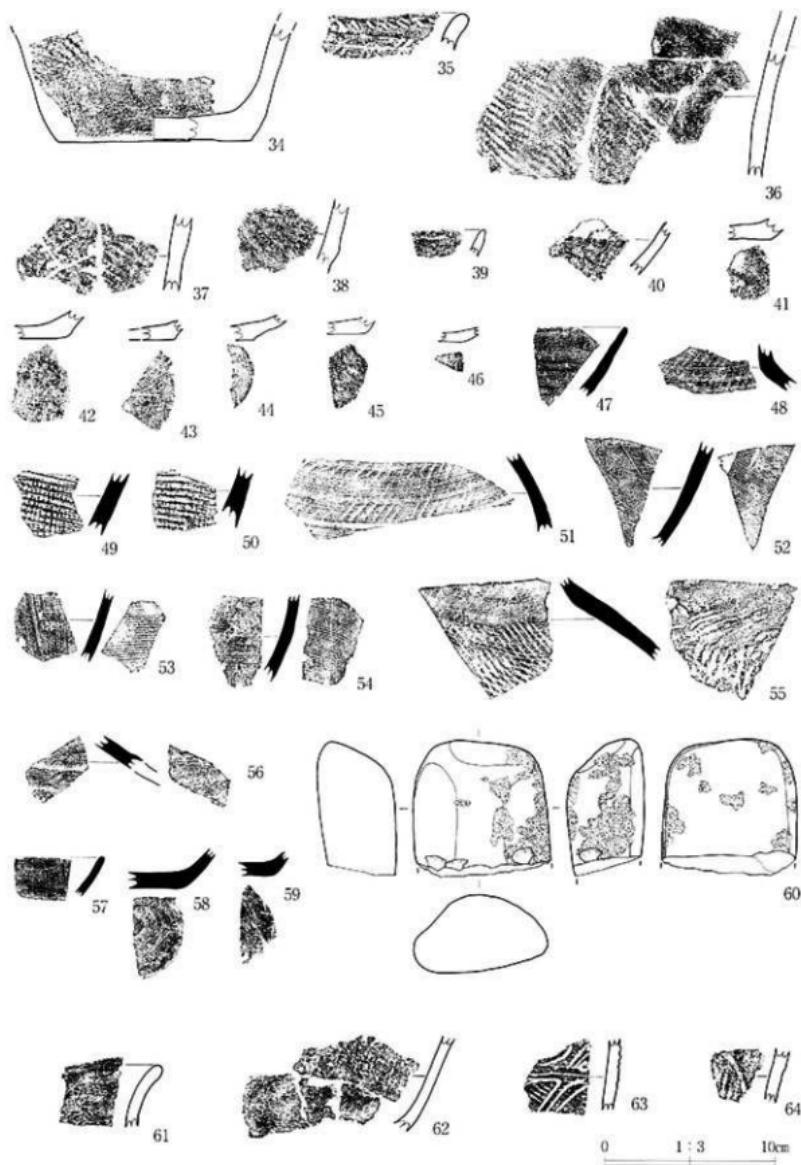
第155図 二升石大根遺跡調査区位置図



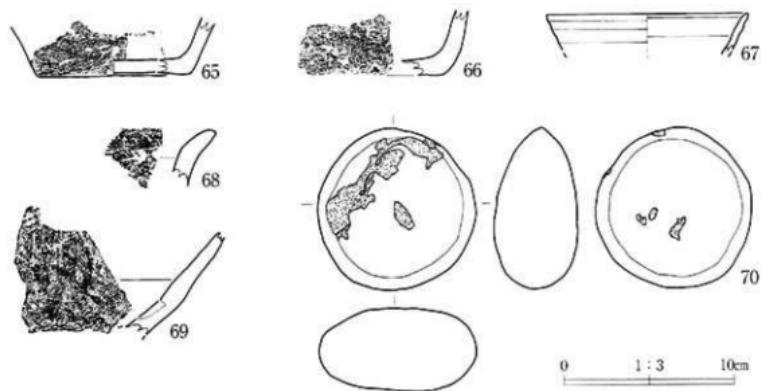
第156図 試掘調査出土遺物(1)



第157図 試掘調査出土遺物(2)



第158図 試掘調査出土遺物(3)



第159図 試掘調査出土遺物(4)

## 試掘調査掲載遺物一覧

No	遺跡名	場所	種別	器種	特徴
1	曾根3区I		須恵器	环	口クロ・底部回転系切り痕
2	曾根3区II		陶製	片口鉢	
3	羽黒山	土師器	环	口クロ	
4	羽黒山	土師器	环	口クロ・底径5.5cm・回転系切り痕	
5	羽黒山	鐵石器	剪製石斧		
6	中野	土師器	环	口クロ・内里・ミガキ・底部回転系切り痕	
7	中野	土師器	环	口クロ・内里・ミガキ・底部回転系切り痕	
8	中野	土師器	环	口径16cm・器高・回転系切り痕	
9	中野	須恵器	束		
10	川上A	繩文土器	深鉢	底部擦伐痕	
11	川上A	繩文土器	鉢	後期	
12	川上A	繩文土器	深鉢		
13	上町	繩文土器	鉢	晚期・胎土に海螺骨針を多く含む	
14	上町	繩文土器	鉢	晚期・胎土に海螺骨針を多く含む	
15	別荘	縦型	輪	染付	
16	別荘	土製品	鉢		
17	別荘	鉄洋			
18	松原敷	繩文土器	鉢		
19	鹿島	石器		両端部に剥離あり　長さ7.6cm　幅5cm	
20	東山岩田堂館	繩文土器			
21	日接	繩文土器		後期	
22	日接	乳生土器			
23	日接	乳生土器			
24	奇波I	繩文土器	器台		
25	奇波I	繩文土器			
26	崩山	須恵器	束	体部の頸部との接合部外面タタキ→口クロナデ	
27	広瀬前	須恵器	瓦	頭部 内外面口クロナデ	
28	親音寺	石器	剥片		
29	親音寺	鐵石器		両側に浅打痕	
30	中村城	土師器	环	口クロ・底部回転系切り痕・摩滅が著しい	
31	森崎	繩文土器	鉢	中期	
32	松山大字田沢	鐵石器	鐵石		
33	松山大字田沢	鐵石器	鐵石	磨削石	
34	夫婦石袖高野	繩文土器	鉢	胎下半～底部　前期か？	
35	外里	繩文土器			
36	古城	繩文土器			
37	古城	繩文土器			
38	古城	繩文土器			
39	古城	繩文土器			
40	古城	繩文土器			
41	古城	土師器	环	底部破片	
42	古城	繩文土器	鉢	底部破片	
43	古城	繩文土器	鉢	底部	
44	古城	土師器	小皿	底部・摩滅が著しい	
45	古城	土師器	环	底部	
46	古城	土師器	环	底部	
47	古城	須恵器	环	口縁部・破片	
48	古城	須恵器	束	内外面口クロ目	
49	古城	須恵器	束	外面格子タタキ・内画ナデ	
50	古城	須恵器	束	外面格子タタキ・内画ナデ	
51	古城	須恵器	束	外面タタキ→口クロナデ・内面口クロナデ	
52	古城	須恵器	束	内外面口クロナデ	
53	古城	須恵器	束	内外面口クロナデ	
54	古城	須恵器	束	内外面口クロナデ	
55	古城	須恵器	束	外面タタキ→口クロナデ・内面 同心円オサエ目	
56	古城	須恵器	束		
57	古城	須恵器	环	底部・ハラ切り無調整	
58	古城	須恵器	环	底部・系切り	
59	古城	須恵器			
60	古城	石器			
61	日仲	繩文土器			
62	日仲	繩文土器			
63	日仲	繩文土器			
64	日仲	繩文土器			
65	津付ダム	繩文土器	鉢	中期	
66	津付ダム	繩文土器	鉢	中期	
67	横腹	土師器	鉢		
68	宇治田上	繩文土器	鉢	内外面口クロ	
69	宇治田上	繩文土器	鉢		
70	相光6区	鐵石器	鐵石		

## 分布試験調査一覧

No	調査期日	事業名	事業者	道跡名	所在地
1	平成18年4月17日	直轄河川改修事業 北上川上流石鳥谷堤防	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	小倶留路	花巻市
2	平成18年4月17日	直轄河川改修事業 北上川上流石鳥谷堤防	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	八幡1道跡	花巻市
3	平成18年3月23日	(仮)一閣研究開発工業付地整備事業	岩手県土地開発公社理事長	-	一関市
4	平成18年7月14日	地域歩行支援道路ネットワーク整備事業	久慈地方振興局土木部長	-	普代村
5	平成18年6月23日	一般県道盛岡石鳥谷線土平湿地又道整備工事	盛岡地方振興局土木部長	南七合1道跡	紫波町
6	平成18年10月6日	森林管理道 鈴静分離開設工事	盛岡地方振興局土木部長	荒沢道跡	葛巻町
7	平成18年10月6日	森林管理道 煙脂銀開設工事	盛岡地方振興局土木部長	葛巻町	葛巻町
8	平成18年5月9日	一般国道456号大前交通安全事業	県前庄城振興局土木部長	御免道跡	奥州市
9	平成18年6月7日	新農業水利システム保全整備事業 植地地ヶ	県前庄城振興局農林部農村整備室長	-	奥州市
10	平成18年6月13日	新農業水利システム保全整備事業 松長富地ヶ	県前庄城振興局農林部農村整備室長	-	奥州市
11	平成18年6月19日	新農業水利システム保全整備事業 松長富地ヶ	県南庄城振興局農林部農村整備室長	神仙道跡	奥州市
12	平成18年6月7日、 14日、20日	新農業水利システム保全整備事業 植漸地ヶ	県南庄城振興局農林部農村整備室長	北上山	奥州市
13	平成18年6月7日、 14日、20日	新農業水利システム保全整備事業 植漸地ヶ	県南庄城振興局農林部農村整備室長	柏原街道跡	奥州市
14	平成18年6月13日、 20日	新農業水利システム保全整備事業 白岩地ヶ	県南庄城振興局農林部農村整備室長	丸太1道跡	奥州市
15	平成18年7月13日	地方道路交付金事業	県南庄城振興局一閣総介支局土木部下轄土木七ヶ ダ一所長	大森渡地方法橋興局土木部長	船引町
16	平成18年7月24日	森林基盤立構川・金武津開設工事	大森渡地方法橋興局土木部長	大木汎前道跡	住田町
17	平成18年5月31日	地域道路整備事業	久慈地方振興局土木部長	-	野田村
18	平成18年11月28日	津村ダム建設事業(工事用道路)	大船渡地方振興局土木部津村ダム建設事務所長	住田町	住田町
19	平成18年12月26日	津村ダム建設事業(工事用道路)	大船渡地方振興局土木部津村ダム建設事務所長	住田町	住田町

No	事  業  名	生  態  管	所 在  地
36	平成18年7月5日 一般社員	一般社員 (交通安全部) (会員登録) (会員登録)	新潟市
37	平成18年7月5日 一般社員	一般社員 (会員登録) (会員登録)	北上市
38	平成18年7月7日 一般社員	一般社員 (会員登録) (会員登録)	盛岡市
39	平成18年7月10日 東北機械販賣事務所 (浅野一敏和則) 新潟県会員	北上川内道沿線下水道事務所長	北上川内道沿線下水道事務所長
40	平成18年7月10日 東北機械販賣事務所 (浅野一敏和則) 新潟県会員	[同]文部省東北地方整備局下水道事務所長	北上川内道沿線下水道事務所長
41	平成18年7月10日 東北機械販賣事務所 (浅野一敏和則) 新潟県会員	久慈地盤開発株式会社代表取締役社長	久慈市
42	平成18年7月11日 馬頭鉄道 (一期) 飯泉本社事業	中央土木工事部河川整備課水利事業所長	中央土木工事部河川整備課水利事業所長
43	平成18年7月11日 馬頭鉄道 (一期) 飯泉本社事業	電気設備課河川整備課水利事業所長	電気設備課河川整備課水利事業所長
44	平成18年7月11日 一般社員	一般社員 (会員登録) (会員登録)	一般社員 (会員登録) (会員登録)
45	平成18年7月12日 一般社員	一般社員 (会員登録) (会員登録)	六ヶ八町
46	平成18年7月13日 農川漁業合資會社代表取締役社長	林業技術監修課東北漁業整備局下水道事務所長	青森市
47	平成18年7月14日 農川漁業合資會社代表取締役社長	林業技術監修課東北漁業整備局下水道事務所長	青森市
48	平成18年7月14日 泊務営業 (支店) 事業	財團法人水資源開拓・開拓企画会員 (セイタ) 所長	・鹿島
49	平成18年7月18日 新竹空港行政監督機関事務室 便木清田也 (会員登録)	筑前松浦港東北港湾運輸監修課企画室事務所長	花卷市
50	平成18年7月26日 農川漁業合資會社代表取締役社長	[同]文部省東北地方整備局下水道事務所長	青森市
51	平成18年7月28日 一般社員 (会員登録) (会員登録)	山形県立水産試験場下水道事務所長	盛岡市
52	平成18年7月31日 一般社員	山形県立水産試験場下水道事務所長	山形市
53	平成18年8月1日 主要施設方針人 (幹部) 佐藤浩然 (会員登録)	久慈地盤開発株式会社代表取締役社長	可能門あり△
54	平成18年8月1日 地盤開拓整備事業者 (会員登録)	筑前松浦港東北港湾運輸監修課企画室事務所長	花卷市
55	平成18年8月12日 一般社員	一般社員 (会員登録) (会員登録)	野田崎町
56	平成18年8月12日 一般社員 (会員登録)	山下合一造跡	・野代村
57	平成18年8月12日 主要施設方針人 (幹部) 佐藤浩一 (会員登録)	久慈地盤開発株式会社代表取締役社長	花卷市
58	平成18年8月12日 構造物監修整備事業者 (会員登録)	久慈地盤開発株式会社代表取締役社長	金ヶ崎町
59	平成18年8月12日 道路改修事業者 (会員登録)	[同]文部省東北地方整備局下水道事務所長	花卷市
60	平成18年8月12日 道路改修事業者 (会員登録)	[同]文部省東北地方整備局下水道事務所長	花卷市
61	平成18年8月12日 一般社員 (会員登録) (会員登録)	[同]文部省東北地方整備局下水道事務所長	八幡平市
62	平成18年8月12日 西根ノイバスク改修改善事業	谷川地盤開拓株式会社代表取締役社長	谷川地盤開拓株式会社代表取締役社長
63	平成18年8月12日 等会員方道路整備事業 (釜石市本部)	釜石地盤開拓株式会社代表取締役社長	釜石市
64	平成18年8月12日 等会員方道路整備事業 (釜石市本部)	可能門あり△	可能門あり△
65	平成18年8月12日 秋田県河川整備事務所 (浅野一敏和則) 新潟県会員	長倉海岸	花卷市
66	平成18年8月12日 秋田県河川整備事務所 (浅野一敏和則) 新潟県会員	宮崎町開拓課	秋田市
67	平成18年8月12日 主要施設方針人 (幹部) 佐藤浩一 (会員登録)	宮古地盤開拓・改良研究会員 (会員登録)	大馆町開拓課
68	平成18年8月12日 主要施設方針人 (幹部) 佐藤浩一 (会員登録)	宮古地盤開拓・改良研究会員 (会員登録)	大馆町開拓課
69	平成18年8月12日 主要施設方針人 (幹部) 佐藤浩一 (会員登録)	宮古地盤開拓・改良研究会員 (会員登録)	大馆町開拓課
70	平成18年8月12日 主要施設方針人 (幹部) 佐藤浩一 (会員登録)	宮古地盤開拓・改良研究会員 (会員登録)	大馆町開拓課
71	平成18年8月12日 主要施設方針人 (幹部) 佐藤浩一 (会員登録)	宮古地盤開拓・改良研究会員 (会員登録)	大馆町開拓課

No	事件別	件 番 号	事 件 名	事 件 著	事 件 著	事 件 著	事 件 著
72	平成18年9月11日	地方道路交付金事業	以前の決算勘定に、回収合支局・本部・区域・本センターへ長	大木建設課	新潟町	新潟町	新潟町
73	平成18年9月11日	一般国道[06号]新潟市街11)道路工事	協同施工協議会・本部勘定より建設事務所長	可能地あり△	新潟市	新潟市	新潟市
74	平成18年9月11日	市営社宅事業	協同施工協議会・本部・区域・本センターへ長	新潟市建設課	北上市	北上市	北上市
75	平成18年9月11日	地域道路整備事業	協同施工協議会・本部・区域・本センターへ長	野山工道課	北上市	北上市	北上市
76	平成18年9月12日	緊急地震力消弱施設事業	協同施工協議会・本部・区域・本センターへ長	東北自動車道課	北上市	北上市	北上市
77	平成18年9月12日	校舎等改修整備事業	教育委員会・本部・区域・本センターへ長	西田道路課	一ノ関市	一ノ関市	一ノ関市
78	平成18年9月14日	地方完結道路整備事業	県立山越橋・県道98号・本部・区域・本センターへ長	定林野課	吳羽市	吳羽市	吳羽市
79	平成18年9月20日	馬鹿川治河（一期）農業水利事業	東北農業局・新潟市河川治河課農業水利事業所長	上明葉課	上越市	上越市	上越市
80	平成18年9月20日	馬鹿川治河（二期）農業水利事業	東北農業局・新潟市河川治河課農業水利事業所長	野々上川河畔課	佐渡島町	佐渡島町	佐渡島町
81	平成18年9月20日	馬鹿川治河（一期）農業水利事業	東北農業局・新潟市河川治河課農業水利事業所長	野々上川河畔課	佐渡島町	佐渡島町	佐渡島町
82	平成18年9月20日	馬鹿川治河（一期）農業水利事業	東北農業局・新潟市河川治河課農業水利事業所長	弘前道路課	弘前市	弘前市	弘前市
83	平成18年9月20日	馬鹿川治河（一期）農業水利事業	東北農業局・新潟市河川治河課農業水利事業所長	上牧川河畔課	高田町	高田町	高田町
84	平成18年9月20日	遠野第一生活排水池建設事業	人吉瀬地区方整備課・本部・区域	磐梯道路課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
85	平成18年9月20日	遠野改善工事	人吉瀬地区方整備課・本部・区域	相川1区划	磐梯町	磐梯町	磐梯町
86	平成18年9月20日	道原整善工事	人吉瀬地区方整備課・本部・区域	可能地あり△	磐梯町	磐梯町	磐梯町
87	平成18年9月23日	林業資源システム保全整備事業	内子行政監査室・森林林業課林業科整備係主任	久慈道課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
88	平成18年9月28日	一般国道新潟西側内八八八八改答工事	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	糸合農業課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
89	平成18年9月28日	一般国道新潟西側内八八八八改答工事	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	可能地あり△	磐梯町	磐梯町	磐梯町
90	平成18年9月28日	一般国道新潟西側内八八八八改答工事	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	上牧川河畔課	高田町	高田町	高田町
91	平成18年10月12日	磐之井地方整備事業	磐之井地方整備課・本部長	磐之井河畔課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
92	平成18年10月13日	致職工事(内八木須整備事業)	教育委員会・本部・区域・本センターへ長	大木建設課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
93	平成18年10月4日	特許行政制度整備事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	花卷町	花卷町	花卷町	
94	平成18年10月5日	磐之井地方整備事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	磐梯町	磐梯町	磐梯町	
95	平成18年10月12日	一般国道106号新潟市街11)道幅改築工事	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	川上川河畔課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
96	平成18年10月13日	磐之井地方整備事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	大合山河畔課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
97	平成18年10月16日	磐之井地方整備事業	教育委員会・本部・区域・本センターへ長	磐梯農業課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
98	平成18年10月16日	長柄改善工事整備事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	磐梯農業課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
99	平成18年10月17日	小之木と山頂間整備事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	磐梯農業課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
100	平成18年10月17日	磐田地区整備事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	磐梯農業課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
101	平成18年10月17日	磐田地区整備事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	磐梯農業課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
102	平成18年7月11日～12日	東北自動車道新潟（湯野～東北）新潟港事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	磐梯農業課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
103	平成18年7月11日～12日	東北自動車道新潟（湯野～東北）新潟港事業	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	磐梯農業課	磐梯町	磐梯町	磐梯町
104	平成18年7月11日～12日	一般国道312号新潟市街11)道幅改築工事	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	上野日高課	高田町	高田町	高田町
105	平成18年7月11日～12日	一般国道312号新潟市街11)道幅改築工事	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	上野日高課	高田町	高田町	高田町
106	平成18年7月11日～12日	一般国道312号新潟市街11)道幅改築工事	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	上野日高課	高田町	高田町	高田町
107	平成18年7月11日～12日	一般国道312号新潟市街11)道幅改築工事	内子行政監査室・地方整備局・河川局・河川事務所長	上野日高課	高田町	高田町	高田町

No	期合期	事 例 名	事 業 略	道 伸 名	所 在 地
108	平成18年7月12日(1)～25日	一級河川小流域治水施設整備事業	弘前市、城南町、花卷市合計4市町村整備事業	八戸側支道幹 本吉側支道幹	八戸市
109	平成18年7月12日(1)～25日	一級河川小流域治水施設整備事業	弘前市、城南町、花卷市合計4市町村整備事業	本吉側支道幹	八戸市
110	平成18年7月26日(1)～28日	伊豆の久松建設事業	[内]交通省東北地方整備局伊豆支局工事事務所長	人吉野・道幹	男爵山
111	平成18年8月11日～21日	第2次地方整備事業	久慈地方法務局土木部長	本没田道幹	久慈市
112	平成18年8月11日～21日	第2次地方整備事業	久慈地方法務局土木部長	本没田道幹	久慈市
113	平成18年8月24日(1)～25日	第2次地方整備事業	久慈地方法務局土木部長	本没田道幹	久慈市
114	平成18年9月12日(1)～25日	第2次地方整備事業	久慈地方法務局土木部長	本没田道幹	久慈市
115	平成18年9月11日	新宮竹有床基整備事業、更木新田畠(4)	弘前市、鶴岡市、仙台市上北合支那林部農業調整室長	中田代役道幹	北・下・市
116	平成18年9月11日	新宮竹有床基整備事業、更木新田畠(4)	弘前市、鶴岡市上北合支那林部農業調整室長	中田代役道幹	北・上・市
117	平成18年9月11日(1)～15日	伊豆の久松建設事業	[内]交通省東北地方整備局伊豆支局工事事務所長	片岡・道幹	片岡市
118	平成18年9月28日(1)～20日	一級河川小流域治水施設整備事業	弘前市、花巻市合計2市町村整備室長	鷹巣・道幹	大仁町
119	平成18年10月2日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	由利高原台V道幹	紫波町
120	平成18年10月2日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	由利高原台V道幹	紫波町
121	平成18年10月2日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	弘前市、鶴岡市、仙台市上北合支那林部農業調整室長	中田代役道幹	奥州山
122	平成18年10月4日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	弘前市、鶴岡市、仙台市上北合支那林部農業調整室長	中田代役道幹	北・上・市
123	平成18年10月5日(1)～6日	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	紫波町	紫波町
124	平成18年10月10日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	中田代役道幹	紫波町
125	平成18年10月5日(1)～6日	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	中田代役道幹	紫波町
126	平成18年10月10日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	弘前地方法務局農政課森林整備室長	南14・5・12道幹	弘前市
127	平成18年10月10日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	弘前地方法務局農政課森林整備室長	南14・5・12道幹	弘前市
128	平成18年10月19日(1)～20日	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	由利高原台II道幹	紫波町
129	平成18年10月11日(1)	東北横断自動車道羽林原前鳥取事業	久慈地方法務局土木部長	愛之浦	浪矢市
130	平成18年10月17日(1)	中山間地風紀合意整備事業、19号1地(4)	久慈地方法務局農政課森林整備室長	山田京原の野	久慈市
131	平成18年10月18日(1)	一般道路整備事業、人明11・5地(4)	久慈地方法務局土木部長	外原野	久慈市
132	平成18年10月18日(1)	一般道路整備事業、人明11・5地(4)	弘前市、城南町、花巻市合計3市町村整備室長	鶴来・道幹	北・上・市
133	平成18年10月19日(1)	主要施設直轄化北上橋付近地(事況説明)1書	弘前市、城南町、花巻市合計3市町村整備室長	鶴来・道幹	北・上・市
134	平成18年10月19日(1)	主要施設直轄化北上橋付近地(事況説明)1書	弘前市、城南町、花巒市合計3市町村整備室長	鶴来・道幹	北・上・市
135	平成18年10月19日(1)	範流流域整備事業、古川(4)	弘前市、城南町、花巒市合計3市町村整備室長	鶴来・道幹	北・上・市
136	平成18年10月20日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	由利高原台V道幹	紫波町
137	平成18年10月20日(1)	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	由利高原台V道幹	紫波町
138	平成18年10月23日(1)～24日	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	由利高原台V道幹	紫波町
139	平成18年10月23日(1)～24日	新宮竹有床基整備事業、南11・5地(4)	盛岡地区、弘前地区、花巻地区整備室長	由利高原台V道幹	紫波町
140	平成18年10月23日(1)	新宮竹有床基整備事業、古川(4)	弘前市、城南町、花巒市合計3市町村整備室長	可憐地(4)	奥州山
141	平成18年10月23日(1)	新宮竹有床基整備事業、古川(4)	弘前市、城南町、花巒市合計3市町村整備室長	可憐地(4)	奥州山
142	平成18年10月23日(1)～24日	新宮竹有床基整備事業、古川(4)	弘前市、城南町、花巒市合計3市町村整備室長	可憐地(4)	奥州山
143	平成18年11月1日(1)	伝城郡整備事業	鶴来・道幹	鶴来・道幹	南市

No.	調査期	事 例	事 情	事 情	調 査 名	所 在 地
144	平成18年10月25日	施城市小原役場新築更地へ	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新規開拓	北上 市
145	平成18年10月26日	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新規開拓	北上 市	
146	平成18年10月26日	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新規開拓	北上 市	
147	平成18年10月26日	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新規開拓	北上 市	
148	平成18年10月26日	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新空体有底基盤新築事業者男賀第一地(4)	新規開拓	北上 市	
149	平成18年10月26日～27日	新空体有底基盤新築事業者古城地(4)	新空体有底基盤新築事業者古城地(4)	新規開拓	奥州市	
150	平成18年10月30日	新急池方面道路整備事業	新空体有底基盤新築事業者相賀中部(5)4	新規開拓	荒井町	
151	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者相賀中部(5)4	新規開拓	荒井町		
152	平成18年11月1日	一般社団法人252分一本木地(4)	新規開拓	荒井町		
153	平成18年11月1日	新空体有底基盤新築事業者山田地(4)	新規開拓	荒井町		
154	平成18年11月1日～2日	新空体有底基盤新築事業者山田地(4)	新規開拓	荒井町		
155	平成18年11月2日	新空体有底基盤新築事業者山田地(4)	新規開拓	荒井町		
156	平成18年11月2日	合宿寮等の施設化整備事業	新規開拓	荒井町		
157	平成18年11月6日	主要地方道盛岡宮古線	新規開拓	荒井町		
158	平成18年11月9日	新空体有底基盤新築事業者福井石狩地(4)	新規開拓	荒井町		
159	平成18年10月24日	新空体有底基盤新築事業者御前左官地(4)	新規開拓	荒井町		
160	平成18年11月9日	新空体有底基盤新築事業者吉本田山地(4)	新規開拓	荒井町		
161	平成18年11月9日	新空体有底基盤新築事業者吉本田山地(4)	新規開拓	荒井町		
162	平成18年10月25日	新空体有底基盤新築事業者江内寺第一地(4)	新規開拓	荒井町		
163	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者相賀中部(5)4	新規開拓	荒井町		
164	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者相賀中部(5)4	新規開拓	荒井町		
165	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者相賀中部(5)4	新規開拓	荒井町		
166	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者相賀中部(5)4	新規開拓	荒井町		
167	平成18年10月30日～31日	新空体有底基盤新築事業者江内寺第一地(4)	新規開拓	荒井町		
168	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者江内寺第一地(4)	新規開拓	荒井町		
169	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者江内寺第一地(4)	新規開拓	荒井町		
170	平成18年11月1日	新空体有底基盤新築事業者江内寺第一地(4)	新規開拓	荒井町		
171	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者伊野所地(4)	新規開拓	荒井町		
172	平成18年10月30日	新空体有底基盤新築事業者伊野所地(4)	新規開拓	荒井町		
173	平成18年11月1日	新空体有底基盤新築事業者佐比内地(4)	新規開拓	荒井町		
174	平成18年11月1日	新空体有底基盤新築事業者佐比内地(4)	新規開拓	荒井町		
175	平成18年11月6日	新空体有底基盤新築事業者洪内地(4)	新規開拓	一関 市		
176	平成18年11月9日	新空体有底基盤新築事業者洪内地(4)	新規開拓	奥州市		
177	平成18年11月6日	401m330分野河川支流水害対策整備事業	新規開拓	奥州市		
178	平成18年11月13日～14日	新空体有底基盤新築事業者占城地(4)	新規開拓	奥州市		

No	局合期[1]	事業名	事業者	運営名	所在地
180	平成18年11月13日[1]	新谷体育館・新谷體操事業 占城也[1]	新南庄城跡町新谷體操事業 占城也[1]	新南庄城跡町新谷體操事業 占城也[1]	新相木
181	平成18年11月13日[1]-14日[1]	新谷体育館修繕 占城也[1]	新谷体育館修繕 占城也[1]	新南庄城跡町新谷體操事業 占城也[1]	一関市
182	平成18年11月13日[1]-14日[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新南庄城跡町新谷體操事業 占城也[1]	北上市
183	平成18年11月14日[1]	新谷体育館修繕 占城也[1]	新谷体育館修繕 占城也[1]	新南庄城跡町新谷體操事業 占城也[1]	一関市
184	平成18年11月15日[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新南庄城跡町新谷體操事業 占城也[1]	北上市
185	平成18年11月15日[1]-17日[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新南庄城跡町新谷體操事業 占城也[1]	北上市
186	平成18年11月16日[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新南庄城跡町新谷體操事業 占城也[1]	北上市
187	平成18年11月20日[1]	第53回新潟県地場農業生産（磐石本郷） 磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷
188	平成18年11月20日[1]	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷
189	平成18年11月20日[1]	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷
190	平成18年11月20日[1]	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷
191	平成18年11月20日[1]	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷
192	平成18年11月20日[1]	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷
193	平成18年11月24日[1]	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷地場農業生産事業 （磐石本郷）	磐石本郷
194	平成18年11月24日[1]	中田郡御代賀村地場農業生産事業 大柄施[1]	中田郡御代賀村地場農業生産事業 大柄施[1]	中田郡御代賀村地場農業生産事業 大柄施[1]	大柄町
195	平成18年11月27日[1]	一戸建106号新田山道路工事	一戸建106号新田山道路工事	一戸建106号新田山道路工事	磐梯町
196	平成18年11月27日[1]-28日[1]	伊勢外ヶ浦修復事業 内野-東和田 前古原-東 前古原-東和田 内野-東和田	伊勢外ヶ浦修復事業 内野-東和田 前古原-東 前古原-東和田 内野-東和田	伊勢外ヶ浦修復事業 内野-東和田 前古原-東 前古原-東和田 内野-東和田	磐梯町
197	平成18年11月28日[1]	新農業会社システム保全整備事業 三野野施[1]	新農業会社システム保全整備事業 三野野施[1]	新農業会社システム保全整備事業 三野野施[1]	可部町
198	平成18年11月28日[1]	新農業会社システム保全整備事業 三野野施[1]	新農業会社システム保全整備事業 三野野施[1]	新農業会社システム保全整備事業 三野野施[1]	可部町
199	平成18年11月29日[1]-30日[1]	則原タム保設改修事業 内野-東和田	則原タム保設改修事業 内野-東和田	則原タム保設改修事業 内野-東和田	磐梯町
200	平成18年11月29日[1]-30日[1]	磐梯支社改修事業 内野-東和田	磐梯支社改修事業 内野-東和田	磐梯支社改修事業 内野-東和田	磐梯町
201	平成18年11月29日[1]	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	磐梯町
202	平成18年11月30日[1]	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	磐梯町
203	平成18年11月30日[1]	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	磐梯町
204	平成18年12月1日[1]	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	下妻町内野-東和田沿岸防災事業	磐梯町
205	平成18年12月1日[1]	磐梯支社改修事業	磐梯支社改修事業	磐梯支社改修事業	磐梯町
206	平成18年12月1日[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	新谷体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯町
207	平成18年12月1日[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯町
208	平成18年12月1日[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯町
209	平成18年12月1日[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯町
210	平成18年12月1日[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯町
211	平成18年12月1日[1]-5日[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯町
212	平成18年12月1日[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯体育館修繕事業 更木新田施[1]	磐梯町
213	平成18年12月5日[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯町
214	平成18年12月6日[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯町
215	平成18年12月6日[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯体育館修繕事業 新井施[1]	磐梯町

№	篇名	書 著 名	中 文 篇 名	原 版 名	所 在 地
216	平成18年(12)11/6-11	新空体行政處基盤整備事業 断井施(く) 新空体行政基盤整備事業 田山地(く)	新空体行政處基盤整備事業 断井施(く) 新空体行政基盤整備事業 田山地(く)	西山里幹路 「山」上付跡 紫山道路設施	花巻市
217	平成18年(12)11/6-11	新空体行政基盤整備事業 田山地(く)	新空体行政基盤整備事業 田山地(く)	「山」上付跡 紫山道路設施	奥州市
218	平成18年(12)11/7-11	新空体行政處基盤整備事業 田山地(く)	新空体行政處基盤整備事業 田山地(く)	馬鹿鹿頭道路設施	一関市
219	平成18年(12)11/8-11	新空体行政處基盤整備事業 田山地(く)	新空体行政處基盤整備事業 田山地(く)	西山里幹路	花巻市
220	平成18年(12)11/8-11	新空体行政處基盤整備事業 断井施(く) 新空体行政處基盤整備事業 斷井施(く)	新空体行政處基盤整備事業 断井施(く) 新空体行政處基盤整備事業 断井施(く)	尾坂道跡 牛野町	奥州市
221	平成18年(12)11/6-11	新空体行政處基盤整備事業 斷井施(く) 新空体行政處基盤整備事業 斷井施(く)	新空体行政處基盤整備事業 断井施(く) 新空体行政處基盤整備事業 断井施(く)	牛野町 「山」上付跡 中村崎跡	奥州市
222	平成18年(12)11/6-11	新空体行政處基盤整備事業 斷井施(く) 一般財政改善事業	新空体行政處基盤整備事業 断井施(く) 一般財政改善事業	五郎宮町 「山」上付跡 五郎宮町	一関市
223	平成18年(12)11/11-11	一般財政改善事業	一般財政改善事業	「山」上付跡 五郎宮町	一関市
224	平成18年(12)11/11-11	一般財政改善事業	一般財政改善事業	「山」上付跡 五郎宮町	一関市
225	平成18年(12)11/3-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
226	平成18年(12)11/3-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
227	平成18年(12)11/3-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
228	平成18年(12)11/3-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
229	平成18年(12)11/3-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
230	平成18年(12)11/3-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
231	平成18年(12)11/14-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
232	平成18年(12)11/14-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
233	平成18年(12)11/14-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
234	平成18年(12)11/15-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
235	平成18年(12)11/18-11	磐之郷方面施設整備事業	磐之郷方面施設整備事業	「山」上付跡 五郎宮町	花巻市
236	平成18年(12)12/20/-21/11	磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	北上交通省北上東和園支所河内川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	平泉町
237	平成18年(12)12/20/-21/11	磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	北上交通省北上東和園支所河内川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	平泉町
238	平成18年(12)12/20/-21/11	磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	北上交通省北上東和園支所河内川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	平泉町
239	平成18年(12)12/20/-21/11	磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	北上交通省北上東和園支所河内川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業 (浅野・東和園) 断井施(く)	平泉町
240	平成18年(12)12/21/-22/11	新空体行政處基盤整備 沿民施(く)	新空体行政處基盤整備 沿民施(く)	大館愛地施設 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	大馆町
241	平成18年(12)12/25/-25/11	津軽方面施設整備事業	津軽方面施設整備事業	津軽方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
242	平成18年(12)12/25/-25/11	一般財政改善事業(八千葉八千葉改善工事)	一般財政改善事業(八千葉八千葉改善工事)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	一関市
243	平成18年(12)12/25/-25/11	津軽方面施設整備事業 沿民施(く)	津軽方面施設整備事業 沿民施(く)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
244	平成18年(12)12/25/-25/11	津軽方面施設整備事業 沿民施(く)	津軽方面施設整備事業 沿民施(く)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
245	平成19年1月11/11-11/11	磐之郷方面施設整備事業 沿民施(く)	磐之郷方面施設整備事業 沿民施(く)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
246	平成19年1月11/11-11/11	磐之郷方面施設整備事業 沿民施(く)	磐之郷方面施設整備事業 沿民施(く)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
247	平成19年1月11/11-11/11	磐之郷方面施設整備事業 沿民施(く)	磐之郷方面施設整備事業 沿民施(く)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
248	平成19年1月12/11-12/11	磐之郷方面施設整備事業 (深水木澤水庫)	磐之郷方面施設整備事業 (深水木澤水庫)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
249	平成19年1月12/11-12/11	磐之郷方面施設整備事業 (深水木澤水庫)	磐之郷方面施設整備事業 (深水木澤水庫)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
250	平成19年1月12/11-12/11	磐之郷方面施設整備事業 (深水木澤水庫)	磐之郷方面施設整備事業 (深水木澤水庫)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町
251	平成19年1月18/11-19/11	磐之郷方面施設整備事業 (深水木澤水庫)	磐之郷方面施設整備事業 (深水木澤水庫)	磐之郷方面施設整備事業 手向川河道事務所長 「山」上付跡 磐之郷方面施設整備事業	平泉町

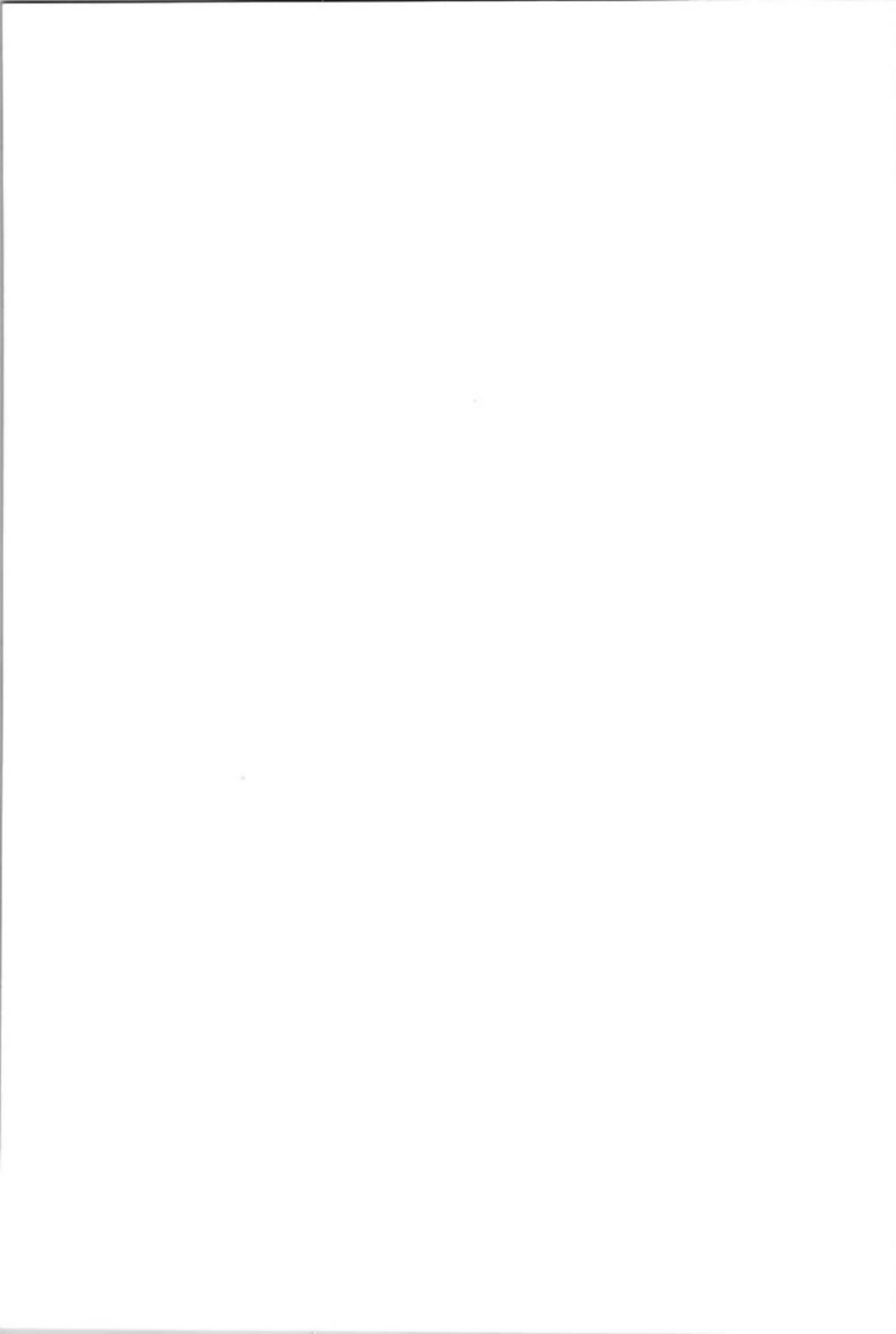
No	調査票番号	事業名	事業者	所在地
252	平成18年11月27日	一般国道106号郡山川口道路工事	「川口」交通部東方整備局下河川国道事務所長	郡山市
253	平成19年2月7日	新幹線新幹線車両整備事業 「山地」	新幹線新幹線車両整備局下河川国道事務所長	奥州市
254	平成19年2月8日	一般国道106号老川道踏切(3)改修工事	老川道踏切(3)改修工事委託会社タムズ建設事務所長	郡山市
255	平成19年2月14日	新幹線新幹線車両整備事業 「山地」	新幹線新幹線車両整備局下河川国道事務所長	奥州市
256	平成19年2月15日	新幹線新幹線車両整備事業 「本町」	新幹線新幹線車両整備局下河川国道事務所長	北上市
257	平成19年2月25日	区域別運営事業 「東井手施設」	区域別運営事業「東井手」本七ノタマ所長	一関市
258	平成19年2月28日	区域別運営事業 「東井手施設」	区域別運営事業「東井手」本七ノタマ所長	一関市
259	平成19年3月1日	新幹線新幹線車両整備事業 「郡山」	新幹線新幹線車両整備局下河川国道事務所長	奥州市
260	平成19年3月2日	一般区域事業	「川上新潟県東方整備局下河川国道事務所長」	新潟市
261	平成19年3月5日	林道整備事業	「川内」森林整備局下河川国道事務所長	男鹿市
262	平成19年3月5日	林道整備事業	「川内」森林整備局下河川国道事務所長	男鹿市
263	平成19年3月5日	林道整備事業	「川内」森林整備局下河川国道事務所長	男鹿市
264	平成19年3月12日	区域別運営事業 「遠野~東和田」西谷地区支所長	「川上」交通部東方整備局下河川国道事務所長	庄内市
265	平成19年3月12日	区域別運営事業 「遠野~東和田」西谷地区支所長	「川上」交通部東方整備局下河川国道事務所長	庄内市
266	平成19年3月12日	区域別運営事業 「遠野~東和田」西谷地区支所長	「川上」交通部東方整備局下河川国道事務所長	庄内市
267	平成19年3月12日	区域別運営事業 「遠野~東和田」西谷地区支所長	「川上」交通部東方整備局下河川国道事務所長	庄内市
268	平成19年3月29日	区域別運営事業 「石崎」	「川上」交通部東方整備局下河川国道事務所長	庄内市

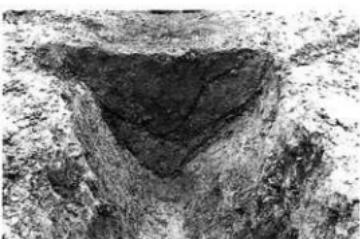
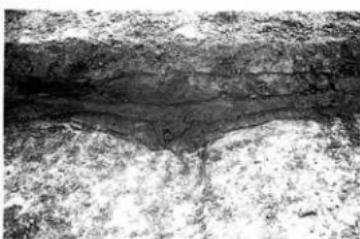
## 発掘調査一覧

No.	調査期間	事業者	事業内容	事業者	運送名	面積	所在地
1	平成18年6月22日～23日	一般社団法人「環境野鳥」(交通安全部認可登録)	「地方飛行場」本部長	施野道野群		1.00m	北上市
2	平成18年6月26日～30日	一般社団法人「環境野鳥」(交通安全部認可登録)	「地方飛行場」本部長	施野道野群		1.00m	北上市
3	平成18年7月3日～6日	一般社団法人「環境野鳥」(交通安全部認可登録)	「地方飛行場」本部長	施野道野群		1.00m	北上市
4	平成18年8月28日～30日	新谷信行組基盤整備事業 小字林地(北上市)	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長	八幡昌司所		5.0m	北上市
5	平成18年8月28日～30日	新谷信行組基盤整備事業 小字林地(北上市)	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長	八幡昌司所		5.0m	北上市
6	平成18年9月11日～13日	弘文作務 北上市実業会社(北上市)の完結調査	吉野伊香洋河原義信課長	道野道野		1.00m	北上市
7	平成18年5月16日～17日	新谷信行組基盤整備事業	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長	金剛高橋接続		8.0m	北上市
8	平成18年9月4日～6日	北上市上流流域下水道事業	北上市立委託事業部長	F型用道野		8.0m	盛岡市
9	平成19年1月6日～7日	新谷信行組基盤整備事業 小字林地(北上市)	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長	道野道野		4m	奥州市
10	平成19年2月1日8日～9日、 13日～14日、19日～21日	新谷信行組基盤整備事業 小字林地(北上市)	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長	牛井野道野		2.00m	奥州市
11	平成19年2月15日～16日	地域公共交通ネットワーク整備事業実施地区	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長 林七之助…	道野道野		2.00m	北上市
12	平成19年2月19日～20日	新谷信行組基盤整備事業	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長	道野道野		2.00m	北上市
13	平成19年2月26日～28日	UAC新潟直営事業 基盤整備事業	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長 木之助・木村洋一	源久道野		3.80m	北上市
14	平成19年3月6日～8日	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長 福永洋一	下田田大船渡野		2.00m	北上市
15	平成19年3月12日～14日	新谷信行組基盤整備事業 新川右岸地(北上市)	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長 林七之助・所々	下田田大船渡		2.00m	北野市
16	平成19年3月15日～16日、 22日～23日	新谷信行組基盤整備事業 北側内需地(北上市)	見附山地野鳥花色合支局農林整備課長	道野道野		2.00m	奥州市



### III 写真図版





蒲沢遺跡



下芋田遺跡①



下芋田遺跡②

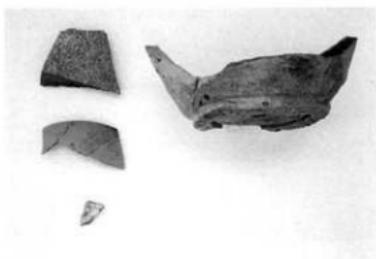


下芋田遺跡③

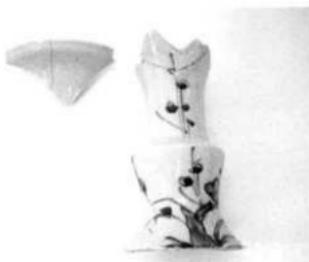


道上遺跡

写真図版 1 県内遺跡調査状況



道上遺跡出土遺物



八幡Ⅰ遺跡出土遺物



下糖塚古館遺跡出土遺物



沼尻遺跡出土遺物(1)



沼尻遺跡出土遺物(2)



沼尻遺跡出土遺物(3)

写真図版2 県内遺跡出土遺物(1)



牡丹野遺跡出土遺物(1)



牡丹野遺跡出土遺物(2)



堀野遺跡出土遺物



清田台遺跡出土遺物(1)



清田台遺跡出土遺物(2)

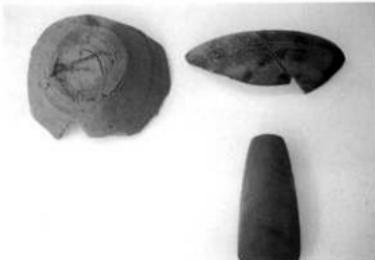


南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡出土遺物

写真図版3 県内遺跡出土遺物(2)



境遺跡出土遺物



羽黒田遺跡出土遺物



中鳴遺跡出土遺物



戸仲遺跡出土遺物



戸桜遺跡出土遺物



舟渡I遺跡出土遺物



広岡前遺跡出土遺物



夫婦石抽高野遺跡出土遺物

---

岩手県文化財調査報告書第126集  
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成18年度）

発行日 平成20年3月26日

発 行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課

印 刷 あべ印刷株式会社

奥州市水沢区佐倉河字鐘山80-4

---

